

会長のページ 災害時隣県協力	河野 雅行	3
日州医談 宮崎県移植推進財団について	小牧 斎	4
はまゆう随筆(その2)		6
先成 英一, 長沼弘三郎, 中山 健, 高村 一志, 弓削 達雄 北村 和生, 石橋 俊秀, 重永 哲洋, 上園 繁弘		
エコー・リレー(612)	板野 晋也, 高橋 典子	14
宮崎グルメ探訪 寿司処 はっとり(宮崎市)	湯池 宏明	15
メディアの目 回れ右をすれば先頭	神屋由紀子	16
身近なお困りと相談室	高山 桂	17
宮崎大学医学部だより 感染症学講座－免疫学分野－	佐藤 克明	28
専門分科医会だより 眼科医会	中村 彰伸	29
診療メモ 医薬品の乱用(オーバードーズ)について	大平 洋明	80
宮大医学部学生のページ 音楽祭実行委員長よりご報告	山本 裕子	82

あなたできますか?(令和7年度医師国家試験問題より)	13
宮崎県感染症発生動向	18
日赤だより	21
各郡市医師会役員等名簿	22
各郡市医師会だより(宮崎市郡医師会, 都城市北諸県郡医師会)	24
第183回宮崎県医師会臨時代議員会(概要)	30
第184回宮崎県医師会定例代議員会(概要)	33
第185回宮崎県医師会臨時代議員会(概要)	36
ベストセラー	38
九州医師会連合会常任委員・九州各県医師会次期会長合同会議	40
九州医師会連合会常任委員・九州各県医師会次期日医代議員協議会	42
宮崎県医師会理事業務分担	43
九州ブロック日医代議員(含・次期)連絡会議	44
令和8年度都道府県医師会勤務医担当理事連絡協議会	46
日医インターネットニュースから	48
医師協同組合だより	50
会員の異動・変更報告	54
理事会日誌	58
県医の動き	64
ドクターバンク情報	65
行事予定	69
医学会・講演会・日医生涯教育講座認定学会	73
あとがき	90

お知らせ 第27回宮崎県医師会医家芸術展	39
日本医師会公式Instagramアカウント開設のご案内	47
医師年金ご加入のすすめ	53
宮崎県医師会メーリングリストのご案内	57
第10回生命を見つめるフォト&エッセー作品募集	71
郡市医師会への送付文書	84
女性医師の皆様へ(マタニティ白衣無料貸出)	87
医療勤務環境改善支援センター	88
日州医事原稿募集のお知らせ	89
ご案内 宮崎県医師会親善ゴルフ大会	45

医師の心得

1. 私たちは、皆さまの健康状態をよくお聞きします。
2. 私たちは、皆さまに最善の医療を提供できるよう心がけます。
3. 私たちは、皆さまに医療内容をよく説明し、一緒に医療を行います。
4. 私たちは、皆さまの「知る権利」・「知りたくない権利」を大切にします。
5. 私たちは、皆さまの健康維持と医療の質の向上に尽くします。

公益社団法人 宮崎県医師会

(平成 14 年 3 月 12 日制定)

〔表紙作品：写真〕

砂漠に生きる犬

サハラ砂漠の端をラクダに乗って朝日を見るツアーの最中、たった一匹歩く犬がいて、こんな砂漠でけなげに生きているのかと感心した。ネズミを探しているらしい。その後ホテルに帰ると、残飯をもらって一所懸命食べていた。

高鍋町 おおもり ふみ ひこ
大 森 史 彦

会長のページ

災害時隣県協力

かわ の まさ ゆき
河 野 雅 行

時に大きな災害をもたらす台風シーズンがやってきました。台風のみならず地震などの大規模災害時には過去の例から1県単独では対応困難なケースも多々あります。県境を接する隣県との協力体制は必要で早急に構築しなければなりません。宮崎県は大分県、熊本県、鹿児島県に囲まれており、海を隔てて沖縄県にも接します。

隣県との協力体制構築の目的で、まずは南に県境を接し今までも相互に関連の深い鹿児島県医および沖縄県医との協議会を立ち上げ、すでに相互訪問を行いワーキンググループで数回の協議を重ねています。この協議会には鹿児島県医から牧角会長以下担当副会長、担当理事、事務局が、沖縄県医からは出口担当理事が参加されました。宮崎県医からは会長、担当副会長、担当理事、事務局が参加しました。

更に本県の行政からも担当者にご参加いただいています。本県医の災害救急担当理事は、幸い宮崎大学医学部救急・災害医学分野の落合教授です。大変心強く好都合です。

数回の協議を重ねることにより、広域災害の取り組みや各県での対応は随分と進展した感があります。直接協議しなければ理解できない事柄も多々ありました。沖縄県からは有事の際の国民保護法における対応についての問題提起がありました。集中的な大量輸送および収容を短期間内に執行しなければなりません。実施については想定以外にも大変多くの問題を抱えています。中でもHOT（在宅酸素療法）の患者さんなどは通常の移動に加えて、移動前後から移動中の管理、例えば酸素濃縮器や電源の確保が大きな問題として取り上げられました。この他、高齢者・要介護者、障害者、透析患者、人工呼吸器患者、妊産婦などの在宅療養者や入院患者、福祉施設入所者などの要配慮者の受入れ体制についても検討が進んでいます。これらは医療関係者のみの対応では限界があります。医療連携をスムーズに行うには、行政間の連携も不可欠です。県民の生活を守るためには自治体の枠を超えた協力体制が欠かせません。官民一体となり広く力を合わせての対応が必要です。その他課題は際限がありません。被災時の患者さんのカルテやデータの保存方法も考慮しなければなりません。これらには大きな費用を要するので公的な補助が必要となります。日頃からさまざまな状況を想定して訓練を続けるのは当然ながら、訓練を受けた医師が被災した際の事態も考慮して、可及的に多くの医師が訓練を受けてカバーしあえる体制づくりも必要です。

県内では郡市間の相互協力体制を構築していますが、県域の接している地域では隣県同士の協力も絶対に必要です。今後も定期的の実務者会議、全体会議を直接やWebで開催します。更に今後は熊本県、大分県とも協議会を立ち上げたいと考えています。

(令和8年7月21日)

日州医談



宮崎県移植推進財団について

宮崎県医師会 副会長 小 牧 ひとし 齋

宮崎県では、平成4年に宮崎県腎臓バンクが設立されていましたが、同25年に現在の宮崎県移植推進財団が創設されています。臓器移植に関する普及啓発を行うとともに、移植医療に関わる医療機関の臓器提供体制の強化を支援することなどにより臓器移植を推進し、県民の健康と福祉の向上に寄与することを目的としています。その目的を達成するため、移植医療の普及啓発、臓器提供意思表示の推進、腎臓移植希望者に対する支援および助成、臓器提供医療機関の体制整備支援および教育、臓器移植関係機関相互の連絡調整などの事業を実施しています。

***臓器提供医療機関の体制整備支援の取組み**

- 1) 宮崎県は臓器提供の可能な11の医療施設を腎臓提供協力病院として指定しています。腎臓提供協力病院では、医師、看護師、ソーシャルワーカーを移植情報担当者（院内コーディネーター）として委嘱し、臓器提供の意思をお持ちの方やそのご家族の願いを受け止め、叶えるための体制を整備しています。
- 2) 移植情報担当者を対象に「腎臓提供協力病院連絡会議」や研修会を開催し、県外講師による講演や意見交換などを行い、臓器提供・臓器移植に関する知識と技術の向上を図っています。

***移植医療の普及啓発の取組み**

患者やその家族の意思を尊重し支援を行っていく医療従事者の理解も重要なので、医療従事者教育機関である看護学校などへ移植医療に関する出前講座を実施しています。また、中学生高校生を含む幅広い世代を対象に啓発ポスターコンテストを行っています。

更に、移植医療のシンボルである「グリー

ンリボン」を活用したグリーンリボンキャンペーンを毎年開催し、その模様を情報誌「MOTTO」やホームページに公開しています。当財団の運営は、活動の趣旨に賛同いただいた法人や個人の方々からの賛助会費や寄付で支えられています。

当財団の沿革

- 平成4（1992）年
財団法人宮崎県腎臓バンク設立
- 平成8（1996）年
腎移植コーディネーターを設置
- 平成8（1996）年
県内で初めて献腎移植が行われる
- 平成17（2005）年
県内で初めて献腎提供が行われる
- 平成25（2013）年
宮崎県から公益認定を受け、現在の宮崎県移植推進財団となる

現在、事務局は県庁内に置かれ、事務局長および臓器移植コーディネーターの看護師で対応しています。殊に臓器移植コーディネーターの役割は大きく、臓器提供から臓器移植に至る一連のプロセスが円滑に進むように、財団事務局およびドナーが入院している病院で支援業務を担います。その他、臓器移植支援終了後の事務手続きや、医療機関の体制整備などを行い、また適正な実施の確認、臓器提供や摘出の手続きが、改正臓器移植法や医学的ガイドラインに沿って適正に行われているかを確認します。

日本臓器移植ネットワークHPの資料を見ますと、臓器提供件数は全国的には増加傾向にあり（図1）、また臓器移植件数の年次推移は明らかに増加しています（図2）。一方、宮崎県における臓器提供・移植件数の現状は以下のよ

うになっています。

令和3（2021）年度

提供（1件（心停止後））、移植（1件）

令和4（2022）年度

提供（0件）、移植（0件）

令和5（2023）年度

提供（0件）、移植（1件）

令和6（2024）年度

提供（0件）、移植（4件）

令和7（2025）年度

提供（0件）、移植（2件）

すなわち県内での移植は、県外での臓器提供に依存している状況が続いています。提供数が少ない理由としては、臓器提供者の数が少ないこと、提供施設数が少ないことなどが挙げられます。この課題に対し、普及啓発活動、院内体制整備事業が重要と考えられます。

日本における臓器移植の主な問題点を挙げます。

（1）深刻なドナー不足と待機期間の長期化

日本は欧米などの諸外国に比べ、人口あたりの臓器提供数が圧倒的に少ない水準にあります。結果として移植を待機する患者が非常に多く、待機中に命を落したり、海外渡航移植に頼らざるを得な

いケースが後を絶ちません。

（2）脳死と「人の死」に関する価値観

脳死を「人の死」と認めることへの心理的・宗教的な抵抗感や、情報不足と不安から、生前の意思表示（ドナー登録）をする人が少ない状態が続いています。

（3）移植医療の体制と人材の不足

臓器提供の意思があっても、医療機関側の人員や病床の不足、コーディネーターの逼迫などが原因で移植に至らないケースが多数報告されています。24時間体制での厳密な検査・適合判定ができる施設が限られている点も課題です。

このような現状に対し、国も移植増を目的に、それまでの国内唯一のあっせん機関である「日本臓器移植ネットワーク」の複数化を柱とする体制改革を推し進めています。

移植によって救われる命を少しでも増やしていくためには、普及啓発活動による「臓器提供の意思表示」の促進や、臓器提供医療機関の体制整備の支援など一層の努力をし、県、市町村、各医療機関、関係団体、企業が一体となって地道に事業を推し進めていく必要があると思われます。

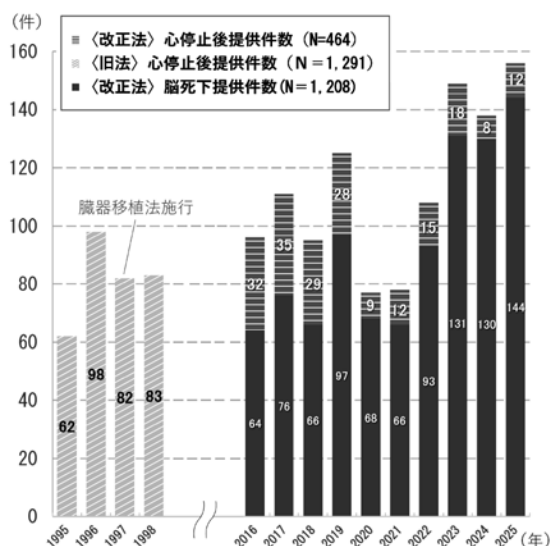


図1 臓器提供数の年次推移

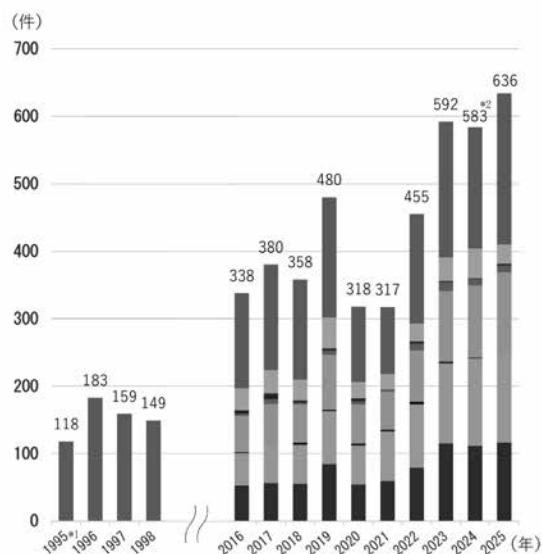


図2 臓器移植件数

（1995年4月1日～2025年12月31日 8,882件）

は ま ゆ う 随 筆

その2

(7, 8月号に分けて掲載しております)

まんぞく まんぞく

宮崎市 せんなり小児科 先 成 英 一

今年、喜寿を迎えるにあたり、今までの人生を簡単に振り返ってみたい。

現在学校健診の場に赴くと、成長曲線が提示され低身長・肥満の状態が、視覚的客観的に把握でき随分楽になりました。当時はそのような指標もなく小学校1年生の入学時の身長が100cmにも満たなかった僕は（現代では4歳児の平均身長が100cm）、相当に小柄でひ弱な男の子（いわゆるチビ）に映ったに違いない。

赤ちゃんのときには、百日咳に罹患し死に目にあったと両親から聞かされ、あまり迷うこともなく小児科医を目指した。私が生まれた終戦直後は、厚生省伝染病統計によると、麻疹の患者数181,303人に対し20,939人（10人に1人）が死亡している。当然ワクチンもなく生活環境もずいぶん悪かった時代である。

当時は「麻疹は命の品定め」と言われ、生存し得た者は幸運に恵まれ感謝しなくてはなるまい。ちなみに麻疹のワクチンは、私が医師になった2年後の昭和53年に定期接種化され、翌年には死者数が80人の2桁に減少している。

さて、タイムトンネルは苦難の時期に向かって突き進んでいった。昭和58年大学勤務医時代には、左眼の網膜剥離に水晶体の脱臼を引き起こした。視界が暗くなり、水晶体脱臼のときには油浸レンズの気泡が移動するような感覚を覚えました。また、東日本大震災発生の2011年には、突如として激しいめまいと嘔吐に襲わ

れ右耳のメニエール病が発症した。激しいめまいは治まったものの、耳鳴りと眼振はつづく続くどこまでも一直線に…また朝が来た。テレビニュースの字幕が横に流れる、眼振が止まっていないのである。のどかな雲の流れも不愉快でたまらない。そのような日が、1週間、1か月、半年…、うーん。なんと約2年間も続き終息しましたが、高度難聴という置き土産を残して去っていった。バカボンこれでいいのだ。

人生は苦境ばかりとは限りません。楽しいこと身勝手無茶なこともたくさんやってきました。鹿児島大学の教養2年生の夏休みには日本縦断自転車旅行を親の反対を押し切り敢行しました（鹿児島～稚内・宗谷岬5,800km）。

2001年の宮崎シーガイアトライアスロン大会（51歳）から2019年の青島太平洋フルマラソン（70歳）まで約100回の競技会に参加することができました。

2005 宮古島トライアスロン

(Swim 3 km, Bike 155km, Run 42.195km)

2005 桜島・錦江湾横断遠泳大会

(途中半ばで波高く撃沈)

2009 阿蘇スーパーカルデラ100kmマラソン

これは、チーム仲間との切磋琢磨と妻の温かいエールのおかげで成し得たのだと思っています。高校を卒業して以来、生家を離れて生活し、両親はすでに他界してしまいましたが、心配ばかりをかけてしまって、親不孝な息子だったのかもしれませんが。今までの過去に感謝し、まんぞく まんぞく。

「歩こう 歩こう」

延岡市 長沼医院 なが ぬま こうざぶろう
長 沼 弘三郎

日がな一日、仕事はそこそこに次に何をネタに文章を書こうかどんなふうに絵を描こうかと思案している。しかし“ばやんばやんしちよっちゃん”仕様がねえが。

そろそろ外の空気でも吸おうか。と、四国一周1,200kmの“歩き遍路”を思い浮かべた。

けど、この年齢ではねえ。これまで近くは島野浦三十三箇所や宮之浦八十八箇所を巡ったが、これから自分なりの“道歩き”を始めよう。

まず細見から川に沿ってはいった。小春日のある日、黒仁田、唐立、檜原、二股桑水流と谷間の道を伝って12km、2.2万歩歩行。

岩をはむ清流の瀬音に耳をよせ、季節柄色づいたイチョウの葉や柿の実に目がいき、右岸の高台に広がる田畑や古い民家の薈に心寄せた。二股の突当りから3km登坂して峠。それを境に眼下には二股と石上のたたずまい。溪流に稲田や家並が一筋になり、そこだけぽっかりと空きまほろばの趣。真西は茶白山を背に3つの前峰が楯となってそびえ一幅の山水画。それらの心寄せる風景が行脚にいざなわれた“わけ”だ。

次の行程は山ひとつ隔てて曾木川に沿った道だ。小原を基点に大中尾、上中尾、小中尾を周回する。一部九州自然歩道とかち合う20kmのもっぱら上がっては下る坂の一本道。

上中尾の道路脇の小高い丘にイチョウの大木。それを囲んで〇〇家の墓ではなく、一人ひとり〇〇居士、〇〇大姉と戒名のみ刻まれた小さなたくさんの草むす墓石。なかには天明、明和、天保、文化、文政等建之された年号が読める。足元を見よ。200年以上前の先祖がずっとここに眠っているのだ。往事を偲び合掌。

今日は足を延ばして日之影へ。青雲橋のたもとの中村から日之影川の左岸を2km、九十九

折の道をたどって着いたのが竹の原。朝に峡谷越えに700m先の右岸を望むと、高々の戸川岳の岩峯を従えて平清水の集落と棚田が旭日に映えている。そこを通り越して楠原、大菅、松の内の先まで10kmを歩き詰め。ふりかえると山ひだにはもえぎ色の新緑にまじって淡い色の山桜が、道の辺には紫色のシャガの花が目眩しい。各集落の辻には江戸期の庚申塚と大師像が鎮座し、神社とお堂が対になって祀られている。また道沿いには小さな古き屋敷墓が雨ざらし。多くは戒名は読めず、路傍の石に成りはて。かなしや。「死んだ男の残したものは…墓石ひとつか」とうそぶきお参り。

夕刻折り返し右岸の平清水から対岸を眺めた。丹助岳の裾野の竹の原の集落と棚田が黄昏の陽光に赤々と照らされている。川を境に此岸（この世）から彼岸（あの世）まで二つの世界のはざまが天翔けて移ろったような明るみだ。その光景こそ日之影の名の由縁か。

昨年の初冬から今春にかけて3コースの山里の道をひたすら歩きいろいろと心が奪われた。さあこれから思いをはせよう。

四国巡礼を通り越してサンティアゴ・デ・コンポステーラの巡礼路でも踏破しようか。人間やればできるのだ。



日之影

隠匿・秘匿

宮崎市 中山医院 なか やま けん 中 山 健

本年5月の環境省の発表によると、昨年度の全国のクマの出没件数は過去最高だったそうです。奈良のシカが大阪で彷徨し、国富町の法華嶽公園ではシカの群れと人との出会いが増え、我が診療所の駐車場にはタヌキが現れるなど野生動物と人との生活圏の境が曖昧になってきたようです。ちなみにタヌキについて市役所は“屍体になったら処理します”とのことでした。

閑話休題。ヒグマやキツネは食べ残した獲物を土中に埋める習性があるって「貯食行動」や「隠匿」と呼ばれ、家猫も獲物代わりのおもちゃなどを隠すなど同様の習性があるそうです。子どものころの思い出の一つですが、小川沿いの雑木の鋭い枝や棘にカエルやムシが突き刺さっているのをよく見かけました。お年寄りに尋ねると、これはトリの仕業で餌の隠匿場所が分かるよう小川の流れと空の雲を目印にした所為との説明でした。これがいわゆる「モズの早贄^{はやにえ}」です。そのころの私にも「隠匿」物がありました。一つは魚釣りの餌にする赤い小さなミミズで、台所の流しに続く溝の一隅に泥を盛りここに多数「秘匿」しました。もう一つはビー玉で、色や模様がお気に入りを選び我が家の軒下に土深く埋めました。そして長じてから更に一つです。昭和も終わりのころ、某ショッピングモールのナントカ売り出しでスイス製(?)の腕時計に目が止まりました。偽物にしては高く本物にしては安いと思われる価格で大いに迷いましたが外観に魅せられ買ってしまい、でも使用はせず家のとある場所の奥深くにしまい込みました。ところで先だっただけのことですが、使用中の腕時計が壊れサー困りました。思い出したのが「秘匿」品ですぐ見付き、ネジを巻くとなんと秒針が動き出したではありませんか。

ウン十年も放置された物とは思えません。ひょっとしたらコレ本物?! でも「鑑定団」に出す勇気はありません。

ミミズはこの世から消え去り、ビー玉はこの世の果てまで残り、腕時計は来世まで我が身とともに在るでしょうか。

古稀を迎えて

宮崎市 たかむら小児クリニック たか むら かず し 高 村 一 志

2026年3月に古稀を迎えました。古稀の祝いは次男の結婚式を兼ねてハワイで行うことになりました。3月8日にオアフ島のKo Olina(「嵐」が初めてコンサートを行った場所です)にあるChapelで結婚式を挙げました(写真1)が、当日が私の古稀の誕生日にあたり、ついでに?お祝いをしてもらいました。大変記憶に残る古稀の祝いとなり、家族みんなに感謝します。



写真1

ハワイ滞在中はダイヤモンドヘッドにも長男家族と登ることができました。10年以上前にも一度登ったことがありますが、孫たちに励まされながら70歳で登るダイヤモンドヘッドは実に楽しいものでした(写真2)。最後の夜、次男家族との食事はワイキキにあるMichel'sという

レストラン（ここも「嵐」が食事をしたレストランです）でしたが、ハワイを感じさせる浜辺のレストランで、ゆったりとした時間を過ごすことができました。



写真2

古稀になったタイミングで「たかむら小児クリニック」の院長を長男に譲ることにしました。1998年秋の開院でしたので27年以上一般小児科診療を行ってきました。一般診療を行いながら医師会の仕事も20年間続けてきました。ここ10年は発達障害や不登校などの小児神経症の診療が増えてきましたので、時間に追われいづれも中途半端になってきた感がありました。小児神経症は初診時には1時間を要することも多いです。週3回昼休みの時間に医師会の仕事に行き、以外の日には昼休み時間を削りながら小児神経症の診療を行ってきましたが、さすがに個人の体力にもクリニックの収益にも陰りが出てきました。継承は予定していた時期よりも早くなりましたが、年齢的な区切りがついた時点で後継者に委ねることができ幸いと感じています。今後は医師会の仕事と小児神経症の診療に集中できます。学校医3校、園医11園の仕事もしばらくは続けたいと思っています。自分の体力に見合う仕事をしばらく続けながら、ゆっくり収束に向かっていければと感慨深く感じているこの頃です。

海と老人

宮崎市 ^ゆ弓 ^げ削 ^{たつ}達 ^お雄

私は高齢となった今も海に出て船釣りをしています。船は内海港に係船しており、月に5・6回海に出ています。私は子どものころの小学校1年生から中学校2年生までの8年間を大分県の佐賀関町（半島）で過ごしました。小学4年生のとき終戦を迎えましたが、そのころからいくつかの山を越え、佐賀関燈台近くの磯に行き、潜ってサザエやアワビを採取し、その岩場で焼いて食べていました。そのころは食糧難でいつも空腹でしたので、あるとき潜って採取したタコを焼いて食べようと火の中に入れたところ、ドロツと溶けてしまい食べられなくなったことを思い出します。

高校生になるころ、都城市に移住し海から離れた生活を送るようになりましたが、海は私の頭から離れませんでした。熊本大学での学生生活を終え、宮崎県立病院に勤務するようになり、海が近くなったそのころから内海の磯釣りに行くようになり、そのうち船を買って内海港に係船し船釣りをするようになりました。40歳のころです。

そのころはイルカ岬沖、サボテン沖などで大アジ、イサキがよく釣れていました。いつも大漁で帰宅後、知り合いに配ったりしていました。しかし最近、今までの釣り場での釣果が随分落ちています。温暖化、あるいは暖流の北上が原因かとも云われていますがはっきりしません。それでも私は釣果を期待しながら遠くの山々を眺めたりして竿を出しています。

私の船は3～4人乗りのプレジャーモーターボートですが、いつも私一人の船釣りです。家内が「絶対に人は乗せないでください。事故が起きたら私の立場がありません」と云いますので。（死ぬときはあなた一人で）とは云いませんが。

わんどみゃー みやがっちょっ くうらわすっどォー

日南市 北村胃腸科眼科 北 村 應 旺 (和生)

あれは長男がまだ小学生で、地域のアスリートクラブに入って短距離走や長距離走に夢中になっていたころのこと。練習を見に行った妻が「今日、監督さんが練習中に言われた言葉がわからなかったんだけど」とメモを出して見せたのが冒頭の言葉。ははん…こりゃジゴロ^{*1}にしかならんわ。我という1人称は、ここ日南では2人称としても使う。我＝「わら」＝お前。「わんどみゃー」は複数形。我どもは＝お前らは。「みあがっちょっ」＝身が上がっている＝地に足がついていない＝浮ついている。「くうらわすっど^{*2}」＝拳をおみまいするぞ。以上、超訳すると「君たち（少し速いからといって）いい気になっていると、痛い目にあわせるぞ」という意味だ。まあ、港油津“海賊言葉”の一種ではある。「す、すごい」と妻。薩摩弁のおまんなあが驚くほどでもないけどな…。

私には妻も知らない黒歴史がある。幼いころ、漁業が盛んだった油津の下町の路地には悪ガキが溢れかえっていた。中学を卒業すると船に乗り、帰ってこない者も多かった（海の藻屑か風来坊）。学校は荒んでいた。気に入らない先公は呼び出して殴る、下級生には鉄拳制裁、陸上のスパイクで顔を蹴る、バットで殴る…フィルムノワールの世界だ。そんな中、都会育ちのようなお坊ちゃまの私がどうなったか？裕福だった母の実家は戦争と台風で2隻の貨物船と跡継ぎを失い没落、父は単身赴任で長期不在。トロいの群れず泣かずチクらない私は、幼稚園時代から格好のいじめの標的であった。ほぼ毎日、学校帰りに、徒党を組んで待ち伏せていた連中と闘い、逃げ、戦う。それでも小学4年生ごろから強くなり、相手をフルボッコしたり、上級生たちと大立ち回りをやらかし、教師から「ケンカ大将」の異名を得るまでになっ

た。それでも、警察沙汰の事件が起こったり、友達が短刀をカバンに忍ばせて登校するようになると、向こうっ気の強さと負けず嫌いでケンカに勝てた時代は終わったと痛感。暴力に満ちたこの世界から足を洗う決意をし、マルガリータで“伏魔殿”の地元中学に草鞋を脱いだものだ。

時は移り、私はこの母校の学校医を30年も拝命している。学校のあまりの変わりように驚くばかりだ。生徒数は激減し、みんな小粒になり極めて礼儀正しい。芋を洗うような雑多な個性の中で揉まれ、学び、生き残り、這い上がるような経験を期待するのは難しい世の中になった。

^{*1}ジゴロ：(F) gigoloとは違い“ジモトの悪ゴロ、ゴロつき”の略。「大渡海」(玄武書房、三浦しをん)にも載っていない海賊語。

^{*2}「わらア、たーきまーすどォ」もよく使った。「叩きまわす」＝ボコボコにする＝フルボッコ。監督は御面相と口が悪いだけで優しいお方。ゲンコツやビンタを食らった者などいなかったこと、申し添える。

人面魚とハート模様の鯉

延岡市 井上病院 石 橋 俊 秀

宮崎県延岡市の野口遵記念館東口の人工池で泳ぐ鯉が、人面魚らしい。宮崎日日新聞の記事を見て、現地調査に赴いた。体がオレンジ色や黄色味がかかった鯉に人面魚がいた。ジッとしていないし、水面下の鯉の写真撮影は難しかった。同市計画課によると、鯉約50匹のうち15匹ほどが人面魚と言われているそうだ。約2年前に大量発生したらしい。この記事を読んだら、串間市の「串間温泉いこいの里」にいる「ハート模様の鯉」を思い出した。

人面魚^{じんめんぎょ}とは、頭部を正面から見た場合に、人間の顔（人面）のように見える模様を持つ魚の

こと。明るい体色の鯉の鼻孔付近が黒く染まっていたり、黒っぽい体色の鯉の鼻孔付近が明るめの色をしていたりする個体を正面の斜め上から見ると、彫りの深い人の顔のように見えることが古くから知られていた。

主に鯉でそのように見えるものがそう呼ばれることが多い。銀色や黒色の真鯉を含めて全国各地で同様の外観の個体が報告されている。



写真1 人面魚



写真2 ハート模様の鯉

観客は大いに沸きました。背中にOHTANIと書かれた観客が一番多い印象で、歴史に名を刻む最高の選手をいまこの瞬間自分は肉眼でみているのだという喜びをひしひしと実感しました。

今年の学会は特発性肺線維症IPFおよび進行性肺線維症PPFの治療薬として承認された新薬ネランドミラストに関する最新の報告が注目でした。同薬は抗線維化作用および免疫調整作用を持つホスホジエステラーゼ4Bに対する選択性の高い阻害薬で、既存の抗線維化薬とは異なる作用機序を持ち、IPFだけでなく進行性線維症（PPF）に対しても適応が認められています。臨床試験FIBRONEERではプラセボと比較し52週時の努力肺活量FVCの低下を有意に抑制しました。入院や急性増悪、死亡リスクを軽減するデータの発表がありました。また関節リウマチにともなう間質性肺疾患（RA-ILD）への有効性も注目されており、既存薬との併用や病態に応じた使い分けなど今後の新たな治療展開が期待されています。今後の研究で一人でも多くの患者さんが救われることを祈らずにはいません。

初夏のオーランドは気温が30度を超え外に出るとフロリダの強烈な日差しが降り注いでいたのでほとんど涼しい学会場で過ごしました。近くに有名なテーマパークがいくつもあり好きな人にはたまらない観光地らしいのですが、炎天下に外出する勇気がありませんでした。

米国胸部学会ATS2026オーランド参加報告 ～ネランドミラストと間質性肺炎治療の新展開～

日之影町 日之影町国民健康保険病院 重 永 哲 洋

2026年5月に米国フロリダ州に行きました。オーランドは日本からの直行便がなく、経由地ロサンゼルスで大谷翔平選手出場の野球観戦もできました。ほぼ満席のスタジアムでその日はホームランは出ませんでした。鋭いタイムリーヒットをきっかけに勝利することができ



学会場エントランス

「データ」を見る隙間に流れる時間を診る ～宮崎の空の下で

日向市 千代田病院 ^{うえ} 上 ^{その} 園 ^{しげ} 繁 ^{ひろ} 弘

哲学者フッサールは、かつて「生活世界」という言葉を提唱しました。それは「数値や理屈で割り切れる科学の世界」ではなく、私たちが日々泣いたり笑ったりしながら生きている「実感に溢れた生身の世界」のことです。科学が発展しすぎると、人間本来の「生きている手応え」が置き去りにされてしまう。彼はこれを「科学の危機」と呼びました。

この話、現代の医療現場に身を置く私たちには、身に覚えがありませんか。EBMの進化は素晴らしいものですが、ともすれば私たちは「目の前の人間」を診るのではなく、「モニターの数値」を見てしまいがちです。

私が医師を志した原点は、そんな難しい理屈とは無縁の場所にありました。共働きの両親に代わり、私を慈しんでくれた祖母。その祖母をがんで亡くした5歳の冬、幼いながらも「ばあちゃんの病気を治せる医者になる」と心に誓いました。これは計算やキャリアプランではなく、愛する人を失った悲しみから溢れ出した、混じりけのない素直な「意志」でした。

しかし、いざ医師になり理想を追い求めるほど、皮肉にも私自身の「生活世界」は削られていきました。家族との夕食や子どもの寝顔よりも、病院での研鑽と患者さんの容態を優先する日々。徹夜も厭わず現場にへばりつくことが、当時の私にとっては唯一の正義でした。医療に没入するあまり、自分自身の人生という物語を二次にしてきたことは否めません。

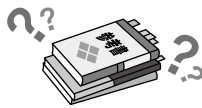
昨今、医療現場には「働き方改革」の波が押し寄せています。効率とバランスを重んじる若い世代を前に、文献を片手に患者さんの傍らで夜を明かしたあの時代の「熱量」を思い出し、

少し寂しさを覚えることもあります。しかし、それは時代遅れの頑固さかもしれません。

盆も正月も関係なく回る透析医療の現場で、長年患者さんの人生に伴走してきたことは、私の中に確かな体温として残っています。ただ、それと引き換えに家族には多くの犠牲を強いてきました。還暦を過ぎ、子どもたちも巣立ち、ようやく自分の時間を持てるようになった今、ふと鏡を見れば体力の衰えを自覚することも増えました。犠牲にしてきた自分の「生活世界」の温かさに、今になってようやく気づかされているのが、私の現在地です。

これからの時代、スマートで効率的な医療は、患者さんにとっても医療者にとっても正しい進化です。

けれども、どれほどシステムが進化しても、医療の本質は「一人の人間の生きた物語」に触れ、伴走することにある。その確信だけは、5歳の冬から変わりません。「データ」を利活用した医療の効率化を進める中で、かつて私が祖母に誓ったような、泥臭くて温かい「言葉」を交わす隙間だけは、決してなくしてはならない。次代を担う若い先生方の洗練された働き方に学びつつ、私も残された医師人生の中で、目の前の患者さんと愚直に向き合い続けたいと思っています。



あなたできますか？

—令和7年度 医師国家試験問題より—

(解答は63ページ)

1. 我が国の腎・尿管結石症に関する説明で正しいのはどれか。
 - a 好発年齢は20歳台である。
 - b 結石成分は尿酸が最も多い。
 - c 罹患率は男性より女性が高い。
 - d 糖尿病との関連が指摘されている。
 - e 膀胱・尿道結石症より罹患率が低い。
2. 胆嚢癌を示唆する胆嚢の超音波検査所見はどれか。
 - a 胆 石
 - b 肝床部浸潤
 - c 多発小隆起
 - d 有茎性病変
 - e 胆嚢壁石灰化
3. 三次予防はどれか。
 - a 高齢者への減塩教育
 - b 子どもへの予防接種
 - c 労働者への健康診断
 - d 障害者への生活技能訓練
 - e 高血圧症患者への服薬治療
4. 細菌検査の検体で原則として室温保存するのはどれか。
 - a 尿
 - b 便
 - c 喀 痰
 - d 胸 水
 - e 血 液
5. 我が国の出生数の低下に最も影響しているのはどれか。
 - a 核家族の増加
 - b 離婚率の増加
 - c 平均寿命の延伸
 - d 人工妊娠中絶件数の増加
 - e 女性人口(15～49歳)の減少
6. 左室駆出率の保たれた心不全(HFpEF)の特徴はどれか。
 - a 予後は良い。
 - b 患者数は減少している。
 - c 背景因子は若年である。
 - d 非心血管疾患死が多い。
 - e β 遮断薬の効果が強い。
7. アナフィラキシーにおけるアドレナリンの注射部位はどれか。
 - a 筋肉内
 - b 心腔内
 - c 動脈内
 - d 皮 下
 - e 皮 内
8. 2019年時点の世界の5歳未満児死亡原因で、下記のうち最も高い割合を占めるのはどれか。
 - a 下 痢
 - b 熱 傷
 - c 白血病
 - d 急性肝炎
 - e 乳幼児突然死症候群〈SIDS〉
9. 25歳の経産婦(2妊1産)。月経が遅れていることを主訴に来院した。妊娠反応陽性で、妊娠8週と診断した。妊婦健診でHIV抗原・抗体同時スクリーニング検査が陽性であった。2年前に第1子を出産している。

この時点で行う患者への説明で適切なのはどれか。

 - a 「HIVの確認検査を行いましょう」
 - b 「妊娠中はHIVの治療は行いません」
 - c 「今回は中絶することをお勧めします」
 - d 「第1子のHIV検査をさせてください」
 - e 「パートナーのHIV検査をさせてください」
10. 54歳の男性。飲み込みづらさを主訴に来院した。2か月前から、夕方に左のまぶたが下がり、物が二重に見えるようになった。1か月前から水分の飲み込みに違和感があったため受診した。診察時、左眼瞼下垂と右方視時の複視を認めた。エドロホニウムの投与により、これらの所見が一時的に改善した。

この患者に合併する可能性が高いのはどれか。

 - a 胸腺腫
 - b 胸膜中皮腫
 - c 小細胞肺癌
 - d 成熟奇形腫
 - e 悪性リンパ腫

エコー・リレー

(612回)

(南から北へ北から南へ)

ランニング

延岡市 板野内科・胃腸科医院 いた の しん や 板 野 晋 也

延岡市に帰ってきてから5年が経ちました。

それまでは福岡で病院勤務をしており、大学を卒業してからは運動というものはぼぼしておらず、延岡に

帰ってきたときには体重が人生で最大となっておりました。BMIも25に近づいており、肥満解消のために何かせねばと考えいろいろ試した結果、ランニングに落ち着き、現在まで続けております。ランニングのよいところは①シューズと動きやすい服装さえあればいつでも始められること、②一人で行けるため、時間、他の人とのタイミングなどを考えずにできること、③自分のペースでできるため、きつければ歩いたりしてもよいこと、④走っているときはきついときもあるが、終わった後の爽快感があること、だと思っております。学生のころはサッカー部に所属しておりましたが、その際は速く長く走ることを求められ、苦手な練習でした。走ることも嫌いだと自分で感じておりましたが、いざ一人でやってみると、上記のよさがあり、現在まで続けております。途中からは目標が欲しくなり、2023年からは青島太平洋マラソンに参加しており、なんとか完走することができております。今年は予定があり、青島太平洋マラソンには参加できませんが、代わりに地元延岡のマラソンに挑戦してみようかと考えております。

皆さんは何か今年挑戦することがあるでしょうか。健康のためにもランニングなど検討してみてはいかがでしょうか。

[次回は、延岡市の岡村 樹里先生をお願いします]

平和台公園

宮崎市 花ヶ島ウィメンズクリニック たか はし のり こ 高 橋 典 子

皆さんご存じの平和台公園です。3～4年前に友人に連れられて園内を歩いたことがあり、その後はしばらく足が遠のいていました。

1年ほど前に久しぶりに歩いてみて、森林浴の心地よさに時々通うようになりました。私の脚で園内をしっかりと歩くと約1時間かかります。

池の周りは平たんな道ですが、木々の中を歩くルートは結構上り下りがあるとなかなかいい運動になります。

園内で一番高い場所に第1展望台があります。西側は背の高い木々があるため遠くの山くらししか見えませんが、東側は宮崎市の北部市街地から日向灘を望むことができる気持ちのいい場所になっています。

せせらぎ水路と書かれた小川沿いの道の奥にある休憩所はあまり人が来ないため、1人でボーっと時を過ごすのに心地いい空間となっています。ここで蛍を見ることができると知り、夜間に一度訪れてみました。一人で奥の休憩所に行ってみたところ、何十年ぶりに複数の蛍が飛び交う姿を目にすることができ、感慨深いものとなりました。

舗装されていない遊歩道の途中に結構大きな前方後円墳があることには驚かされました。下北方地区には10数基の古墳があることや、宮崎神宮や皇宮神社も近くにあることから、この一帯は古代から人々が集う場所であったことがしのべれます。

置県150年の記念事業の一部として公園の整備が行われるようですが、自然環境ができるだけ多く残される内容になることを期待したいと思います。

[次回は、日南市の明野 慶子先生をお願いします]

宮崎グルメ探訪

No.17



寿司処 はっとり（宮崎市）

宮崎市 ゆち内科胃腸科クリニック ゆち 湯 池 宏 明

「いらっしゃい」。今日も大将の元気な声が響く。いつもと変わらぬ落ち着いた店内。カウンターやネタの並べられた冷蔵棚はとても綺麗に整理されており、床の隅にもちり一つない。抜かりはない。無駄なものは一切なく、自然体で力みもない。筆者が子どものころに指導を受けた剣道範士九段の構えと同じ佇まいである。人生にはさまざまな道があり、芸術家、武道家、職人、料理人、農家、漁師、研究者、医師などそれぞれ形は違えども、極めた人にはある種の通じるものがある。筆者は大学入学以来約40年宮崎に暮らしているが、実は生まれも育ちも東京である。寿司には物心つく前から慣れ親しんできた生粋の江戸っ子である。30年来の磯釣り師でもあるので、魚の鮮度にもうるさい。魚種、季節、寝かせた日数などで脂の乗りや歯

ごたえ、味も全く変わる。魚の状態を見極め、刺身の切り方、厚みを変える。毎日自分で釣った魚をいろいろな調理方法で食べているので、筆者の身体はすべて魚でできていると言っても過言ではない。30年かけて学会や研究会に参加した機会に全国の寿司屋を回ってきたが、そんな筆者がやっぱりここだと思う寿司屋が「はっとり」である。旨い。ただこの一言に尽きる。帰り際にはカウンター越しに飾られた、5年前に他界された奥様と大将の幸せそうな笑顔の写真にちらりと視線を向けたあと、「今日も旨かった。ご馳走様」と心からの感謝を伝える。大将の「還暦はまだまだひよっこ」という一言を噛みしめながら、明日からも精進しようと誓い、涼しい風が渡る夜道を歩く。



メディアの目

回れ右をすれば先頭

前西日本新聞 宮崎支局長

こう や ゆ き こ
神 屋 由紀子

若葉の季節に椎葉村で6年ぶりとなる結婚式が行われた。披露宴の会場は廃校となった旧小崎小学校の体育館。前日、訪れると住民らが長机を並べ、飾り付けに追われていた。

招待客の席に花を水に浮かべた皿が並ぶ。「庭や道端で摘んだ小崎の花です。お皿はみんなで持ち寄りました」と装飾担当の宮下絢香さん。村の獣医さんだ。高砂には金屏風の代わりに竹の竿を設え、あでやかな帯11本を垂らしていた。「体育館って殺風景だから」と各家庭のたんすに眠る帯を集めて華やかさを演出した。

新郎の生島国宜さんと新婦の森内こゆきさんは地域おこし協力隊の隊員となって移住し、知り合った。2人の相談を受けた神社の宮司で地元の組合長、椎葉勇さんは「移住者が住みやすいように地域でできることはしてあげたい」と住民の協力を取り付け、結婚式を仕切った。

当日の披露宴には勇さんの妻、智代美さん手作りのウェディングケーキが振る舞われ、引き出物には協力隊仲間の常山真央さんが編んだ小さなわらじが用意されていた。2人で人生を歩んでほしいとの願いを込めたものだ。

新婦の森内さんは村の博物館の学芸員で、存亡の危機にあった^{つが}お梅尾神楽の舞い手となり、貴重な伝統文化の担い手。宴では小崎とともに梅尾の神楽も舞われた。新郎新婦に梅尾の古老、黒木武太郎さんがお焦げを盛った皿を渡した。

「昔は焦げ付くほど幸せにと羽釜の底に付いたお焦げを贈ったんです。私が結婚して以来、見たことがない。この機会に残れば」。60年ぶりに「焦がれ取り」の儀式を復活させ、「肩の荷が下りた」と安堵した様子だった。

こんな贅沢な結婚式があるだろうか。椎葉では農作業や冠婚葬祭の助け合いを「かてーり」と呼ぶ。そうした結の輪に入って暮らす移住者同士の結婚に私は「かてーり婚」と名付けた。

人口減少が社会問題だ。究極の過疎地で人々は何を思うのか。JR日向市駅から日に2本の椎葉行きバスで通い、こうした風景を追った。コンビニもなく、不便で効率の悪い地域である。厳しい環境だからこそ「ないこと」を嘆くのではなく、「かてーり婚」のように工夫を凝らし、喜びを見いだす自立した営みに驚嘆した。

経済的な指標でみれば取り残されているのかもしれない。でも回れ右をすれば先頭に立っている。そんな豊穡な世界があるのではないか。宮崎に駐在した4年間、椎葉をはじめ、県内各地でみたそうした風景が今も心に残る。

■ ■

弊社は7月末で宮崎支局を休止しました。前身の福岡日日新聞が1927年に宮崎通信部を開設して以来、長年、支えてくださった方々、本欄で歴代支局長に原稿を書く場を与えてくださった宮崎県医師会にお礼を申し上げます。

身近なお困りごと相談室

本コーナーでは、「医療機関での身近な疑問や質問」について、各分野の専門家が回答いたします。

第60回 SNSでの診療相談の法的リスク

**Q.**

診療時間外に患者からSNSで症状に関する相談が届くことがあり、緊急性が低いと判断した場合には簡単な助言を返信しています。しかし、診療行為とみなされる可能性や、返信内容に基づく症状悪化時の責任範囲について不安があります。医療機関としてLINEなどのメッセージアプリでの相談対応はどこまで許容されるのでしょうか。また、診療契約の成立や医師法上の問題点、トラブル回避のための運用ルール（返信内容・注意書き・対応時間など）についてご教示ください。

近年ではSNSやラインの普及にともなって、患者から医療機関への連絡手段としてこれらのツールが活用されています。確かに、患者にとっては身近で便利な連絡手段ですが、医療機関側としては、安易な返信が診療行為と評価されたり、症状悪化時の責任を問われたりするおそれがあるため、慎重な運用が必要です。

まず、予約変更、診療時間の案内、受診方法の説明、一般的な注意喚起など、事務連絡や受診案内の範囲であればLINEでのやり取りが問題になることはないでしょう。しかし、個別の症状に対して「受診しなくてよい」「しばらく様子を見てよい」「この薬を増やしてよい」などの具体的診察行為と評価される内容を返信した場合には、オンライン診療として診療契約が成立する可能性があるため、控えるべきです。

特に注意すべきは、患者が医療機関からの返信を信頼して受診を控え、その後症状が悪化した場合です。この場合、「相談したのに適切に受診を促されなかった」「大丈夫と言われたので救急受診しなかった」といったクレームが生じる可能性があるため、緊急性が低いと思われる場合であっても、診察と思われる表現は避けるべきです。

実務上は、LINEなどの利用目的を「予約・事務連絡・受診案内」に限定し、症状相談が届いた場合には、「メッセージのみでは正確な診断や緊急性の判断はできない」「症状が続く場合や不安がある場合は診療時間内に受診または電話相談をしてほしい」「緊急の場合は返信を待たず救急外来または119番を利用してほしい」といった定型的な案内を行うのが安全です。

また、診療時間外や休診日は返信できない場合があること、LINEなどは緊急相談窓口ではないことを、初回登録時の自動返信で明示しておくことも重要です。スタッフが対応する場合には、医学的判断に踏み込まないよう、使用できる文例をあらかじめ決めておくべきです。

患者の利便性を高めることは大切ですが、曖昧な善意の返信が、かえって患者と医療機関双方に不利益を生じさせることがあります。SNS対応は、便利な連絡手段として活用しつつも、診療そのものとは明確に区別し、受診につなげるための窓口として運用することが、トラブル予防の観点から重要です。

(回答 宮崎県医師協同組合 顧問弁護士
弁護士法人きさらぎ 代表弁護士 高山 桂)

A.

<医療機関での身近な疑問、質問をお寄せください>

- 文字数：200字以内
- 質問はメール (genko@miyazaki.med.or.jp), FAX, 郵送などでお送りください。
※匿名での掲載になります。採否は広報委員会にご一任ください。

宮崎県感染症発生動向 ～6月～

令和8年6月1日～令和8年6月28日（第23週～第26週）

■全数報告の感染症

1類：報告なし。

2類：○結核10例（男性2例・女性8例）：保健所別報告数は【図1】，病型別報告数は【表1】，年齢別報告数は【表2】のとおりであった。

3類：○腸管出血性大腸菌感染症5例：都城（3例），宮崎市（2例）保健所管内から報告があった。患者が1例，無症状病原体保有者が4例であった。年齢別報告数は【表3】，原因菌は【表4】のとおりであった。主な症状として腹痛，水様性下痢，血便がみられた。

4類：○日本紅斑熱2例：宮崎市，小林保健所管内から報告があった。年齢は60歳代と70歳代で，性別は女性であった。主な症状として発熱，刺し口，発疹，肝機能異常等がみられた。

○レジオネラ症2例：延岡，日南保健所管内から報告があった。年齢は50歳代と80歳代で，性別は男性であった。病型はいずれも肺炎型であった。主な症状として発熱，咳嗽，呼吸困難，肺炎等がみられた。

5類：○ウイルス性肝炎1例：宮崎市保健所管内から報告があった。年齢は40歳代で，性別は男性であった。病型はB型で，主な症状として全身倦怠感，嘔吐，褐色尿，発熱，肝機能異常，黄疸がみられた。

○後天性免疫不全症候群1例：宮崎市保健所管内から報告があった。年齢は30歳代で病型はAIDSであった。AIDS指標疾患はニューモシスティス肺炎で，主な症状として呼吸困難，発熱，咳がみられた。

○侵襲性肺炎球菌感染症1例：宮崎市保健所管内から報告があった。年齢は70歳代で，主な症状として発熱，肺炎，菌血症がみられた。

○水痘（入院例）2例：宮崎市，延岡保健所管内から報告があった。年齢は10歳代と40歳代であった。病型はいずれも臨床診断例で，主な症状として発熱，発疹がみられた。

○多剤耐性緑膿菌感染症2例：宮崎市保健所管内から報告があった。年齢は70歳代と90歳代で，主な症状として肺炎がみられた。

○梅毒7例（男性4例・女性3例）：宮崎市（4例），都城（2例），延岡（1例）保健所管内から報告があった。病型別報告数は【表5】，年齢別報告数は【表6】のとおりであった。主な症状として初期硬結，鼠径部リンパ節腫脹がみられた。

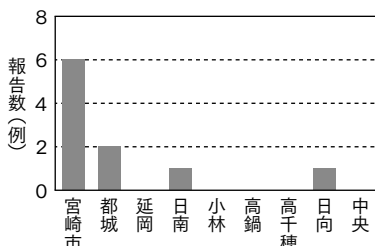


図1 結核 保健所別報告数(例)

表1 結核 病型別報告数

肺結核	3
その他の結核 (腸結核，結核性胸膜炎)	2
無症状病原体保有者	5

表2 結核 年齢別報告数(例)

年齢	報告数
10歳代	1
20歳代	1
40歳代	1
80歳代	5
90歳代	1
100歳代	1

表3 腸管出血性大腸菌感染症 年齢別報告数(例)

年齢	報告数
20歳代	1
40歳代	1
50歳代	2
70歳代	1

表4 腸管出血性大腸菌感染症 原因菌別報告数(例)

原因菌	報告数
O157 (VT2)	2
O26 (VT1)	1
O血清群不明 (VT1)	1
O血清群不明 (VT2)	1

表5 梅毒 病型別報告数(例)

早期顕症梅毒 I 期	1
晩期顕症梅毒	1
無症状病原体保有者	5

表6 梅毒 年齢別報告数(例)

年齢	報告数
20歳代	2
30歳代	1
40歳代	1
50歳代	1
70歳代	1
80歳代	1

○播種性クリプトコックス症1例：都城保健所管内から報告があった。年齢は80歳代で、主な症状として発熱、意識障害、真菌血症がみられた。

○百日咳2例：宮崎市保健所管内から報告があった。年齢は10歳代であった。主な症状として持続する咳、夜間の咳き込み、呼吸苦がみられた。ワクチン接種歴はいずれも不明であった。

■5類定点報告の感染症

定点からの患者報告総数（急性呼吸器感染症は除く）は1,507人（定点あたり87.1）で、前月の85%，例年（新型コロナウイルス感染症・急性呼吸器感染症は除く）の65%であった。急性呼吸器感染症の患者報告総数は4,303人（定点あたり153.7）で、前月の約108%であった。

前月に比べ増加した主な疾患は新型コロナウイルス感染症、RSウイルス感染症で、減少した主な疾患はA群溶血性レンサ球菌咽頭炎、水痘、手足口病であった。また、例年同時期と比べて報告数の多かった主な疾患はRSウイルス感染症であった。

新型コロナウイルス感染症の報告数は601人（21.5）で前月の約3.8倍であった。延岡（39.0）、日南（30.0）、宮崎市（27.2）保健所からの報告が多く、15歳未満が全体の約9割を占めた。

RSウイルス感染症の報告数は67人（4.5）で前月の約1.2倍、例年の約5.6倍であった。日向（14.0）、高鍋（9.0）、延岡（8.0）、中央（8.0）保健所からの報告が多く、2歳以下が全体の約8割を占めた。

前月との比較

	2026年6月		2026年5月		例年との比較
	報告数 (人)	定点当 たり(人)	報告数 (人)	定点当 たり(人)	
インフルエンザ	2	0.1	7	0.3	
新型コロナ※1	601	21.5	157	5.6	
RSウイルス感染症	67	4.5	58	3.9	★
咽頭結膜熱	33	2.2	38	2.5	
溶レン菌咽頭炎※2	124	8.3	215	14.3	
感染性胃腸炎	336	22.4	328	21.9	
水痘	10	0.7	30	2.0	
手足口病	220	14.7	558	37.2	
伝染性紅斑	5	0.3	11	0.7	
突発性発しん	27	1.8	36	2.4	
ヘルパンギーナ	26	1.7	70	4.7	
流行性耳下腺炎	2	0.1	2	0.1	
急性出血性結膜炎	0	0.0	0	0.0	
流行性角結膜炎	50	8.3	42	7.0	
細菌性髄膜炎	0	0.0	0	0.0	
無菌性髄膜炎	0	0.0	0	0.0	
マイコプラズマ肺炎	4	0.6	1	0.1	
クラミジア肺炎	0	0.0	0	0.0	
感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	0	0.0	0	0.0	
急性呼吸器感染症	4,303	153.7	3,989	142.5	

★例年同時期【新型コロナウイルス感染症流行前5年間（2015-2019）の平均】より報告数が多い

※1 新型コロナウイルス感染症

※2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

■病原体検出情報（微生物部）

★急性呼吸器感染症（Acute Respiratory Infection：ARI）

検出病原体			検出数
インフルエンザ ウイルス	A型	AH1pdm09	0
		AH3	0
	B型	ビクトリア系統	0
		山形系統	0
新型コロナウイルス			8
RSウイルス	A型		1
	B型		0
パラインフルエンザ ウイルス	1型		0
	2型		0
	3型		1
	4型		0
ヒトメタニューモウイルス			2
ライノウイルス			2
エンテロウイルス			1
アデノウイルス			0
ライノウイルス・アデノウイルス			2
ライノウイルス・新型コロナウイルス			1
検出せず※ ²			21
受付検体数			39

○急性呼吸器感染症（ARI）※1サーベイランス検体について、急性呼吸器感染症サーベイランス遺伝子検査マニュアルに従い、検査を実施した。

※1 急性呼吸器感染症（ARI）：咳嗽、咽頭痛、呼吸困難、鼻汁、鼻閉のいずれか1つ以上の症状を呈し、発症から10日以内の急性的な症状であり、かつ医師が感染症を疑う外来症例

※2 左記のいずれのウイルスも検出されなかった検体数を計上

	検出病原体		件
	細菌	ウイルス	
細菌	EPEC（OUT：HUT）		1
	Salmonella Thompson（O7：k：1,5）		1
	EPEC（OUT：HNM）		1
ウイルス	Parvovirus B19		2
	Coxsackie virus A6		1

■月報告対象疾患の発生動向〈2026年6月〉

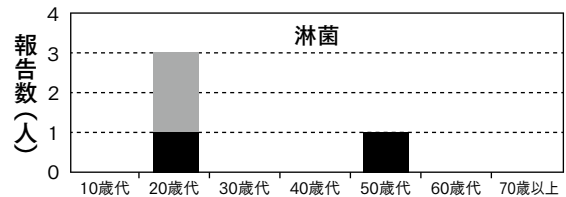
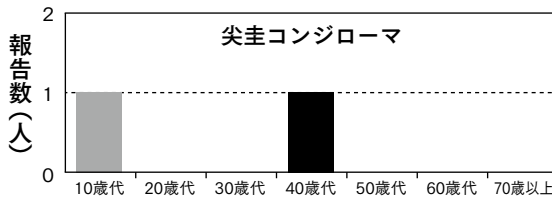
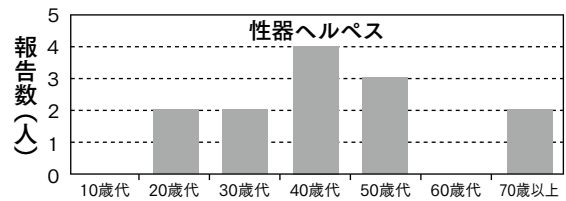
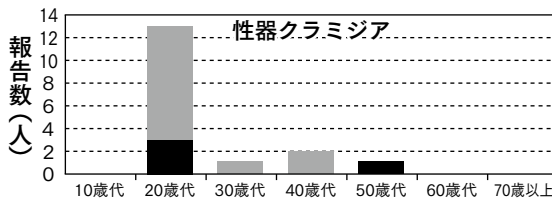
□性感染症

【宮崎県】 定点医療機関総数：13

定点医療機関からの報告総数は36人（2.8）で、前月比103%とほぼ横ばいであった。また、昨年6月（2.2）の約1.2倍であった。

《疾患別》

- 性器クラミジア感染症：報告数17人（1.3）で、前月の約0.8倍、昨年6月の約1.2倍であった。20歳代が全体の約8割を占めた。（男性4人・女性13人）
- 性器ヘルペスウイルス感染症：報告数13人（1.0）で、前月の約1.9倍で、昨年6月の約1.3倍であった。（女性13人）
- 尖圭コンジローマ：報告数2人（0.15）で、前月の約2.0倍、昨年6月と同率であった。（男性1人・女性1人）
- 淋菌感染症：報告数4人（0.31）で、前月の約0.7倍、昨年6月の約1.3倍であった。（男性2人・女性2人）



■男 ■女

□薬剤耐性菌

【宮崎県】 定点医療機関総数：7

定点医療機関からの報告総数は16人（2.3）で、前月比89%と減少した。また、昨年6月（1.6）の約1.5倍であった。

《疾患別》

- メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症：報告数16人（2.3）で、前月の約0.9倍、昨年6月の約1.5倍であった。70歳以上が全体の半数を占めた。
- ペニシリン耐性肺炎球菌感染症：報告なし。

（宮崎県衛生環境研究所）

日赤だより

【日本赤十字社宮崎県支部】

赤十字の災害救護活動

大規模な災害発生に際して、生命の危険にさらされている被災者の救護にあたりとともに、被災者に寄り添いながら復旧・復興に向けた活動を心と体の両面からサポートすることは、災害医療に課された大切な使命のひとつとなってきたように思います。こうした災害救護活動への住民の期待は、阪神・淡路大震災を契機として、度重なる災害対応を積み重ねる中で、次第に大きくなってきたと感じています。

今日では、DMATをはじめとした災害に特化した専門チームが、災害拠点病院やボランティア団体などに結成され、また、これらの活動を調整する仕組みが各地に構築されました。万一に備えての地域を挙げた訓練もよく見られる光景となっています。わたくしたち日本赤十字社は、その一翼を担うべく積極的に参画しています。

もともとは西南戦争時の負傷者救護をきっかけにして、1877年に設立された日本赤十字社（当時は博愛社）が、災害救護活動に乗り出したのは、1888年の福島県磐梯山の噴火災害と比較的早い時期でした。第二次世界大戦が終結し、日本国内での戦時救護活動の必要性が薄らいだ後、災害救護の分野が人道支援の中心となったのは自然な流れでした。

私たちの災害救護活動は、医師、看護師、主事の6名を中心に、必要に応じて薬剤師などを加えた救護班が主体となっています。令和7年3月末時点で全国に490班の日赤救護班が組織されており、赤十字病院の設置されていない本県においても、宮崎大学医学部附属病院や県立病院、宮崎市郡医師会病院と都城市郡医師会病院のご協力により、7班の救護班が結成されています。メンバーの方々には、大変ご多忙の中、当社が行う訓練にも積極的にご参加いただいております。

日本赤十字社の災害救護活動の強みは、100年を超える長い実績・経験の積み重ねと、全国に広がるネットワークの持つ総合力です。全国の救護班は共通の訓練を受けており、さまざまな救援のための共通の資材が全国の支部や施設に備えられています。いざ、宮崎で大きな災害があったときには、全国から迅速かつ長期間にわたって支援が届く仕組みがあります。きっと医師会会員の皆様方もしっかりと連携した災害救護活動を展開できるものと考えております。

私たち日本赤十字社宮崎県支部の活動は、ご理解をいただいております皆様方からのご寄付により支えられています。宮崎に住むすべての方々の安心・安全を願う気持ちは、医師会会員の皆様方と共通です。今後とも温かいご理解とご支援をよろしくお願いいたします。

「想いの力を、救う力に」 そう、「赤十字は動いてる！」



お問い合わせ・連絡先

日本赤十字社宮崎県支部

住所 〒880-0802 宮崎市別府町3番1号

電話 0985-22-4045 FAX 0985-22-4178

E-mail miyazaki-info@miyazaki.jrc.or.jp

各郡市医師会役員等名簿

紙面の都合により、会長、副会長、理事、監事、議長、副議長のみ掲載します。

宮崎市郡医師会

(令和8年6月24日の定時総会終結後～
令和10年6月の定時総会終結時)

会 長 高 村 一 志
副 会 長 牛 谷 義 秀
〃 白 尾 一 定
〃 尾 田 朋 樹
理 事 玉 置 昇
〃 内 野 竜 二
〃 遠 藤 豊
〃 眞 柴 晃 一
〃 名 越 敏 郎
〃 中 村 究
〃 上 山 貴 子
〃 菊 池 安 剛
〃 増 田 好 成
〃 佐 藤 潤一郎
〃 喜 島 博 章
外部理事 副 島 京 子
監 事 楠 元 直
〃 石 坂 裕司郎
外部監事 加 藤 丈 司
議 長 福 元 廣 次
副 議 長 前 野 正 和

都城市北諸県郡医師会

(令和8年6月24日の定時社員総会終結後～
令和10年度の定時社員総会の終結時まで)

会 長 田 口 利 文
副 会 長 福 島 義 隆

〃 江 夏 剛
総務理事 瀬ノ口 洋 史
理 事 横 山 剛
〃 西 浦 亮 介
〃 隅 専 浩
〃 吉 見 雅 博
〃 西 浦 勇一郎
〃 原 田 健 一
〃 池之上 貴
〃 山 内 明
〃 畠 中 道 己
〃 河 野 仁 彦
外部理事 海老原 睦 仁
監 事 坂 元 一 久
〃 山 路 健
外部監事 山 下 洋 治
議 長 橋 口 兼 英
副 議 長 大 岐 照 彦

延岡市医師会

(令和8年6月25日定時総会終結後～
令和10年6月定時総会終結時)

会 長 赤 須 郁太郎
副 会 長 大 重 明 広
〃 竹 原 俊 幸
理 事 安 藤 誠
〃 井 上 英 豪
〃 池 田 典 文
〃 宝珠山 厚生
〃 岡 村 樹 里
〃 岩 谷 健 志

〃 中 尾 穂 並
〃 児 嶋 一 司
〃 能 勢 直 弘
〃 岸 昌 廣
監 事 吉 田 建 世
〃 早 田 泰 英
〃 佐 藤 信 博
議 長 溝 口 直 樹
副 議 長 大 崎 泰

日向市東臼杵郡医師会

(令和8年6月13日定時総会終結後～
令和10年6月定時総会終結時)

会 長 今給黎 承
副 会 長 堀之内 和 代
〃 森 迫 和 仁
理 事 田 代 慎二郎
〃 渡 邊 裕 之
〃 長 嶺 英 宏
〃 松 岡 敬 子
〃 堀 徹 也
〃 稲 原 芳 生
〃 伊 藤 康 司
〃 直 野 秀 和
〃 高 石 真那斗
監 事 古 賀 正 広
〃 千代反田 晋
議 長 鮫 島 貴
副 議 長 三 股 恒 夫

児 湯 医 師 会

(令和8年6月18日定時総会終結後～

令和10年6月定時総会終結時)

会 長 北 村 洋
副 会 長 鳥 原 康 治
理 事 山 中 聡
” 押 川 克 久
” 桐ヶ谷 大 淳
” 宮 尾 雄 治
” 瀧 井 英 一
” 吹 井 聖 継
” 望 月 仁 志
” 織 田 真悠子
” 坂 田 師 通
” 小 村 浩 史
監 事 内 田 俊 浩
” 山 口 政一朗
議 長 黒 木 宗 俊
副 議 長 坂 田 師 隣

西都市西児湯医師会

(令和8年6月29日定時総会終結後～

令和10年6月定時総会終結時)

会 長 松 本 英 裕
副 会 長 上 野 尚 美
” 黒 木 重 晶
” 鶴 田 曜 三
理 事 上 山 裕 史
” 大 塚 康二朗
” 片 山 陽 平
” 杉 尾 克 徳
監 事 相 澤 潔
” 岩 見 晶 臣
議 長 久 保 恵 是

副 議 長 久 保 環

南 那 珂 医 師 会

(令和8年6月5日定例総会終結後～

令和10年6月定例総会終結時)

会 長 中 村 彰 伸
副 会 長 河 野 秀 一
” 川 西 昭 人
理 事 井 藤 健
” 黒 木 和 男
” 山 田 孝 俊
” 中津留 邦 展
” 峰 松 俊 夫
” 木佐貫 篤
” 井 手 秀 幸
” 長 友 安 弘
” 中 西 千 尋
監 事 満 留 武 宣
” 山 見 信 夫
議 長 藤 浦 芳 丈
副 議 長 岡 本 将 幸

西 諸 医 師 会

(令和8年6月24日定時総会終結後～

令和10年6月定時総会終結時)

会 長 園 田 定 彦
副 会 長 竹之内 剛
” 井 尻 裕 司
理 事 吉 村 雄 樹
” 坪 内 斉 志
” 河 内 謙 介
” 堀 英 昭
” 楠 元 規 生

” 川井田 望

” 柳 邊 秀 一

監 事 内 村 大 介

” 丸 山 賢 幸

議 長 榎 健一郎

副 議 長 丹 光 明

西 臼 杵 郡 医 師 会

(令和8年6月1日定時総会終結後～

令和10年5月31日定時総会終結時)

会 長 植 松 昌 俊
副 会 長 佐 藤 元二郎
理 事 古 賀 志 朗
” 崔 林 承
” 佐 藤 祐 二
” 押 方 慎 弥
監 事 塩 月 康 弘
” 寺 尾 公 成

宮崎大学医学部医師会

(令和8年6月3日～

令和10年6月教授会まで)

会 長 賀 本 敏 行
副 会 長 盛 武 浩
理 事 落 合 秀 信
” 児 玉 由 紀
” 海 北 幸 一
” 桂 木 真 司
” 亀 井 直 輔
” 沖 田 典 子
監 事 高 橋 邦 行
” 東 美菜子

各都市医師会だより

宮 崎 市 郡 医 師 会

会 長 ^{たか}高 ^{むら}村 ^{かず}一 ^し志

宮崎市郡医師会の現執行部は、この6月から3期目を迎えることとなりました。残念なことに、20年にわたり理事、副会長を歴任された市来能成先生が勇退されました。市来先生には、特に医師会病院の運営に長年ご尽力いただき、病院の状況を熟知されていたことから、私にとっては右腕を失ったような思いです。宮崎県医師会の常任理事は引き続き務められるとのことですので、先生の今後ますますのご活躍を心よりお祈り申し上げます。また、田中宏幸理事にも14年にわたり業務を担当していただきました。この4年間は、臨床検査センター、夜間急病センター内科、社保・国保関係の業務に携わっていただき、深く感謝申し上げます。お二人の後任として、名越敏郎先生と喜島博章先生に理事として加わっていただきました。名越先生は監事から理事への就任となります。監事は、名越先生の退任にともない、楠元直先生と石坂裕司郎先生の二人体制となります。また、改正公益法人法の施行にともない、外部理事および外部監事の設置が義務付けられたことから、外部理事には副島京子先生、外部監事には加藤丈司先生に新たにご就任いただきました。

宮崎市郡医師会病院における最大の課題として、今年に入り外科医局の人事問題が顕在化してきました。一時は医師会病院から外科がなくなる危機に直面しましたが、宮崎大学外科医局のご理解を得て外部から外科医を招聘することができ、外科医療を継続できる見通しとなりました。当院から外科がなくなれば、宮崎市夜間急病センターからの外科系患者の受け入れが困難になるだけでなく、会員からの患者紹介にも対応できなくなり、宮崎県中央地区の外科医療に大きな混乱を招く可能性がありました。また、外科に限らず、麻酔科医の過重労働も顕在化しています。今後も宮崎大学医学部のご協力を仰ぎながら、なんとか外科系医療を維持していきたいと考えております。



宮崎市郡医師会新役員

役員等名簿（任期 令和8年6月24日定時総会終結後～令和10年6月定時総会終結時）

役職名	氏 名	診 療 科	所属医療機関	担 当 業 務
会 長	高村 一志	小児科	たかむら小児クリニック	総 括
副会長	牛谷 義秀	外科, 内科, 消化器内科 消化器外科, 肛門外科 整形外科, リハビリテーション科, 放射線科	クリニックうしたに	検査センター, 地域包括ケア推進センター 産業医, 地域医療Ⅲ（救急・災害） 地域保健Ⅰ（成人・介護）・地域医療Ⅰ（成人） 医師連盟, 会計
副会長	白尾 一定	外科, 消化器外科 乳腺外科	JCHO宮崎江南病院	看護専門学校, 夜間急病センター内科・外科 勤務医, 新臨床研修医制度（医師確保） 学術・健康教育・生涯教育, 社保・国保 審査基準公開, 醫友しののめ
副会長	尾田 朋樹	整形外科, リウマチ科 リハビリテーション科	尾田整形外科医院	庶務, 医事紛争, 会員福祉, 労務 医師会病院, 夜間急病センター（小児科） 会員広報・情報システム, 学校保健 地域保健Ⅱ（母子）・地域医療Ⅱ（小児）
理 事	玉置 昇	内 科	たまきクリニック	看護専門学校, 会計, 学校保健 夜間急病センター（小児科） 社保・国保, 審査基準公開, 県医師会（常任理事）
理 事	内野 竜二	外科, 内科, 消化器外科 消化器内科, 放射線科 肛門外科	猪島医院	庶務・在宅医・開業相談・事業承継・会報 地域包括ケア推進センター 地域保健Ⅰ（成人・介護）・地域医療Ⅰ（成人）
理 事	遠藤 豊	内科, 循環器内科	おおつか生協クリニック	会報, 新臨床研修医制度（医師確保） 勤務医, 学術・健康教育・生涯教育 庶務・在宅医・開業相談・事業承継
理 事	眞柴 晃一	内科, 感染症内科 リウマチ科	県立宮崎病院	医事紛争, 学術・健康教育・生涯教育 勤務医, 新臨床研修医制度（医師確保）, 感染症
理 事	名越 敏郎	内科, 循環器内科 リハビリテーション科	名越内科	医師連盟, 医師会病院, 産業医 地域医療Ⅲ（救急・災害）
理 事	中村 究	心療内科, 精神科 内科, アレルギー科	中村クリニック	産業医, 会員福祉・共済会・慶弔 醫友しののめ, 労務・労働保険
理 事	上山 貴子	婦人科, 産科	うえやま貴子クリニック	地域保健Ⅱ（母子）, 醫友しののめ 医事紛争, 会計, 県医師会（理事）
理 事	菊池 安剛	耳鼻咽喉科	菊池耳鼻咽喉科医院	検査センター, 医師連盟 夜間急病センター内科・外科 会員広報・情報システム
理 事	増田 好成	外科, 消化器外科, 整形外科 内科, 肛門外科, 泌尿器科 呼吸器内科, リハビリテーション科 放射線科, 消化器内科	増田病院	医師会病院, 地域医療Ⅲ（救急・災害） 地域保健Ⅰ（成人・介護）・地域医療Ⅰ（成人） 地域包括ケア推進センター
理 事	佐藤潤一郎	小児科	佐藤小児科	学校保健, 夜間急病センター（小児科） 地域保健Ⅱ（小児）・地域医療Ⅱ（小児） 会員福祉・共済会・慶弔
理 事	喜島 博章	消化器内科, 内科, 外科 乳腺外科, リハビリテーション科	喜島クリニック	労務・労働保険, 検査センター, 社保・国保 審査基準公開, 会員広報・情報システム
外部理事	副島 京子	公衆衛生, 放射線科	宮崎県健康づくり協会	
監 事	楠元 直	胃腸科, 内科, 放射線科	楠元内科胃腸科医院	理事の職務執行の監査
監 事	石坂裕司郎	内科, 循環器内科, 小児科 リハビリテーション科	四季クリニック	理事の職務執行の監査
外部監事	加藤 丈司	内科, 循環器内科	宮崎県健康づくり協会	
議 長	福元 廣次	外科, 内科, 胃腸科 循環器内科, リハビリテーション科	福元医院	
副議長	前野 正和	内科, 循環器内科	まえのクリニック	
顧 問	綾部 隆夫	内科, 循環器内科		
顧 問	川名 隆司	外科, 消化器外科, 小児外科 内科, 消化器内科 リハビリテーション科	川名クリニック	

各都市医師会だより

都城市北諸県郡医師会

会長 田口利文

5月の臨時社員総会において、会員の先生方からのご指名をいただき、引き続き会長をさせていただくことになりました。老人保健施設すこやか苑の閉鎖により副会長は福島義隆先生、江夏剛先生の二人体制とし、総務理事は引き続き瀬ノ口洋史先生にご就任いただきました。世界では新年早々、米国のトランプ大統領がベネズエラを攻撃し、ロシアのウクライナ侵攻も続いている中、2月末に米国はイランを攻撃しました。核開発、イスラエルとの関係、石油など多くの理由がありますが、世界が超大国に振り回されている感じがします。今回、35年ぶりにプラス3%の診療報酬改定がなされました。物価高騰対策や、人件費の高騰をふまえた対策がされたものと考えております。しかしながら足るには程遠く、今般の情勢が診療材料高騰へ与える影響が少ないことを祈るばかりです。医師会決算では、看護学校の運営は入学者の減少により、厳しい状況でした。学び直し、セカンドキャリアとして看護師を目指す人をいかに掘り起こすかが重要と考えます。医師会病院は高度急性期病床および心臓脳血管透析センターの整備が終わり、運用を開始しました。ICU8床、HCU28床の合計36床の高度急性期病床を持つ施設は224床規模では全国的にもまれと考えます。二次医療圏における急性期拠点機能病院として多くの重症救急患者を受け入れること、働く職員の負担を軽減することができるのか、経営面にはプラスに働くのか、1年後の評価を待たねばなりません。地域に信頼される医療の提供のためには、質の向上も必要です。当地域でできなかった医療を可能にするため、腎臓内科、心臓血管外科は開設しましたが、まだ人員が不足しており、求められる医療は達成できていません。循環器内科の不整脈医の充足とともに、今後も課題の解決に取り組んでいかねばなりません。健康サービスセンターは健診医および職員の取組みで、健診部門・検査部門ともにしっかりと運営できています。特に健診は順調ですが、今後は要求が厳しくなる健診精度向上に向けた対応が必要です。今後も数多くの課題に役員・会員の先生方と知恵を出し合い、頑張っていこうと考えております。

今後とも当医師会に対するご支援、ご協力よろしくお願いします。



都城市北諸県郡医師会新役員

役員等名簿（任期 令和8年6月24日の定時社員総会終結後～令和10年度の定時社員総会の終結時）

役職名	氏 名	診 療 科	所属医療機関	担 当 業 務
会 長	田口 利文	循環器科, 内科	田口循環器科・内科クリニック	会務総括, 全施設総括 医師会病院総病院長（兼 病院長）, 渉外
副会長	福島 義隆	内科, 消化器科, 小児科	ふくしまクリニック	会務総括補佐, 夜間急病センター所長 看護専門学校長, 渉外
”	江夏 剛	整形外科, リウマチ科 リハビリテーション科	江夏整形外科クリニック	会務総括補佐, 担当副会長（医師会病院） 健康サービスセンター所長, 渉外
総 務 事	瀬ノ口洋史	内科, 消化器科	瀬ノ口醫院	総務, 訪問看護ステーション所長, 労務管理 医師連盟, 自賠責, 広報, 開業相談 定款諸規程, 医事紛争
理 事	横山 剛	消化器外科, 肛門外科	横山病院	健康サービスセンター担当理事, 公衆衛生 成人病検診, 病院部会
”	西浦 亮介	内科, 腎臓内科 循環器内科, 糖尿病内科	西浦病院	医師会病院担当理事, 医療保険 レセプト査定対策
”	隅 専浩	内科, 循環器内科	すみクリニック内科・循環器内科・小児科	夜間急病センター担当理事, 救急医療（主） 地域医療マスタープラン, 災害・感染症対策
”	吉見 雅博	外 科	吉見病院	県医師会常任理事, 産業医部会 労災医部会, 地域産業保健センター
”	西浦勇一郎	耳鼻咽喉科	西浦医院	会計管理（総括）, 学術生涯教育（副） 健康教育（副）, 介護保険（副）福祉施設 労務福祉
”	原田 健一	脳神経外科	都城フォレスト・クリニック脳神経外科	介護保険（主）, 医苑（主） 医師会病院副担当理事, 救急医療（副） 夜間急病センター副担当理事
”	池之上 貴	整形外科, リウマチ科 リハビリテーション科	池之上整形外科	訪問看護ステーション担当理事 スポーツ医学, 医苑（副）
”	山内 明	内科, 小児科, 外科 消化器外科, アレルギー科	早水公園クリニック	医療情報システム, 学術生涯教育（主） 健康教育（主）, 保険診療（主） 総務（副）, 介護保険（副）
”	畠中 道己	小児科	畠中小児科医院	学校保健・検診, 乳幼児保健, 学校医部会 救急医療（副）, 夜間急病センター副担当理事
”	河野 仁彦	精神科	都城新生病院	看護専門学校副校長（管理部長）, 会員福祉 苦情処理, 勤務医部会, 保険診療（副）
* ” (外部)	海老原睦仁	皮膚科, アレルギー科	えびはら皮ふ科	
監 事	坂元 一久	胃腸科, 内科	坂元医院	
”	山路 健	外 科	山路医院	
* ” (外部)	山下 洋治		山下洋治税理士事務所	
議 長	橋口 兼英	小児科	はしぐち小児科	
副議長	大岐 照彦	胃腸科, 内科	大岐医院	

* は新任

宮崎大学医学部だより

感染症学講座 —免疫学分野—



さとう かつあき
佐藤 克明 教授

宮崎大学医学部医学科 感染症学講座 免疫学分野を担当しております。この場をお借りして講座開講13年を迎えるにあたり、謹んでご挨拶申し上げます。

平成25年3月より教授を拝命し、同分野を開講して13年目を迎えます。宮崎県医師会ならびに宮崎大学医学部の諸先生との多岐にわたるご支援を賜り、教育・学術活動に専念できましたことを大変嬉しく思い、心からお礼申し上げます。

現在、講座では准教授1名、学部准教授1名、助教1名、事務補佐員1名、技能補佐員1名の教室員が在籍しており、医学獣医学総合研究科修士課程大学院生1名を受け入れております。

当講座は、免疫系の司令塔として作用する白血球である“樹状細胞”を研究対象として、微生物感染やがんに対する生体防御機構とともに自己免疫疾患やアレルギー、移植片拒絶反応などの免疫疾患の発症・増悪機構の解明について研究を行っております。更に、これらの成果に基づいて、微生物感染、がん、免疫疾患に対する治療法の開発へつなげる応用研究を推進しております。近年、特に推進しております研究テーマの一つは「がん免疫応答制御における樹状細胞に発現する機能制御分子の役割の解明」であり、国立研究開発法人日本医療研究開発機

構の「次世代がん医療加速化研究事業」の支援を受けております。最近の主な研究成果として、「消化管Dysbiosisによる樹状細胞と自然免疫細胞の相互作用不全に基づく経口免疫寛容の破綻機構」(Cell Reports誌)、「新規樹状細胞発現免疫チェックポイント分子によるがん免疫応答制御」(Cancer Immunology Research誌)、「樹状細胞によるがん特異的T細胞応答の誘導と免疫原性がん微小環境の構築に基づくがん進展制御」(Frontiers in Immunology誌)の論文が掲載されました。Frontiers in Immunology誌論文の筆頭著者は臨床系講座から受け入れておりました博士課程大学院生であり、博士(医学)の学位が授与されました。引き続き、博士学位取得希望者の研究指導を行い、リサーチマインドを有する医師・歯科医師の育成に取り組むたいと考えております。

教育活動については医学科2年生の「免疫学・生体防御学」、看護学科1年生の「臨床病態学(免疫学分野)」の授業を担当しております。講義では学生にとって免疫学基礎知識の十分な習得を目指し、将来的に医療の現場で役立てるように創意工夫を常に心掛け、教育内容の充実に取り組んでおります。更に、医学教育の重要性を顧み、本医学部からの優秀な医療人の輩出に寄与できればと思っております。

最後になりましたが、宮崎県医師会ならびに宮崎大学医学部の諸先生には当講座が宮崎大学医学部での教育・学術活動に引き続き貢献できますようご指導とご鞭撻を賜りましたら幸甚でございます。

専 門 分 科 医 会 だ よ り

(眼科医会)



なかむら あきのぶ

中村 彰伸 会長

宮崎県眼科医会は令和8年5月現在、A会員51名、B会員71名、C会員5名、免除会員等134名で構成されています。県内5つの医療圏と宮崎大学眼科医局から推薦された理事14名（女性3名）で、奇数月に理事

会を開催し会務にあたっています。理事の先生方には「アイバンク」「CL対策」「医療対策」「男女共同参画」「勤務医対策」などの業務を担当していただき、県医師会や日本眼科医会との連携を図っています。

眼科医会主催の事業として宮崎大学眼科医局の協力をいただき、全国から専門領域トップの講師をお招きして「宮崎県眼科医会講習会」を年4回、保険診療上の疑義に対する解釈を会員へ提示する「保険研究会」を年2回開催予定です。会員の学術知識の向上及適正医療提供に寄付していると考えています。市民向け公開講演会である「目の健康講座」は、今年は休止し、来年令和9年に都城市にて開催予定です。また眼科スタッフとして必要な基礎知識を修得してもらう「眼科コメディカル講習会」、少しハイレベルな知識や技能を修得してもらう「眼科職員上級者講習会」も例年どおり予定しています。

日本眼科医会（日眼医）との連携ですが日眼医は「日本眼科医会代議員会」「全国会長会」といった各県代表者会議以外に「医療対策委員会」「全国審査委員連絡協議会」「全国乳幼児学校保険連絡協議会」「ダイバーシティ推進協議会」「全国健保担当理事連絡会」等々、眼科医

の勤務環境や診療報酬請求などあらゆる問題や課題に取り組むべく、さまざまな会を開催しています。私どももそれぞれの会へ担当理事を派遣し、その協議内容や結果について理事会報告を介し会員へ周知しています。特に「全国審査委員連絡協議会」と「全国健保担当理事連絡会」においては診療上の疑義やレセプト審査上の問題点について日眼医の見解が発出されますのでその見解をふまえ、県眼科医会としての審査上の対応を「保険研究会」の場で会員へ提示し指導しています。しかし近年選定療養や自由診療扱いとなる事案が増え、その対応や指導に腐心しているところです。

今年令和8年は当会所属の先生が学会長となって開催される全国規模の学会が数多く企画された年となりました。1月に福岡市で宮田眼科病院長の宮田和典先生（当会理事）が学会長となり「日本眼科手術学会」が開催され、5月には宮崎市で宮崎大学池田康博教授（当会理事）が学会長となり「九州眼科学会」が開催され、ともに全国から多くの先生方が参加し大盛会でした。7月末には横浜で宮田眼科病院の子島良平先生が学会長で「日本眼感染症学会」が開催予定ですし、9月には宮崎市宮崎大学ひなたキャンパスで宮崎大学主催の「日本ロービジョン学会」が開催予定となっています。県眼科医会としても寄付や会員へ学会参加への呼びかけなどのサポートをして学会を盛り上げていく予定です。

そしてこれからも今までどおり「県民の目の健康を守る」ことを第一の目標として活動してまいりますので皆様のご指導よろしくお願いたします。

第183回宮崎県医師会臨時代議員会（概要）

と き 令和8年5月19日(火)

ところ 県 医 師 会 館

1 開 会

新しい代議員が選出され最初の代議員会となることから、本会定款施行細則第17条の規定により中山代議員（宮崎）が仮議長に選出され、出席代議員を確認したうえで代議員会の成立を宣言した。

続いて、議事録署名人に牛谷代議員（宮崎）と成田代議員（宮崎）を指名し、議長、副議長の選挙に入った。

2 議長及び副議長選挙

候補者が定数と同数のため、選挙細則により投票を行わずに挙手で決議することを決定し、いずれも賛成多数により以下の2名を当選者と決定した。

議長選挙 当選者 田口 利文（都 城）

副議長選挙 当選者 北村 洋（児 湯）

3 河野県医師会長挨拶

（要旨）お忙しい中をお集まりいただき感謝申し上げます。

本日はいくつかの報告事項と、協議事項を予定している。その後、次期執行部の役員選挙について、審議をよろしく願いたい。

なお、役員に関して、西諸の吉村雄樹先生が、県医予備代議員に選出されたことにより、4月末日で「理事の辞任届」が提出され、受理していることをご報告する。本日はよろしくお願い申し上げます。

4 報 告

1) 令和8年度宮崎県医師会事業計画について
小牧副会長から、事前送付資料を基に、次のとおり報告があった。

令和8年度の事業計画は、3月10日に開催された県医師会理事会で承認されている。はじめに、県医師会の事業は、公益法人として、事業計画は基本的には大きく変えることなく、継続することが前提となっている。

重点項目については、現在、鹿児島県と進めている大規模災害への備えを、大分県、熊本県に広げていくことを記載している。

具体的事項では、日本医師会が行っている医師偏在是正に向けた広域マッチング事業と



業務提携し、県外からの医師招聘につながるよう「日本医師会ドクターバンクとの連携」を、また、我々の主張が民意を得られるよう「県民に対する医師会活動の理解促進」を追記した。

その他、「警察活動協力医部会」について、平成5年から県内警察署の警察嘱託医等を中心として、検屍技術の向上を図ることを目的に、警察医会として活動をされてこられたが、近い将来発生することが予想される大規模災害時の検案体制の確立が急務であることから、警察医会について各種部会に追加した。

今年度も、皆様のご指導とご協力をお願いして、簡単ではあるが説明に代えさせていただく。

2) 令和8年度宮崎県医師会収支予算について

金丸副会長から、事前送付資料を基に、次のとおり報告があった。

令和8年度予算は、3月10日の第2回理事会において承認を受けたので、定款61条に基づき報告させていただく。令和8年度予算作成に関する重要事項を3点説明する。

まず1点目は、予算作成方針を記載している。収入については、確実に収入が見込まれるものを固く見積もり、費用については事業内容なども精査し、実際に支出が見込まれるものを計上し、より実態に近くなるよう作成している。

2点目は、寄附金の計上についてで、令和9年度に宮崎で開催される国スポ・障スポや令和8年度に宮崎で開催予定の学会など、依頼が届いている分として、合計147万円を計

上している。

3点目は、会館返済資金積立金について説明する。令和9年12月に会館建設費9,000万円を全額返済するため、毎年1,000万円を積立てており、令和8年度が積立の最終年となる。重要事項は以上である。

続いて、令和8年度予算と令和7年度予算から収益と費用の合計額を抜粋したものである。令和8年度の収益計は4億2,129万円、費用計は4億3,737万円で、当期増減額は、1,608万円の赤字を見込んでいる。なお、右側の列に令和7年度予算とその比較増減額を記載している。収益は769万円の増であるが、受取会費だけを見ると160万円ほどの減少である。費用は407万円の増。職員人件費の減や経費節減などによる減少があるものの、それを上回る物価高の影響が見込まれる。最終的に、当期増減額の赤字額は前年度比で362万円減少となる。

過去10年の会員数および会員構成の推移について、会員数自体は10年間で207名増加しているが、A会員は29名減り、逆にB会員は149名、C会員である研修医も87名増えている。

続いて今後の見通しである。会費収入に関しては、先ほどの会員数の説明に関連するが、A会員の数は平成17年度の815名をピークに減少が続いている。加えて、高齢免除者の増加が見込まれるので収入減が続く見通しである。B会員については、平成14年度にA会員の数と逆転している。以降、卒後5年免除の効果もあり、会員数は年々増加しているが、会費収入は微増で、A B会員総額では減少の見込みである。

続いて費用については、物価高騰や人件費高騰による値上げが続いているため、負担増は続くと見込んでいるが、既存の契約内容については現状維持ではなく、費用対効果を確認のうえ、できるだけ負担増とならないよう見直しを含めて検討を行っていきたいと考えている。

財務規律について、新公益法人会計基準の適用により、名称が変わったものもあるが、まず中期的収支均衡（旧：収支相償）では、当期経常増減額はマイナス7,088万円と、赤字を見込んでいるので、±0もしくは赤字の基準を満たしている。次に公益目的事業比率は69.4%で、50%以上である条件をクリアしている。使途不特定財産（旧：遊休財産額）については、判定基準の変更があり、「単年度の公益目的事業費」から「過去5年間の公益目的事業費平均額」になった。これにより令和8年度は基準を満たす見込みとなっている。

最後に資金調達および設備投資の見込みについて、「収支に大きな影響を及ぼす額」

は、企業会計に倣い「総資産の1%を超える額」としているため、1,404万円以上のものを記載する。令和8年度においては、該当する借入れおよび設備投資の予定はない。

以上で、令和8年度収支予算の説明を終わらせていただく。

5 協 議

1) 次期理事定数について

定款施行細則第11条第3項の規定に基づき、小牧副会長が、理事数を引き続き23名とする案を提案し、審議の結果、賛成多数により次期理事数を23名とすることを決定した。

6 役員選挙

投票方法について、田口議長が、各選挙の候補者が定数と同数であるため、選挙細則第20条第1項の規定に基づき、「投票を行わずに挙手で決議する」ことおよび「複数の定員を選任する役職について一括して選任する」を提案し、いずれも賛成多数で決定した。

また、選挙細則第1条第1項の規定に基づき、会長候補者、副会長候補者、理事、監事、裁定委員、日本医師会代議員、同じく予備代議員の順に選任することを確認して選挙に入った。

* すべて届出順

1) 会長候補者選挙（定数1名）

当選者（理事兼ねる）

河野 雅行（宮 崎）

2) 副会長候補者選挙（定数2名）

当選者（理事兼ねる）

小牧 斎（宮 崎）

金丸 吉昌（宮 崎）

3) 理事選挙（定数20名）

当選者

松岡 敬子（日 向）

岡村 樹里（延 岡）

山中 聡（児 湯）

大塚康二朗（西 都）

峰松 俊夫（南那珂）

吉見 雅博（都 城）

井尻 裕司（西 諸）

落合 秀信（宮大医）

濱砂 カヨ（宮 崎）

玉置 昇（宮 崎）

田畑 直人（宮 崎）

高木 純一（宮 崎）

市来 能成（宮 崎）

上山 貴子（宮 崎）

井上 雅文（宮 崎）

大友 直樹（宮 崎）

児玉 由紀（宮大医）

赤須郁太郎（延 岡）

河原 勝博（宮 崎）

中島 紫織 (宮 崎)

4) 監事選挙 (定数3名)

当選者

宮田 純一 (延 岡)

檜原進一郎 (都 城)

中村 周治 (宮 崎)

5) 裁定委員選挙 (定数11名)

当選者

大山 秀 (西臼杵)

水野 智秀 (日 向)

山口真太郎 (児 湯)

井上 博 (延 岡)

上田 祐滋 (西 都)

濱田 義臣 (都 城)

山元 敏嗣 (南那珂)

榎 信一郎 (西 諸)

下田 和哉 (宮大医)

楠元 正輝 (宮 崎)

菊池 清文 (宮 崎)

6) 日本医師会代議員及び予備代議員選挙 (各々定数4名)

日本医師会代議員選挙

当選者

河野 雅行 (宮 崎)

小牧 齋 (宮 崎)

金丸 吉昌 (宮 崎)

市来 能成 (宮 崎)

日本医師会予備代議員選挙

当選者

田口 利文 (都 城)

北村 洋 (児 湯)

高木 純一 (宮 崎)

赤須郁太郎 (延 岡)

7 当選役員挨拶

当選役員を代表して、会長候補者に選任された河野会長が挨拶を行った。

(要旨) 次期執行部を選んでいたいただき心から感謝申し上げる。役員一同、皆様のご期待に沿うべく、地域医療と、県医師会並びに会員を守るために全力を挙げて取り組んでまいる所存である。

8 議長閉会宣言

田口議長が円滑な進行に対するお礼を述べ代議員会を閉会した。

出席代議員および出席役員は以下のとおり。

出席代議員

1 番 牛谷 義秀
2 番 菊池 安剛※
3 番 尾田 朋樹
4 番 楠元 直
5 番 栗林 忠信
6 番 桑原 正知
7 番 神尊 敏彦
8 番 増田 好成※
9 番 高村 一志
10 番 中村 究※
11 番 中山 健
12 番 名越 敏郎
13 番 成田 博実
14 番 原田 一道
15 番 原田 雄一
16 番 弘野 修一
17 番 山内 励
18 番 田口 利文
19 番 福島 義隆
20 番 江夏 剛

21 番 瀬ノ口洋史
22 番 橋口 兼英
23 番 佐藤 信博
24 番 平野 雅弘
25 番 大重 明広
26 番 竹原 俊幸
27 番 今給黎 承
28 番 堀之内和代
29 番 北村 洋
30 番 松本 英裕
31 番 中村 彰伸
32 番 井藤 健※
33 番 園田 定彦
34 番 内村 大介
35 番 植松 昌俊
36 番 賀本 敏行
37 番 沖田 典子※
39 番 桂木 真司※
40 番 東 美菜子
出席39名

※は予備代議員

出席役員

会 長 河野 雅行
副 会 長 小牧 齋
" 金丸 吉昌
常任理事 市来 能成
" 吉田 建世
" 池井 義彦
" 高木 純一
" 嶋本 富博
" 赤須郁太郎
" 大塚康二朗
" 吉見 雅博
" 玉置 昇
" 落合 秀信
理 事 峰松 俊夫
" 佐々木 究
" 上山 貴子
" 田畑 直人
" 山中 聡
" 河原 勝博
" 松岡 敬子
" 内藤 明美
監 事 中村 周治
" 宮田 純一
" 田中 穰式
出席24名

第184回宮崎県医師会定例代議員会（概要）

と き 令和8年6月20日(土)

ところ 県 医 師 会 館

1 開 会

田口議長が、代議員の定数および出席代議員を確認したうえで代議員会の成立を宣言した。

続いて議事録署名人に中山健代議員、原田一道代議員を指名した。

2 河野県医師会長挨拶

（要旨）去る5月19日には、令和8年度の事業計画、予算についてお認めいただき、更に次期の執行部を選出いただき感謝申し上げます。

本日は令和7年度の事業報告並びに決算についてご審議いただく。事業の途中経過はできるだけ頻繁に日州医事などを通じて報告している。会計も、昨年決定した予算に則り注意深く執行してきた。

医師会のやらねばならないことは増えている。必要な事項は積極的に取り組んでまいりますが、会員数は増えてもA会員が少ないために会費収入は伸び悩んでいる。それでも財政赤字にならないよう、慎重に執行した。ご審議のほどお願いしたい。

3 報 告

1) 令和7年度宮崎県医師会事業報告について

小牧副会長が定款第62条の規定に基づき、6月2日の理事会で承認された令和7年度の事業報告について事前配布資料を基に説明を行った。

（要旨）令和7年度の事業については、令和7年3月に理事会で決定した事業計画に基づき会務を行っている。

報告書は【公益1】の「生涯教育の推進と充実を図る事業」から始まり、【公益2】の「地域医療及び救急医療の充実を図り、県民

に公平な医療供給の推進を行うと共に「健康社会」の構築に寄与する事業」では、昨年度特に力を入れてきた組織強化・将来構想委員会などを記載している。【公益3】「県民の健康保持・増進に寄与する事業」【公益4】「保健事業の一体的推進を行う事業」と続き、共益的な事業を柱とした「その他の事業」となる。

コロナ禍以降、急速に普及した「Web会議システム」を、会議や研修会で可能な限り利用することにより、遠方の先生方でもご自宅や自院などで参加することが可能となっている。

先生方の移動時間削減はもちろん、交通費支給の減少による経費削減にも役立つので、今後も積極的に利用していきたいと考える。

最後になるが、本会の事業に対する皆様のご協力に心より感謝申し上げ、簡単ではあるが事業報告とさせていただきます。

4 議 事

議案第1号

令和7年度宮崎県医師会収支決算に関する件

荒木常任理事から、事前配布資料を基に、次のとおり説明があった。

（要旨）令和7年度に、特定資産である会館設備購入積立資産1,098万円を取り崩した。資料に記載のとおり、各郡市医師会を含めたTV会議システムの入替えに備えて、平成28年度から10年計画で積み立てていたが、積立期間満了のため全額を取り崩した。

なお、取り崩した積立金は、新型コロナウイルスの発生によりWeb会議が急速に普及し、TV会議システムの入替えを急ぐ必要がなくなったので、支出の予定はない。

次に、決算総額について、決算書から抜粋し

た総額である。一般正味財産の収益計は4億1,978万1,776円で、前年度決算額とほぼ同額である。費用計は4億1,472万4,384円で前年度決算比1.94%増となった。

収益から費用を引いた税引前増減額は505万7,392円。ここから経常外費用と法人税など7万1,000円を除いた税引後増減額は④489万8,772円となる。

続いて使途の限定された寄付金などが反映される、指定正味財産の増加額は0円、減少額は26万9,138円で、当期増減額は⑤マイナス26万9,138円、④と⑤を合わせた当期の正味財産増減額は462万9,634円の増であるが、前年度決算比で62.5%減となっている。

次に、令和7年度の入会金および会費の収入状況である。

まず、入会金の決算額は755万5,000円。

内訳は表の備考欄に記載のとおり、A会員の新規開業12件、管理者継承9件、親子継承7件、B会員の入会金は61名分であった。

なお、資料にはないが、前年度比で、新規開業が5件増、管理者継承が8件減、親子継承は増減なしであった。

次に、受取会費の決算額は、1億7,523万7,000円で前年度比272万6,000円の減であった。会費の内訳は備考のとおり。

続いて、過去10年分の会員数と会費収入の推移について、B会員は順調に増加しているがA会員は減少が続いている。

当年度については新規開業の数が12件であるが前年度より11名減っているため、単純計算で23名の減ということになる。会費の年額を記載しているが、A会員の減少が会費収入に大きく影響している。

続いて過去10年の決算額の推移である。

本会の収益と費用は、10年間ほぼ変わらず同じ形状で推移しているが、差額である利益が徐々に減少しており、令和7年度は、平成24年度に公益法人へ移行してから、初めて1,000万円を大きく割り込んだ。

続いて、公益法人会計基準に定められた財務

規律について説明する。

まず、中期的収支均衡は公益目的事業が赤字となっているため適合となる。法改正により、黒字は5年間で解消しなければならないが、過去の赤字と通算が可能となった。

続いて、公益目的事業比率は、67.68%になるので、50%以上という基準を満たしている。

使途不特定財産は、過去5年間の公益目的事業費の平均額を上回らないこととなった。過去5年間の平均額は5億1,861万6,595円で、当年度の使途不特定財産額は4億5,869万9,481円であるので、適合となる。

最後に、本年度決算を受けた今後の検討課題を挙げている。

まず、一つ目は医師会加入率向上に向けた取り組みについて。

令和6年度に組織強化・将来構想委員会を立ち上げ、加入率向上のための取り組みなどを行っている。先ほど説明したように、A会員は高齢化などの影響もあり減少が続いているが、B会員については取り組みの成果もあり、増加傾向となっている。

引き続き取り組みを継続し、会員数自体を引き上げ、日本医師会や郡市医師会と協力して第三者を含めた継承への対応などを検討していきたいと考えている。

二つ目は、収益と費用の見直しについて。

先般説明したとおり、当期利益の減少が顕著であるため、対応が必要な状況である。まず収益については、県の委託料および妊婦乳児健診の事務費アップに向けて県や市町村と交渉を行いたいと考えている。また、会員以外への会館貸し出し料金の見直しを行い、収入増につなげていきたいと考えている。

続いて、費用について、物価高騰により費用の増加は、ある程度は容認せざるを得ないため、まずは、日本医師会の方針と同様に印刷物の削減および電子化とWeb会議の活用を積極的に進めていきたいと考えている。

最後に三つ目、事務機能強化と経費削減のための投資について。こちらは即効性はないが、

事務局の事務作業についても時間的・金銭的な効率化を進めていく必要がある。数年で初期投資分を回収することとランニングコストを抑えることを条件に、新たなシステム導入などを検討していきたいと考えている。

以上で令和7年度決算の説明を終了する。

なお、この決算は定款第62条に基づき、5月21日に監事監査を終了し、6月2日の理事会の承認を受けたうえで、本日の代議員会にお諮りするものである。

ご審議をお願いしたい。

続いて宮田監事から監査報告が行われ、田口議長「以上の説明を受けて質問はないか」との問いに、質問もなく、採決の結果、議案第1号は賛成全員で、原案どおり承認可決された。

議案第2号

令和9年度宮崎県医師会会費賦課徴収に関する件

荒木常任理事から、定款第21条に基づき、令和9年度も令和8年度と同様に徴収したいと説明が行われ、採決の結果、議案第2号は賛成全員で、原案どおり承認可決された。

5 その他

河野会長から「ご審議いただき感謝申し上げます。今後も事業計画に則り、健全運営で業務を執行してまいりたい」との謝辞があった。

6 議長閉会宣言

最後に田口議長が、この定例代議員会の終結をもって現役員の任期が終わることから、感謝の言葉を述べ、閉会を宣言した。

出席代議員および出席役員は以下のとおり。

出席代議員

1番 田口 利文
2番 福島 義隆
3番 江夏 剛
4番 瀬ノ口洋史
5番 橋口 兼英
6番 池田 典文※
7番 平野 雅弘
8番 大重 明広
9番 竹原 俊幸
10番 今給黎 承
11番 堀之内和代
12番 北村 洋
13番 黒木 重晶※
14番 中村 彰伸
15番 井藤 健※
16番 園田 定彦
17番 内村 大介
20番 盛武 浩

22番 高橋 邦行※
24番 牛谷 義秀
25番 増田 好成※
26番 尾田 朋樹
27番 楠元 直
28番 栗林 忠信
29番 桑原 正知
30番 神尊 敏彦
31番 白尾 一定
32番 高村 一志
33番 坪井 康浩
34番 中山 健
35番 名越 敏郎
36番 成田 博実
37番 原田 一道
38番 原田 雄一
39番 弘野 修一
40番 菊池 安剛

出席36名

※は予備代議員

出席役員

会 長 河野 雅行
副 会 長 小牧 斎
" 金丸 吉昌
常任理事 市来 能成
" 高木 純一
" 赤須郁太郎
" 大塚康二朗
" 吉見 雅博
" 玉置 昇
" 田畑 直人
" 濱砂 カヨ
理 事 峰松 俊夫
" 上山 貴子
" 山中 聡
" 河原 勝博
" 松岡 敬子
" 井尻 裕司
" 井上 雅文
" 大友 直樹
" 児玉 由紀
" 中島 紫織
" 岡村 樹里
監 事 中村 周治
" 宮田 純一
" 檜原進一郎
出席25名

第185回宮崎県医師会臨時代議員会（概要）

と き 令和8年6月20日(土)

ところ 県 医 師 会 館

1 議長開会宣言

田口議長が、代議員の定数および出席代議員を確認したうえで代議員会の成立を宣言した。

2 議事録署名人選出

続いて議事録署名人に中山健代議員、原田一道代議員を指名した。

3 河野県医師会長挨拶

前期は令和6年6月から2年間お世話になり、感謝申し上げます。今期、県医師会執行部をお任せいただくこととなった。新執行部は私を含め一部を除いてだいふ若返った。よろしく願いいたしたい。執行部は、地域医師会や専門医会や各分野との連携を強化して「全県一致・オール宮崎」の体制づくりと組織の強化を心にかけている。今期も新役員一同、医師会の存在意義を再確認し、初心を忘れず、老若、心一つにして全力を尽くす覚悟である。先生方におかれては、今までにも増してご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

国内外の社会の動向は一瞬たりとも目が離せない状況が続いている。地域医療も社会情勢に無関心でいることはできない。医療を巡る環境は厳しい状態が続いている。

ご存知のように高市政権になってから、昨年の補正予算の補助金に引き続き、今年の診療報酬改定では+3.09%と近年にないアップであった。これで少し楽になるかと思われたが、諸物価高騰がそれ以上に進んでおり、長い間のマイナス改定による累積マイナスをカバーするにはとても足りない。今後も補助金や診療報酬の期中改定も含めて、日本医師会や九州医師会と協調して国に要望しなければならないと考えている。それでも、このようにプラス改定となったのは昨年の釜范選挙や先日の国政選挙での先生



方のご協力の結果がよい方向に形を成したものである。しかし、毎度申し上げるように国の大前提は、医療費削減である。過去には医療費亡国論なる発言もあった。しかし、費用はかかっても国民の生命と財産を守ることこそが国の最大の責務ではないかと考える。我々も無駄を省き効率を高める努力はしなければならないが、公的保険の後退や国民医療費を必要以上に削減することには、真っ向から異議を唱える必要がある。

地域医療については、第8次医療計画の中で多くの重要課題が挙げられている。新興感染症、医師の働き方改革と医師確保、外来医療体制の再構築等々である。

その大前提のうえで、県では地域医療構想会議を、各市町村では調整会議が開催され、先生方にはご参加いただきご苦労をおかけしている。特に各地区での調整会議は各現場での地域医療の在り方を決定するために重要な会議である。その中心的立場となるのは地域医師会であるべきである。先生方におかれても、地域医療を担っていらっしゃる立場から、ご苦労ではあるが、何卒積極的な関与と会議を主導していただきますようお願い申し上げます。

医師不足対策について、本年度、県内で初期研修を始められた研修医が62名と過去最高を記録したので、2年後が楽しみである。今後、宮

崎大学の地域卒卒業生が全員県内に残っていたと、更に医師不足解消につながるのではないかと期待される。

医師の働き方改革は、全国的にだいたい定着してきたが、我が国の地域医療は歴史的にも現在ですらも、医師の奉仕的な活動によって維持されている面が強く、急激な改変により諸所ではころびが出始め、地域医療に重大な影響を及ぼしつつある。この面も更に注意深い対応が求められている。

医師のみではなく、職員不足は切実な問題である。県内の医師会立看護学校は年々閉鎖が続いており、県内の医療秘書養成コースは全部消滅してしまった。今後の地域医療のためには医療人材の育成は欠かせない。皆様とも相談しながら行政にも働きかけて何とか対策を嵩じたいと考えている。

我が国社会の急激な変化の第一要因は人口減少にある。しかし、直ちに半減するわけではない。健康寿命も延びており、現在まだまだ働ける人々が早い定年で仕事を離れることによる労働力減少も大きく影響している。更に、定職を持たない若者が多数いることも問題ではないだろうか。医療職は他の業種に比べて3K、4Kなどと言われていたが、昨今はそのネガティブな面が鮮明になってきたようである。せめて給与だけでも他の業種並みになれば職員の確保も楽になるのではないかとと思われる。

その点からも、私たちは診療報酬のよい意味での「適正化」を強く訴えていかねばならない。そのためにはどうしても医政が重要で、政治家の先生方をお願いしなければならない。県医師会でも各方面に直接お願いしているが、先生方の影響力の大きな地域自治体の首長並びに地元出身の代議士や県議の方々への陳情をよろしくお願いしたい。

医師会活動の源は会員にある。会員を増やすために努力しているが、先生方からも未入会の方がいらっしゃればお声がけをお願いしたい。

その他、抱えているほとんどの課題は会員全員に共通の事項ばかりである。対応にあたって最も重要なことは、会員お一人おひとりが自分のことであると認識することであろうと考える。私ども執行部も一致団結して「地域医療を

守る」「会員を守る」との、医師会の存在意義を再確認して、執行部一丸となって取り組んでまいる決意である。今後もさまざまな問題が発生するものと思われる。執行部のみでは対応困難な場合に、先生方にご相談させていただく。何を置いても先生方のバックアップが必要不可欠である。先生方の今までに増すご指導並びにご協力をいただきたい。

本日は今期第一回の代議員会である。ご協議のほどよろしくお願いしたい。

4 報 告

新役員紹介について

市来常任理事が、第3回理事会で協議した「会長等の選定等に関する件」の結果について、次のとおり報告した。

(要旨) 5月19日に開催した臨時代議員会で会長候補に選定された河野雅行会長の他、副会長候補に選出されていた小牧斎先生と金丸吉昌先生が副会長に選定された。

また、常任理事については9名、理事については11名、監事3名が選定された。代議員会議長・副議長、日医代議員・予備代議員については、第183回臨時代議員会で選定されたとおりである。

5 協 議

顧問・名誉会員委嘱の件について

市来常任理事が、第3回理事会で協議した結果をもとに次のとおり提案を行った。

(要旨) 定款第43条の規定に基づき、顧問・名誉会員は代議員会の決議を経て会長が委嘱することになっている。顧問として、元宮崎県医師会長の秦喜八郎先生、名誉会員として、元宮崎大学長の菅沼龍夫先生、池ノ上克先生の2名に委嘱したい。任期は役員と同様、2年後の定例代議員会の終結の時までとなる。

以上の説明の後、議長確認により提案どおり承認された。

6 議長閉会宣言

最後に田口議長が円滑な進行への協力で謝辞を述べ、臨時代議員会の閉会を宣言した。

出席代議員および出席役員は以下のとおり。

出席代議員

1 番 田口 利文
 2 番 福島 義隆
 3 番 江夏 剛
 4 番 瀬ノ口洋史
 5 番 橋口 兼英
 6 番 池田 典文※
 7 番 平野 雅弘
 8 番 大重 明広
 9 番 竹原 俊幸
 10 番 今給黎 承
 11 番 堀之内和代
 12 番 北村 洋
 13 番 黒木 重晶※
 14 番 中村 彰伸
 15 番 井藤 健※
 16 番 園田 定彦
 17 番 内村 大介
 20 番 盛武 浩

22 番 高橋 邦行※
 24 番 牛谷 義秀
 25 番 増田 好成※
 26 番 尾田 朋樹
 27 番 楠元 直
 28 番 栗林 忠信
 29 番 桑原 正知
 30 番 神尊 敏彦
 31 番 白尾 一定
 32 番 高村 一志
 33 番 坪井 康浩
 34 番 中山 健
 35 番 名越 敏郎
 36 番 成田 博実
 37 番 原田 一道
 38 番 原田 雄一
 39 番 弘野 修一
 40 番 菊池 安剛※

出席36名

※は予備代議員

出席役員

会 長 河野 雅行
 副 会 長 小牧 斎
 ” 金丸 吉昌
 常任理事 市来 能成
 ” 高木 純一
 ” 赤須郁太郎
 ” 大塚康二朗
 ” 吉見 雅博
 ” 玉置 昇
 ” 田畑 直人
 ” 濱砂 カヨ
 理 事 峰松 俊夫
 ” 上山 貴子
 ” 山中 聡
 ” 河原 勝博
 ” 松岡 敬子
 ” 井尻 裕司
 ” 井上 雅文
 ” 大友 直樹
 ” 児玉 由紀
 ” 中島 紫織
 ” 岡村 樹里
 監 事 中村 周治
 ” 宮田 純一
 ” 檜原進一郎
 出席25名

7月のベストセラー（宮崎県）

集計：2026年7月1日～7月24日

1 夏 帆	村 上 春 樹	新 潮 社
2 一次元の挿し木	松 下 龍之介	宝 島 社 文 庫
3 月がきれいな夜に、誰かに思い出してほしかった	川 代 紗 生	サンマーク出版
4 殺人の門㊤㊦	東 野 圭 吾	角 川 文 庫
5 それでも光に手を伸ばす	P a y a o	KADOKAWA
6 ファイア・ドーム㊤㊦	辻 村 深 月	小 学 館
7 科学的に証明されたすごい習慣大百科	堀 田 秀 吾	SBクリエイティブ
8 星を編む	風 良 ゆ う	講 談 社 文 庫
9 口に関するアンケート	背 筋	ポ プ ラ 社
10 年とる力	阿 川 佐和子	文 春 新 書

お知らせ

第27回 宮崎県医師会医家芸術展

会員医師とご家族、医学生の優秀な作品を一堂に展示した、医家芸術展が8月12日(水)より5日間、宮崎県立美術館にて開催されます。

今年は118点の作品が展示される予定となっております。

多くの皆様のご来場を心よりお待ちしております。

展示期間：8月12日(水)～16日(日) 10時～18時（最終日のみ15時まで）

場 所：宮崎県立美術館 2F 県民ギャラリー
（宮崎市船塚3-210 県総合文化公園内）

部 門：写真，書道，絵画

出 展 者：会員および家族（高校生以上），宮崎大学医学部医学科学生

問合せ先：宮崎県医師会医家芸術展事務局
（TEL 0985-22-5118 FAX 0985-27-6550）

写真部門

大森 史彦（児 湯）	河野 莉里歌（宮大医学部医学科）	木佐貫 冬星（南那珂）*
酒井 和彦（都 城）	酒井 桂子（都 城）*	酒井 美絵子（都 城）*
佐々木 究（宮 崎）	嶋田 剣吾（宮大医学部医学科）	田中 宏幸（宮 崎）
玉置 昇（宮 崎）	永野 元章（宮 崎）	濱川 俊朗（宮 崎）
原 政樹（宮 崎）	福岡 周司（南那珂）	松本 健吾（宮大医）
山路 健（都 城）		

書道部門

大迫 文子（宮 崎）*	岡村 公子（延 岡）	川島 友香（宮 崎）*
長野 晶子（宮 崎）	山内 励（宮 崎）	弓削 三重子（宮 崎）*

絵画部門

新木 るり（南那珂）*	安藤 宣（西 都）*	石川 万佐子（宮 崎）
内田 攻（宮 崎）	蛭原 功介（南那珂）	大塚 早智（西 諸）*
大西 敦子（宮 崎）*	黒川 基樹（宮 崎）	佐々木佐代子（宮 崎）*
高田 真愛（宮大医学部医学科）	田原 莉央（西 都）*	長沼 弘三郎（延 岡）
野崎 藤子（宮 崎）	淵脇 和男（都 城）	松本 健吾（宮大医）
松本 真由子（宮大医）*		

（敬称略・各部門50音順・7月13日現在）

* は会員ご家族で，カッコ内にはご家族である会員の所属都市医師会を記載しています。

九州医師会連合会常任委員・九州各県医師会次期会長合同会議

と き 令和8年5月23日(土)

ところ グランドハイアット福岡

1 開 会

2 九州医師会連合会会長挨拶(福岡県蓮澤課長)

福岡県蓮澤会長の挨拶に続き、今期で退任される会長と新しく就任される次期会長の挨拶が行われた。

熊本県福田会長(退) 水足秀一郎次期会長(新)

長崎県森崎会長(退)

福岡県蓮澤課長(退) 平田泰彦次期会長(新)

長崎県釣船崇仁次期会長は欠席

3 報 告

1) 九州医師会連合会常任委員・九州各県医師会次期日医代議員協議会(5月23日(土)福岡市)について(福岡)

日本医師会の役員推薦などを主な議題に開催される会議で、次第および進行などの確認が行われた。

2) 九州ブロック日医代議員(含・次期)連絡会議(5月23日(土)福岡市)について(福岡)

日本医師会の委員会報告などを行う会議で、進行などの確認が行われた。

3) 令和8年春の叙勲等受章者への慶祝について(福岡)

旭日重光章を受章した参議院羽生田俊議員、旭日双光章を受章した日医細川秀一常任理事に祝電を送り祝意を表した旨の報告が行われた。

4) 故 岩佐和雄先生(元 岐阜県医師会会長・元 日本医師会副会長)への弔意について(福岡)

九医連役員等慶弔規定に基づき弔電を送り弔意を表した旨の報告が行われた。

4 協 議

1) 九州ブロックから推薦する次期日本医師会役員等の候補者について(福岡)

理事2名は沖縄県田名会長・鹿児島県牧角会長、監事1名は鹿児島県大西浩之先生、裁定委員1名は宮崎県池井義彦先生を推薦することが承認され、引き続き開催される協議会に上程することとなった。

2) 令和8年度・9年度における日本医師会代議員会の諸委員について(福岡)

議事運営委員1名は大分県河野会長、財務委員2名は福岡県瀬戸裕司先生、佐賀県貝原良太先生を推薦することが承認され、引き続き開催される協議会に上程することとなった。

3) 第162回日医定例代議員会・第163回日医臨時代議員会開催に伴う九州ブロック(次期)日医代議員連絡会議(6月26日(金)・27日(土)・28日(日))の開催について(福岡)

6月26日(金)は第一ホテル東京(18:00～)、27日(土)および28日(日)は日本医師会館九州ブロック控室(9:00～)で開催することが承認された。

4) 第163回日医臨時代議員会（6月28日(日)）
における九州ブロック代表質問について
（福岡）

九州各県から提出された4題の中から、鹿児島県黒田篤代議員「離島・へき地における医療・介護従事者の確保について」、大分県石和俊代議員「学校保健におけるメンタルヘルス対策と健康教育について」、福岡県大木實代議員「ナース・プラティシヨナー制度に対する日本医師会の考え方について」の3題を代表質問とすることが承認された。

5) 日本医師会次期役員等候補者の推薦について（福岡）

会長は現職の松本吉郎先生の推薦がすでに決定しており、加えて常任理事は現職の鹿児島県今村英仁先生、福岡県濱口欣也先生を推薦することが承認された。

6) 日本医師会次期役員等候補者の推薦届出と都道府県医師会選出日医代議員への文書による協力依頼等について（福岡）

九医連が推薦する日医役員等候補者の協力依頼文書を、都道府県医師会長、次期日医代議員、予備代議員、十四大都市医師会長に送ることが承認された。

7) 選対本部に対する陣中見舞いについて
（福岡）

6月7日(日)、東京で開催される選対本部事務所開きに、九州各県それぞれ10万円、九医連20万円の計100万円を陣中見舞いとして贈ることが承認された。

8) 九州医師会連合会監査会・事務引継ぎの開催について（福岡）

7月25日(土)、福岡県医師会館で開催することが承認された。

9) 九州地方社会保険医療協議会委員（臨時委員）の推薦について（福岡）

令和8年10月13日付で一部の委員が任期満了となることから、長崎県、熊本県に代わり宮崎県、沖縄県から推薦することが承認された。

10) 九州医師会連合会第430回常任委員会（8月1日(土)鹿児島市）の開催について
（鹿児島）

九州ブロック学校保健・学校医大会に合わせ開催される九医連常任委員会で、城山ホテル鹿児島で開催することが承認された。

11) 九州医師会連合会第431回常任委員会並びに第131回定例委員総会（8月22日(土)鹿児島市）の開催について（鹿児島）

城山ホテル鹿児島で開催することが承認された。

12) 九州医師会連合会令和8年度第1回勤務医連絡協議会（10月3日(土)鹿児島市）並びに第2回勤務医連絡協議会（令和9年2月6日(土)鹿児島市）の開催について
（鹿児島）

第1回は大学病院の勤務医などにも参加いただきアンケートを中心に、第2回は担当役員等を対象に九州各県の提案事項に対する回答を中心に開催することが承認された。

13) 九州医師会連合会令和8年度連絡協議会（10月3日(土)鹿児島市）並びに各種協議会（令和9年2月6日(土)鹿児島市）の開催形式について（鹿児島）

第1回は1つのテーマを設け日医や国への政策提言を検討する方向で、第2回は例年同様3つの協議会に分け、九州各県の提案事項に対する回答を中心に開催することが承認された。

九州医師会連合会常任委員・九州各県医師会次期日医代議員協議会

と き 令和8年5月23日(土)

ところ グランドハイアット福岡

1 開 会

2 九州医師会連合会長挨拶（福岡県蓮澤会長）

3 報 告

1) 九州ブロック日医代議員（含・次期）連絡会議（5月23日(土)福岡市）について（福岡）

蓮澤会長より、この後開催される標記会議の内容などについて報告があった。

4 協 議

1) 九州ブロックから推薦する次期日本医師会役員等の候補者について（福岡）

理事は田名毅会長（沖縄県医）および牧角寛郎会長（鹿児島県医）、監事は大西浩之先生（鹿児島県医）、裁定委員は池井義彦先生（宮崎県医）を推薦することが承認された。

2) 令和8・9年度における日本医師会代議員会の諸委員について（福岡）

議事運営委員は河野幸治会長（大分県医）、財務委員は瀬戸裕司先生（福岡県医）および貝原良太先生（佐賀県医）を推薦することが承認された。また、九州ブロックの選挙管理委員は夏越祥次先生（鹿児島県医）および松永高政先生（佐賀県医）である旨が報告された。

3) 第162回日医定例代議員会・第163回日医臨時代議員会開催に伴う九州ブロック（次期）日医代議員連絡会議（6月26日(金)・27日(土)・28日(日)）の開催について（福岡）

九州ブロック（次期）日医代議員連絡会議を6月26日(金)18時から第一ホテル東京で、27日(土)、28日(日)は9時から日本医師会館で開催することが承認された。

4) 第163回日本医師会臨時代議員会（6月28日(日)）における九州ブロック代表質問について（福岡）

福岡県医、大分県医および鹿児島県医から提案された3題を代表質問として提出することが承認された。

5) 日本医師会次期役員等候補者の推薦について（福岡）

現職の松本吉郎会長（埼玉県医）を会長



候補者として推薦すること、また、現常任理事である今村英仁先生（鹿児島県医）および濱口欣也先生（福岡県医）を常任理事候補者として推薦することが承認された。

なお、副会長、議長および副議長の選挙については、九州ブロックから候補者がいないことから、九医連としては関与しないことが承認された。

6) 日本医師会次期役員等候補者の推薦届出と都道府県医師会選出日医代議員への文書による協力依頼等について（福岡）

役員等候補者の推薦届出については、慣例により九医連担当県である福岡県が作成することが承認された。また、文書による協力依頼については、福岡県より推薦文書（案）が提示され、承認された。送付先については、例年どおり都道府県医師会長、次期日本医師会代議員、予備代議員および十四大都市医師会長宛てとすることが承認された。

議事終了後、次期会長候補者である松本吉郎会長（埼玉県医）、日医常任理事候補者である今村英仁先生（鹿児島県医）および濱口欣也先生（福岡県医）より挨拶があった。引き続き、今期をもって退任される福田稔先生（熊本県医）、森崎正幸先生（長崎県医）および蓮澤浩明先生（福岡県医）より挨拶があった。

出席者－河野会長、小牧・金丸副会長、市来常任理事、竹崎局長、甲斐・大橋主事

宮崎県医師会理事業務分担

(令和8年6月20日～令和10年6月の定例代議員会終結時まで)

[令和8年6月20日現在]

◎は主担当, ○は副担当

小牧副会長

河野会長

金丸副会長

総務	◎市来常任理事
学術・生涯教育	◎大友理事○市来常任理事・落合常任理事・峰松理事
医療保険	◎田畑常任理事①玉置常任理事②吉見常任理事・市来常任理事 高木常任理事・赤須常任理事・濱砂常任理事・山中理事・井上理事
倫理・自浄	◎落合常任理事○上山理事・市来常任理事・大塚常任理事
医事紛争(医療事故調査・医事紛争・苦情関連)	◎市来常任理事○高木常任理事・金丸副会長
死因究明・警察協力	◎玉置常任理事○山中理事・市来常任理事
健康教育	◎岡村理事○大塚常任理事・落合常任理事
スポーツ医学	◎大塚常任理事○河原理事・田畑常任理事
予防接種	◎高木常任理事○峰松理事・上山理事
母子保健・母体保護	◎児玉理事○高木常任理事・峰松理事・上山理事
学校保健	◎高木常任理事○岡村理事・玉置常任理事・松岡理事
産業医	◎山中理事○吉見常任理事・大塚常任理事・河原理事・井上理事・中島理事
会員福祉(医師年金含む)	◎赤須常任理事○井尻理事
有床診療所	◎中島理事○大塚常任理事・上山理事
労災・自賠	◎河原理事○赤須常任理事
未来ビジョン (将来構想)	◎大塚常任理事○赤須常任理事・吉見常任理事・金丸副会長
(組織強化)	◎落合常任理事○濱砂常任理事・大友理事・児玉理事
(広報戦略)	◎吉見常任理事○田畑常任理事・河原理事・松岡理事
会計	◎高木常任理事
地域医療 (へき地医療含む)	◎玉置常任理事①大友理事②落合常任理事・高木常任理事・赤須常任理事 大塚常任理事・井尻理事・岡村理事
医師確保対策	◎大塚常任理事○児玉理事・落合常任理事・上山理事
プライマリ・ケア	◎松岡理事○玉置常任理事
在宅医療	◎吉見常任理事○玉置常任理事・市来常任理事・高木常任理事・中島理事
救急災害医療	◎落合常任理事○田畑常任理事・赤須常任理事・吉見常任理事・山中理事
共同利用施設	◎赤須常任理事①吉見常任理事②市来常任理事・玉置常任理事
男女共同参画	◎上山理事○濱砂常任理事・落合常任理事・松岡理事・大友理事 児玉理事・中島理事・岡村理事
介護保険	◎吉見常任理事○中島理事・玉置常任理事・濱砂常任理事・河原理事
精神保健	◎井上理事○吉見常任理事・松岡理事・中島理事
医療関係者対策 (看護学校・医療従事者)	◎赤須常任理事○松岡理事・市来常任理事・吉見常任理事・山中理事
(働き方改革)	◎濱砂常任理事○井上理事・赤須常任理事・田畑常任理事
情報システム(医療DX)	◎濱砂常任理事○大塚常任理事・玉置常任理事・田畑常任理事・井尻理事
勤務医	◎田畑常任理事○落合常任理事・山中理事・大友理事
公衆衛生(感染症・コロナ・環境公害問題含む)	◎峰松理事○落合常任理事・高木常任理事・大塚常任理事・大友理事
税制(日医年金含む)	◎井尻理事○赤須常任理事・濱砂常任理事
広報	◎田畑常任理事○高木常任理事・河原理事・児玉理事

※医療保険、地域医療、介護保険並びに組織強化・将来構想に関しては、担当役員を決めているが、担当事業者会、各種協議会、個別指導、診療報酬改定など状況に応じて、全役員が柔軟に対応する。

九州ブロック日医代議員(含・次期)連絡会議

と き 令和8年5月23日(土)

ところ グランドハイアット福岡

蓮澤九州医師会連合会長・福岡県医師会長の挨拶の後、蓮澤会長を座長に選出し、報告に入った。日本医師会の2つの委員会について、九州ブロック選出の日医委員から報告があった。

1 病院委員会 牧角 寛郎 委員(鹿児島県)

「新たな地域医療構想における病院の在り方～病院と医師会はお互いに何ができるか～」という諮問を受け、委員会では特に高齢化の進展にともなう医療需要の変化、地域診断に応じた医療機関機能の最適化、更に2040年を見据えた病院と医師会の役割について検討を行った。

85歳以上の人口は、2040年に向け増加し続け、同年代の要介護認定率も上昇するという。こうした状況をふまえ、医療と介護の複合ニーズはより一層高まり、「治す医療」から「治し、支える医療」が主流になることから、外来・在宅・介護の一体的な連携体制構築が不可欠との見解が示された。

新たな地域医療構想の実効性を高めるために、まずは各地域で地域診断を行い、自院の病院機能を明確化することが重要である。①大都市、②地方都市、③中山間地域の3つに整理され、それぞれに応じた対応策が提示された。

①では、高齢者救急の急増や医療・介護従事者不足が課題となり、DX/PHR連携や構想区域の見直し、救急の分散、連携とトリアージの仕組み作りが必要とされる。②では、医療資源の偏在が顕著であるため、周辺地域を補完する準急性期拠点の整備、在宅医療提供体制の確保、介護施設との連携強化を図り、下り搬送の円滑化が求められる。③では、医療人材の枯渇と需要縮小が進むため、高齢者救急・在宅・介護といった地域のすべてを支える多機能拠点の整備が必要と示された。

また、今後の役割として、大学病院には医師



派遣と医育機能の強化、専門病院には専門性の可視化と専門医制度の整理・統一化および公共性の強化、慢性期病院には「地域包括ケアの中核」としての進化が求められると報告された。更に、財政面においても、病院建て替えは建築費高騰と補助率低下により困難であり、公費支援の抜本的見直しが必要との指摘があった。

新たな地域医療構想では、Patient flow(患者の流れ)を地域全体で共有し、医療と介護資源を最適化配置する視点が必要不可欠である。調整役として医師会が主体的に関与し、地域の合意形成をどこまで主導できるかが問われている。

2 地域医療対策委員会

田名 毅 委員(沖縄県)

地域医療対策委員会では、日本医師会長からの諮問である「地域の実情に応じた地域医療」について検討を行い、報告書を取りまとめた。本報告では、その概要と、沖縄県における健康づくりの取組みについて報告する。

本委員会には全国の医師会関係者、大学病院関係者、病院団体関係者など20名が参加し、各地域における医療提供体制の現状や課題について報告を行った。その後、地域特性をふまえ、「大都市型」「地方都市型」「過疎地域型」の3つのワーキンググループに分かれて議論を深めた。

大都市型ワーキンググループでは、二次医療圏を超えた患者の移動が多く、地域完結型医療の構築が容易ではないことが課題として挙げられた。一方で、医療機関相互の連携強化や機能分化の推進、在宅医療体制の充実を図るとともに、高度急性期医療や専門医療の拠点として周辺地域を支える役割を果たしていくことが求められている。

地方都市型ワーキンググループでは、病院の機能分化や再編・統合、在宅療養支援診療所・病院の機能強化の必要性が示されるとともに、開業医の高齢化や後継者不足、在宅医療の担い手不足などの課題が指摘された。今後は、大学病院を含めた地域全体での医療提供体制の構築を図るとともに、地域の実情に応じた医療圏の見直しを進めていくことが重要である。

過疎地域型ワーキンググループでは、人口減少と高齢化の進行が地域医療に深刻な影響を及ぼしている現状が報告された。人口減少は患者数の減少による医療機関の経営悪化を招く一方、高齢化の進行は多疾患併存患者や高齢者救急への対応など医療需要の増大につながっており、地域医療には二重の負荷がかかっている。このような状況をふまえ、広域・県境を越えた医療連携の推進や、地域医療を担う人材の確保・育成の重要性が示された。

次に、沖縄県における健康づくりの取り組みについて紹介する。沖縄県では、30歳から65歳の死亡率が高く、その要因の一つとして高血圧関連疾患による死亡が多いことが明らかとなっている。更に、外来受療率は全国平均を下回る一方、入院受療率は全国平均を上回っている。

こうした状況をふまえ、産業医がいる企業へのアプローチとして、沖縄県、沖縄労働局、沖縄県医師会、協会けんぽ、沖縄産業保健総合支援センターで5者協定による労働者の健康状態の改善を目指す取り組みを実施している。一方、産業医がいない中小企業や自営業者に対しては、県と合同で健康づくり啓発イベントを開催し、血圧測定的重要性などを紹介した。更に、医師会と栄養士会が監修したおにぎりの開発・販売や銀行や保険会社などへの血圧計の設置など、日常生活の中で健康を意識する機会の創出に取り組んでいる。

報告書には全国各地の地域医療の現状や課題など、現場の声が反映されている。各地域の実情や取り組みについて理解を深める資料として、報告書が完成した際にはぜひご一読いただきたい。

出席者－河野会長、小牧・金丸副会長、
市来常任理事、竹崎局長、
甲斐・大橋主事

ご 案 内

宮崎県医師会親善ゴルフ大会

県医親善ゴルフ大会を本年は下記の日程で開催いたします。ぜひ会員の先生方お誘い合わせのうえ、ご参加いただきますようお願いいたします。

なお、開催案内は別途お送りいたします。

と き 令和8年11月3日(火)
ところ ハイビスカスゴルフクラブ
宮崎市佐土原町大字下田島21085-1

(担当 総務課)

令和8年度都道府県医師会勤務医担当理事連絡協議会

と き 令和8年5月28日(休)

ところ 日本医師会小講堂 (Web会議)

開会・会長挨拶

日医今村英仁常任理事の司会にて開会。日医松本吉郎会長の挨拶の後、議事に入った。

全国医師会勤務医部会連絡協議会について

1) 令和7年度担当医師会報告

岩手県医師会 常任理事 宮田 剛

令和7年11月8日(土)に「勤務医が生き生きと活躍できる場を作る～混沌を成長の機会に～」をメインテーマに盛岡市にて開催されたことが報告された。約360名の出席者で、会の最後には、「いわて宣言」が採択されたことが述べられた。翌日には勤務医交流会も開催され、若手医師からベテラン医師まで幅広い世代が参加し、活発な意見交換が行われたとの報告があった。

2) 令和8年度担当医師会挨拶

大分県医師会 常任理事 三島 康典

令和8年11月7日(土)に「勤務医の声が未来をつくる～医師会・大学・行政が共に創る地域医療の未来～」をメインテーマに大分市にて開催予定であると挨拶された。大分県では、医師会・大学・行政が三位一体となって地域医療に取り組んでおり、本協議会を通じてその連携のあり方を全国に発信したいと強調された。翌日には勤務医交流会も開催予定であり、ぜひ多くの先生方にご出席いただきたいと述べられた。

協 議

1) 勤務医委員会答申の内容紹介

日本医師会 勤務医委員会 委員長

一宮 仁

勤務医委員会では、令和6年10月から令

和8年4月まで計7回の委員会を開催し、会長諮問「勤務医の医師会活動へのさらなる参画について」の答申を取りまとめたと報告された。

答申では、勤務医の医師会活動への参画が医師会組織の活性化と発言力の向上に不可欠であることを確認したうえで、情報発信の強化、医学生・研修医との接点づくり、勤務医の意見集約と政策への反映、若手医師へのキャリア支援などの必要性を提言したとの説明がなされた。また、医師会の会費制度や会員区分の見直しといった組織的課題の本質的な解決、病院管理者・大学幹部の理解促進など、勤務医が参画しやすい環境整備の重要性が示された。

2) 新たな地域医療構想を巡る動き

厚生労働省 医政局 地域医療計画課

地域医療構想推進室長

堤 雅宣

厚生労働省より、2040年ごろを見据えた新たな地域医療構想について説明が行われた。

高齢者人口の増加、救急搬送や在宅医療需要の変化、生産年齢人口の減少による医療人材不足などを背景として、入院医療のみならず、外来医療・在宅医療、介護との連携、人材確保などを含めた地域医療提供体制全体の課題解決を図る構想が必要であるとされた。

質疑応答では、中小規模病院の位置付けや急性期機能のあり方について意見が出された。これに対し、厚生労働省からは病院の規模ではなく地域で果たしている役割が重要であり、地域ごとの議論を通じて役割

分担を整理していくとの考えが示された。

3) 医師会組織強化に向けた取り組み

①大阪府医師会における勤務医参画促進の取り組み

大阪府医師会 理事 杉本 圭相

大阪府医師会では、勤務医の医師会活動への参画を促進するため、医学生、研修医、若手勤務医の各段階に応じた継続的なアプローチを実施し、段階的な関与モデルを構築していることが紹介された。また、若手医師が参加しやすい対話型・参加型の事業を展開し、資産形成など関心の高いテーマを取り上げることで、医師会活動への理解を深める工夫が行われていると報告された。

②大学医師会と連携した組織強化の取り組み

大分大学医学部医師会 会長 猪俣 雅史

大分県では、医師会・大学・行政が三位一体となって連携し、地域医療人材の育成と医師会組織の強化に取り組んでいることが報告された。2018年に大分大学医学部

医師会を設立し、医局単位での医師会加入を推進するとともに、若手医師に対して地域医療や医師会活動の意義を伝える取り組みを進めていることが紹介された。また、医療機関や自治体と連携した寄附講座を設置することにより、地域医療を支える医師の確保に努めていると説明がなされた。

質疑応答では、大学教授や大学幹部に対する医師会加入促進の方策について意見交換が行われた。大学病院を取り巻く経営環境が厳しさを増す中、国や自治体への要望活動において、行政のカウンターパートである医師会の存在意義が高まっていることが指摘され、医師会と大学との連携強化の重要性が共有された。

閉 会

出席者－（日医出席）田畑理事

（Web出席）金丸副会長、串間課長補佐

お知らせ

日本医師会公式Instagramアカウント開設のご案内

日本医師会では日医君公式Instagramアカウントを開設し、広く国民の皆様健康増進などにお役立ていただける情報を発信していくことといたしました。

本アカウントでは「日医君」が語り掛ける形で情報発信することで、日本医師会の活動内容などについて興味を持ってもらうことを目指しています。フォロワーの獲得・拡大にご協力をお願いいたします。



日医インターネットニュースから

■消費税問題、支援は「年度内に結論」

— 与党、社保改革で —

自民党と日本維新の会による社会保障制度改革の協議体（自民・田村憲久会長、維新・梅村聡会長）は7月7日、3月以降の議論を踏まえ、具体的骨子の内容について正式に合意した。政府の「骨太の方針2026」に反映させる。医療機関の控除対象外消費税問題については、「補助金、診療報酬および税制上の措置による対応を含め、必要な支援の在り方を検討し、2026年度末までに結論を得る」とした。

地域に不可欠な医療機関の建て替え・改修についても、計画的に進むよう、必要な支援の在り方を検討する方針だ。

●決め打ちはせず 自民・田村氏

合意後に会見した自民の田村氏は、医療機関による高額機器の購入時や、建て替え時に、控除対象外消費税の課題が生じていると指摘。解決できる施策の方向性を、これから検討するとした。

支援の在り方については、▽補助金▽診療報酬▽税制上の措置 — のいずれかに決め打ちしているわけではないとの認識を示し、組み合わせの可能性にも触れた。

維新の梅村氏は「病院の方々を中心に、『課税も検討してほしい』とのお声を頂いていたのも事実」と説明。「もう一度、医療界の皆さんも、どういう形で問題を解消できるか、この合意を基に一緒に考えていただける、そういう機会になればと考えている」と述べた。

医療機関の建て替え・改修を取り巻く環境の厳しさも指摘。「そもそも論として、消費税（問題）を見直すだけで、建て替えや施設更新ができるのか」と述べ、他の課題も探っていくべきだとの姿勢を見せた。

（令和8年7月10日）

■国立大病院の支援へ、課題を明確化

— 文科省 —

文部科学省は7月10日、2028年度からの6年間における、国立大学法人運営費交付金の在り方に関する中間まとめの素案を、関連の検討会に示した。付属病院の支援策について、全大学に共通する支援と、国立大学特有の課題に対する支援とを明確化する観点から、検討が必要と盛り込んだ。

文科省が開いたのは「第5期中期目標期間における国立大学法人運営費交付金の在り方に関する検討会」。中間まとめ素案では、付属病院

を含む大学付属施設に関して、それぞれの固有の機能や役割を踏まえた調整が必要で、今後「詳細な検討を要する」との考え方を示した。

付属病院は医療材料費や人件費の高騰により、経営環境の厳しさが増しており、機能維持のための支援が必要と指摘。支援策を考える上では、診療機能への支援と教育研究への支援の役割分担を踏まえ、「国公立付属病院共通の支援の枠組みと、国立大学付属病院独自の課題への支援の明確化」などの観点から、詳細を検討する必要があると記載した。

●基幹教員数、追加支援も

付属病院の基幹教員数にも言及した。大学設置基準には具体的な人数がないことから、必要な教員数を検討した上で、教育研究の基盤を支える枠組みでの必要教員数として「追加支援も考えられる」とした。

（令和8年7月14日）

■電カル調査結果を報告

— 加藤山口県医会長 —

山口県医師会の加藤智栄会長は7月15日、日医の定例会見で、中国四国医師会連合の各県医を通じ200床以上の病院を対象に実施した、電子カルテの導入・維持費に関する実態調査の結果を報告した。

ベンダーの囲い込み体制の是正や、医療DXを進める医療機関が経営危機に陥らない制度の必要性を訴えた。標準型電子カルテを希望する全医療機関に配布し、医療情報が全国どこでも入手できる体制整備や、国の責任の下でのサイバーセキュリティ対策も求めた。

調査は、電子カルテの導入・維持にかかる負担問題の解決につなげるため、中四国9県における200床以上の計265施設を対象に、導入・リプレイス（入れ替え）費用などを調べた。2025年12月～26年5月に、176施設から回答を得た（回答率66.4%）。電子カルテの導入率は84.1%で、ほとんどが07～20年前後に導入していた。

●導入費用、200～299床で平均2億5298万円

導入費用については、200～299床の平均が2億5298万円、300～399床が4億890万円、400～499床が5億3257万円、500床以上が12億7455万円だった。毎年のメンテナンス費用はそれぞれ、2322万円、3435万円、8610万円、1億7380万円。リプレイス費用は、2億8930万円、5億5992万円、7億1400万円、13億6337万円だった。

加藤会長は、「ベンダー変更時の費用が法外」「電子カルテは基本インフラであり、国の早急な支援が必要」「システム費用が高額で経営を圧迫」「DX加算やベースアップ評価料では、とても賄えない」などの意見が上がったことを紹介。更新費用は、最初の導入時よりも高くなると説明し「医療機関の診療報酬は、それだけ高くないため経営の負担でしかない。何とかしていただかないと、病院経営は成り立たない」と窮状を訴えた。

●長島氏、費用負担「極めて大きな問題」

長島公之常任理事は、「現在、病院・診療所経営が非常に厳しい状況にある中、電子カルテの費用負担は極めて大きな問題となっている」と言及。これまで国に対し、▽医療DXの環境は、サイバーセキュリティ対策を含め国が整備すべき▽現場のシステム導入や維持、更新、セキュリティ対策にかかる費用は本来、国が全額負担すべき — の2点を要望してきたと説明した。

その上で、「全国の診療所・病院における電子カルテの導入、維持、更新にかかる費用や課題について、国が調査し、その結果を補助金などの普及支援策や診療報酬上の評価、さまざまな課題解決に活用するよう要望していく」との考えを示した。

(令和8年7月17日)

■医療機関の電カル導入「義務ではない」

— 厚労相見解 —

上野賢一郎厚生労働相は7月21日の閣議後会見で、改正医療法に盛り込まれた電子カルテの普及率目標に関し、「目標達成の義務は政府に課されたもの。医療機関に電カルの導入を義務付けるものではない」との見解を示した。

昨年12月に成立した改正医療法では、2030年末までに電子カルテの普及率「約100%」を達成するとの政府目標が示された。

政府が開発中の「標準型電カル（導入版）」についても、導入は義務ではないと述べた。今年3月に公表した電カルの標準仕様は、ベンダー向けに示したものだとの説明。「すでに導入した医療機関に対してシステム改修や更新を求

めるものではない」と話した上で、現在使用している電カルを継続して使うことは可能とした。

電カルについて「全国的な情報連携ができる、セキュリティのレベルがチェックできるなど、メリットも大きい。標準仕様に準拠した電カルを利用していただくことは望ましい」と述べた。

(令和8年7月24日)

■養成課程の廃止増で「早急な対応を」

— 医療部会で意見 —

厚生労働省は7月24日の社会保障審議会・医療部会に、「医療関係職種の安定的な養成・確保に関する検討会」の議論の進捗状況を報告した。医療関係職種の養成課程の廃止が相次いでいる状況に関し、早急な対応と議論の加速を求める意見が複数の委員から上がった。

厚労省が5月の同検討会で示した資料によると、看護師養成所の課程廃止数は、年間約30～40校で推移している。さらに、今後6年間で94校が廃止予定となっている。

同日の部会では、同検討会の構成員でもある神野正博委員（全日本病院協会会長）が、こうした状況について「重く感じていただきたい」と指摘。その上で、「時間がたてばたつほど閉校が増えるのが実態。ぜひ（議論の）スピードアップをお願いしたい」と危機感を示した。岡俊明委員（日本病院会副会長）も神野委員に同調し、「時間が無い。方策は速やかに検討して決めていただきたい」と求めた。

長島公之委員（日医常任理事）も、「非常事態と受け止めるべき」と強調。経営上の理由で廃止を検討しているケースに対しては支援が必要だとして、「地元自治体においても最大の支援をお願いするとともに、国にも緊急的な財政支援を要望する」と述べた。

医療部会は昨年12月、地域で医療関係職種を安定的に確保できるよう国・都道府県が取り組むべき事項を検討すべきとの方向性をまとめていた。同検討会はこのまとめを受けて今年5月に発足。検討会での議論は今後も医療部会に適宜報告される見通し。

(令和8年7月28日)

日医インターネットニュースは、日本医師会のホームページからご覧になれます（毎週火・金更新）。

日本医師会（<http://www.med.or.jp/>）>メンバーズ>日医インターネットニュース

メンバーズルームへのアクセス方法

◆ユーザID：会員ID（日医刊行物送付番号）の10桁の数字（半角）

◆パスワード：生年月日の「西暦の下2桁，月2桁，日2桁」の6桁の数字（半角）

医師協同組合だより

宮崎県医師協同組合 第42回通常総代会

と き 令和8年6月20日(出)

ところ 県 医 師 会 館

第42回通常総代会は、金丸副理事長の開会宣言後、議場に議長選出を諮り、田口利文先生が総代会議長に選出された。総代の出席者数、書面議決および委任状を確認後、田口議長が通常総代会の成立を宣言した。河野理事長から、「昨年度は、社会経済情勢の変動にともなう諸物価高騰や購買事業の不振などの影響により、組合の決算は厳しい数字になった。しかし、医療現場を支える先生方が安心して診療に専念できる環境づくりは極めて重要であり、本組合の果たす役割は肝要である。絶えず事業の見直しと効率化を進め、より信頼できる事業を展開してまいりたい」との挨拶があり、上程された6議案および協議事項については、すべて原案のとおり承認可決された。

議案第1号

令和7年度事業報告、決算及び剰余金処分案の承認を求める件

赤須専務理事から、共同購買事業は、医療用消耗品およびレセコンなどが前年度実績を上回ったものの、医療機器、書籍、白衣の取扱いが伸びず、購買全体では前年度比93.4%、カード取扱事業は利用件数・総売上金額ともに前年度実績を下回り、8月から宮崎信販の事務手数料が1/3に削減(32%→10%)された影響もあって、事務手数料は前年度比50.3%、幹旋集金事業は、マンション並びに輸入車の幹旋が好調だったため、前年度比523.9%、集金部門は前年度比102.8%、保険事業は、主力の医師賠償責任保険および所得補償保険、火災保険料の新規契約件数を解約が上回り、損害保険手数料が前年度比87.0%、生命保険手数料は、提携先のリスクマネジメント・ラボラトリー社の新規

契約が伸び悩み、前年度比85.4%、医療機関を取り巻く法的トラブルを対処する無料法律相談窓口、事業承継やドクターバンクなどの各種相談事業、医療安全対策などのセミナー開催など教育情報事業を含めた、主要事業について実績報告があった。

吉田副理事長から、財産目録、貸借対照表、損益計算書により当期純利益は1,068万余円、資産合計7億734万余円、前期繰越剰余金1,640万余円、当期末処分剰余金2,709万余円などの決算状況について報告があった。宮田監事からの監査報告後、剰余金処分案について説明があり、原案のとおり承認可決された。

議案第2号

令和8年度事業計画(案)及び収支予算(案)の承認を求める件

赤須専務理事から、購買事業は年間取扱手数料1,400万円を目標として、新基幹システムにおける販売管理システムを運用し、オンラインを利用した医療用消耗品および書籍販売の拡大に取り組む。メディカルカード事業は、割引特典加盟店舗数の拡大を図り、カード利用率を高めることで取扱手数料増につなげていく。幹旋集金事業は、マンションを中心に輸入車幹旋の推進、保険事業は年間取扱手数料の目標を9,100万円として、新規開業時の医師賠償責任保険、所得補償保険などの団体契約、集団火災保険、どこよりも有利な条件で契約できる団体定期保険を提案し、個別契約も積極的な提案を行い、契約に結びつける。医業経営支援事業は、地域医療提供体制を堅持する最重要課題として取り組む。医療機関の事業承継、医師の職業紹介などの具体的な相談案件は、顧問弁護

士・税理士、銀行など各分野の専門家と連携しながら個別に対応する。また、県医師会・各郡市医師会、全医協連・九医協連などの関係団体と連携を図りながら、既存事業を更に充実させるなど、令和8年度の重点施策について説明があった。

吉田副理事長から、令和8年度収支予算案の主な計上科目ごとに説明があり、収入・支出とも合計1億3,308万余円（前年度比2.7%減）、税引前目標利益は、1,401万円（前年度比10.3%増）の見込みと説明があり、原案のとおり承認可決された。

議案第3号 借入金残高最高限度額決定の件

議案第4号 役員報酬決定の件

吉田副理事長から、議案第3号は借入金残高最高限度額を1,000万円とし、議案第4号は予算の範囲内で、役員報酬は理事（8名）で299万円、監事（2名）は16万円の提案があり、原案のとおり承認可決された。

議案第5号 役員（理事・監事）改選の件

田口議長から、任期満了にともなう役員改選（理事8名、監事2名）は、本組合定款第32条第4項に基づき、出席者全員の同意の場合は、指名推選の方法により役員選出の選挙を行う旨の説明があった。議場に選挙方法を諮ったところ、

全員賛成により指名推選が決定し、選考委員は議長一任で承認された。出席総代全員が選考委員に選任され、役員数は改選前と同数とした。理事には8名（河野雅行・金丸吉昌・赤須郁太郎・大塚康二郎・中山健・吉見雅博・濱砂カヨ・中島紫織）の先生方、監事には2名（桑原正知・宮田純一）の先生方が指名され、全員の当選が承認可決された。

議案第6号 役員退任慰労金決定の件

吉田副理事長から、役員退任慰労金に関する内規に基づき、任期満了にて退任される当該役員の先生方に慰労金を支給する説明があり、原案のとおり承認可決された。

協議（1）賛助会員規約の一部改正について

赤須専務理事から、現行の規約では、県医師会を退会された賛助会1号会員は、自動的に賛助会2号会員へ移行され、会員管理を含めて運用上の問題も生じていることから、賛助会1号会員は、県医師会を退会した時をもって、本組合を脱退とする規約の一部改正案を提案し、原案のとおり承認可決された。

すべての議案審議終了後に、河野理事長から謝辞が述べられ、田口議長の閉会宣言後、総代会の全日程を終了した。

出席総代（理事含む54名）

牛谷 義秀
遠藤 豊
尾田 朋樹
楠元 直
桑原 正知
神尊 敏彦
高村 一志
中山 健
名越 敏郎
成田 博実
原田 一道
原田 雄一
弘野 修一
山内 励

市来 能成
上山 貴子
金丸 吉昌
河野 雅行
河原 勝博
小牧 斎
高木 純一
玉置 昇
菊池 安剛
佐々木 究
篠原 立大
田口 利文
福島 義隆
江夏 剛

瀬ノ口洋史
橋口 兼英
檜原進一郎
隅 專浩
大重 明広
竹原 俊幸
平野 雅弘
赤須郁太郎
宮田 純一
吉田 建世
池田 典文
今給黎 承
堀之内和代
松岡 敬子

森迫 和仁
北村 洋
山中 聡
大塚康二郎
黒木 重晶
中村 彰伸
井藤 健
山田 孝俊
内村 大介
園田 定彦
井尻 裕司
吉村 雄樹

（敬称略）

宮崎県医師協同組合 団体定期保険 (プラスグループ生命共済・ドクターグループ生命共済) 最高1億2,000万円の死亡・高度障害を保障

ご開業されたり、新たな保障が必要となられた先生方、また配偶者・お子様を含むご家族の保障をご検討中の先生方には、是非おすすめいたします。

7つの特長

◆死亡・高度障害のみを保障

生命保険のベースとなる保障として是非ご加入ください！

◆70歳まで新規加入可能！

※従来の制度では新規加入は50歳迄と制限がありました。

※最高80歳までご継続可能です。

◆申込は告知書のみ！

告知書のみのお申込みで、最高1億2,000万円まで加入できます。

◆団体割引適用！

低廉な保険料で、必要な保障を得られます。

◆口座設定不要！

保険料は宮崎県医師会へのお届け口座から毎月引き去ります。

◆配当金をお支払い

1年ごとに、剰余金が生じた場合には配当金をお支払いします。

◆毎年、保障額の見直しが可能

ライフスタイルに合わせて、必要補償額のみご加入いただけます。

資料の送付をご希望の場合は下記よりご連絡ください。



MIYAZAKI Medical Cooperative Association

宮崎県医師協同組合

電話 0985-23-9100

メール isikyou@miyazaki.med.or.jp



お問い合わせは
こちらから

＜認可特定保険業者＞ 公益社団法人 日本医師会

ご加入のすすめ

加入資格

64歳6カ月未満の日本医師会会員
(会員区分は問いません)

保険料は
いつでも
増減できます!
余裕資金は随時払で
まとめて
増額できます。

人生100年時代に
一生涯受け取れる
年金を準備できます。

予定利率は**1.5%**[※]
 事務手数料は
 払込保険料に対して
0.25%

昭和8年4月時点

キャリアによって
年金制度が変わる
医師の
ライフスタイルに
あった年金です。

醫師年金

医師としての使命を果たすあなたに。
医師年金でキャリア後の
安心を手に入れましょう。



ぜひ
お試し
ください

[illegible]

医師年金ホームページで、
簡単シミュレーション！

ご希望の受給額や保険料、生年月日を入力するだけで、簡単に受取年金額のシミュレーションができます。



醫師年金 検索

▼個別プランの設計や詳しい資料のご請求はこちら

公益社団法人 **日本医師会** 年金福祉課

〒113-8621 東京都文京区本駒込 2-28-16
TEL : 03-3942-6487 (直通) FAX : 03-3942-6503
受付時間：午前 9 時 30 分～午後 5 時 (平日)
E-mail : nenkin@po.med.or.jp



20260401\$25

宮崎県医師会メーリングリストのご案内

宮崎県医師会では「MMA通信」と「MMA交流（会員交流用）」の2本立てでのメーリングリストの運用をしています。

◆MMA通信

目的：県医師会から会員への情報提供（各種通知文書，研修会の案内など）

対象：会員本人，医療機関代表のアドレスなど

◆MMA交流

目的：会員同士の意見交換，会員からの情報提供

対象：会員本人のみ

◆登録方法について

県医師会事務局宛 office@miyazaki.med.or.jpにメールを送信してください。

折り返し，事務局から登録に関するメールを送信いたします。

災害が発生した場合，情報の収集および発信手段は複数確保することが必要です。
まだ登録されていない会員はぜひご登録をお願いします。

**令和8年6月2日(火) 第2回理事会****医師会関係****(議決事項)****議案第1号****令和7年度 宮崎県医師会 事業報告に関する件**

事業報告書案に基づき説明が行われ、変更項目等の確認を行った後、審議の結果、軽微な変更は河野会長に一任することとした上で、原案通り可決承認された。

議案第2号**令和7年度 宮崎県医師会 収支決算に関する件**

令和7年度収支決算の説明が行われた後、財務規律の「中期的収支均衡」「公益目的事業比率」「使途不特定財産」の全てにおいて適合となったことの報告があり、最後に、本年度決算を受けた今後の検討課題「医師会加入率向上に向けた取組み」「収益と費用の見直し」「事務機能強化と経費削減のための投資」の3項目について説明があった。

その後、「5月21日に法人運営と財務会計の監査を行い、関係書類も整備され適正妥当である」との監査報告があり、審議の結果、原案通り可決承認された。

議案第3号**令和9年度 宮崎県医師会 会費賦課徴収に関する件**

令和8年度と同様に会費賦課徴収規程等により徴収することが可決承認された。

(報告事項)**1. 令和7年度 資金運用結果について****令和8年6月2日(火) 第5回全理事協議会****医師会関係****(議決事項)****1. 役員等の退任に係る役員退任慰労金の支給について**

県医師会役員等の報酬等規程及び表彰並びに慶弔に関する内規に基づき、9名の退任役員等に慰労金を支給することが承認された。

2. 役員等報酬支給について

県医師会役員等の報酬等規程に基づき、報酬を支給することが承認された。

3. 職員の夏季手当支給について

県医師会職員給与規程等に基づき、宮崎県人事委員会の勧告を参考に、社会情勢等を踏まえて、期末・勤勉手当を支給することが承認された。

4. 6/20(土) (県医) 第184回県医師会定例代議員会及び第185回臨時代議員会等について

当日の進行や役割分担、提出議題等が承認された。

5. 県医師連盟執行委員の推薦について

県医師会の次期役員を中心に20名を推薦することが承認された。

6. 12/21(月) (県立看護大学) 県内医療機関合同就職説明会について

県立看護大学学生への就職支援の一環として、県内医療機関の情報をより多く得る機会を設けることを目的に開催される説明

会で、会員医療機関に周知することが承認された。

(報告事項)

1. 5月末日現在の会員数について
2. 5/28(木) (県防災庁舎) 県医療審議会及び医療介護推進協議会について
3. 5/27(水) (県婦人会館) 県移植推進財団定例理事会について
4. 5/29(金)宮崎日日新聞掲載記事に関する抗議について
5. 5/27(水) (県防災庁舎) 県医療勤務環境改善支援センター運営協議会について
6. 5/29(金) (県医) 病院部会・医療法人部会共同購入・共同事業に関する説明会について
7. 5/26(火) (九州厚生局宮崎事務所) 九州地方社会保険医療協議会宮崎部会について
8. 5/27(水)県特別支援学校医療的ケア運営協議会について
9. 5/28(木) (県防災庁舎) 社会保険医療担当者の新規個別指導及び個別指導について
10. 5/24(日) (福岡) レジナビフェア福岡について
11. 5/27(水) (県医) 組織強化・将来構想委員会小委員会について
12. 5/30(土)・31(日) (京都) 日本プライマリ・ケア連合学会学術大会について
13. 6/1(月) (県医) 県糖尿病対策推進会議小幹事会について
14. 5/29(金) (県医) 県有床診療所協議会役員会について
15. 5/28(木) (日医) 都道府県医師会勤務医担当理事連絡協議会について
16. 5/27(水) (宮崎労働局) 労災診療指導委員会・労災部会理事会について
17. 5/28(木) (県庁) 地方公務員災害補償基金宮崎県支部審査会について

医師連盟関係

(議決事項)

1. 6/20(土) (県医) 県医師連盟執行委員会について
当日の進行、役割分担を確認し開催することが承認された。
2. 令和7年度県医師連盟会務報告について
要望活動や参議院議員選挙に対応したことを報告、承認され、6月20日に開催される執行委員会に上程することとなった。
3. 令和7年度県医師連盟収支決算について
収入合計3,079万830円、支出合計、3,367万5,649円、次期繰越金3,909万7,318円からなる決算が承認され、6月20日に開催される執行委員会に上程することとなった。

(報告事項)

1. 5/30(土) (シーガイア) 河野しゅんじ県政報告会について
2. 5/30(土) (JAアズム) 自民党県連大会について

令和8年6月16日(火) 第3回常任理事協議会

医師会関係

(議決事項)

1. 業務委託について
 - ①令和8年度妊娠等について悩まれている方のための相談援助業務の委託契約について
→児童虐待を未然に防ぐ目的で、その主な原因とされている予期しない妊娠に対応する相談窓口の設置や関係職種を対象にした研修会等を行う事業で、委託契約を締結することが承認された。
 - ②令和8年度医師養成・確保支援事業の委託契約について
→医師のキャリア形成と県内の医師不足

解消を目的に、高校生向け説明会、県内の臨床研修病院や専門医プログラムの説明会などを行う事業で、委託契約を締結することが承認された。

2. 8/1(土)(鹿児島)九州医師会連合会第430回常任委員会の開催について

河野会長が出席することが承認され、議題があれば事務局経由で会長に提出し、取扱いについては会長に一任することが承認された。

3. 令和8年度県立学校医等に係る報酬基準額について

県立学校の学校医報酬について県教育庁から基準額の提示があり、提示額通り承認された。

4. 県医師会メールアドレスのGmailへの移行について

最新セキュリティと障害耐性の向上、運用コストの最適化を図るため、本会メールサーバーをGmailメールサーバーへ移行することが承認された。

5. 7/9(木)(九州厚生局宮崎事務所)九州厚生局及び宮崎県による社会保険医療担当者の個別指導等の実施に係る立会いについて

2医療機関を対象に行われる新規個別指導と個別指導で、河原理事を立会人として派遣することが承認された。

6. 地域フォーミュラの都道府県医師会御説明会について

地域フォーミュラについて厚労省から都道府県医師会へ説明するための会で、担当役員が出席することと、各郡市医師会に案内することが承認された。

7. 県政・国政に対する要望について

今後の要望書作成方法について、説明のとおり作成していくことが承認された。

(報告事項)

1. 6/7(日)(東京)松本吉郎日本医師会会長選挙対策本部事務所開きについて
 2. 6/11(木)(県医)県アイバンク協会理事会について
 3. 6/12(金)(県企業局)県移植推進財団評議員会について
 4. 6/9(火)(県総合保健センター)県健康づくり協会理事会について
 5. 6/11(木)日医医療安全対策委員会について
 6. 6/4(木)(県医)学校医部会理事・評議員会について
 7. 6/15(月)(県医)広報委員会について
 8. 6/9(火)厚労省主催 地域フォーミュラの都道府県医師会向け説明会について
 9. 6/12(金)(宮大医学部)宮大医学部生対象マッチング登録説明会&県内基幹型臨床研修病院合同説明会について
 10. 6/5(金)(県医)認知症サポート医・かかりつけスキルアップ研修会について
 11. 6/11(木)(県防災庁舎)社会保険医療担当者の新規個別指導及び個別指導について
 12. 6/12(金)(県医)都道府県医師会地域医療構想策定ガイドライン等説明会について
 13. 6/3(水)日医救急災害医療対策委員会について
- 医師連盟関係

(議決事項)

1. 6/20(土)(JAアズム)自民党県連選挙対策委員会の開催について
出席者を調整することが承認された。

令和8年6月20日(火) 第3回理事会

医師会関係

(議決事項)

議案第1号 会長等の選定等に関する件

河野雅行先生を会長に、小牧斎先生と金丸吉

昌先生を副会長に、市来能成理事，高木純一理事，赤須郁太郎理事，大塚康二郎理事，吉見雅博理事，玉置昇理事，落合秀信理事，田畑直人理事，濱砂カヨ理事を常任理事に，岡村樹里理事を外部理事に，檜原進一郎監事を外部監事にする旨の説明があり，原案通り可決承認された。

議案第2号 顧問・名誉会員の委嘱に関する件

顧問に秦喜八郎先生を，名誉会員に菅沼龍夫先生と池ノ上克先生とする旨の説明があり，原案通り可決承認された。

(協議事項)

1. 委員会委員の選出について

原案のスケジュール通り委員の選定作業を進めることが承認された。

令和8年6月30日(火) 第6回全理事協議会

医師会関係

(議決事項)

1. 本会外の役員等の推薦について

①県アドバンス・ケア・プランニング推進委員会の委員の推薦について

→アドバンス・ケア・プランニングの普及啓発を図ることを目的に設置されている委員会で，任期満了に伴う委員の推薦依頼があり，吉見常任理事を推薦することが承認された。

②みやざきスポーツメディカルサポート体制構築事業コンソーシアム構成員及びアドミニストレーターへの就任のお願いについて

→地域住民の健康増進やスポーツ振興，さらにはスポーツランドみやざきの推進に寄与することを目的とした事業で，構成員に河野会長を，アドミニストレーターに大塚常任理事が就任する

ことが承認された。

③九州地方社会保険医療協議会委員及び臨時委員について

→委員に田畑常任理事，臨時委員に玉置常任理事を推薦することが承認された。

④県後期高齢者医療広域連合運営懇話会委員の確認について

→後期高齢者医療制度の適切かつ円滑な運営を目的に設置される懇話会委員の任期満了に伴う推薦依頼で，引き続き，吉見常任理事を推薦することが承認された。

⑤県自殺対策推進協議会の委員等の推薦について

→県内の関係機関が連携し総合的な自殺対策を推進することを目的に設置される協議会の任期満了に伴う推薦依頼があり，委員と自殺未遂者・遺族部会議員に井上理事，高齢者部会議員に吉見常任理事を推薦することが承認された。

⑥県薬事審議会委員の推薦について

→薬事衛生思想の普及向上や医薬品等の取扱いの適正化を図ることを目的に設置される審議会委員の任期満了に伴う推薦依頼があり，引き続き，金丸副会長を推薦することが承認された。

⑦九州学校検診協議会理事及び専門委員の推薦について

→任期満了に伴う推薦依頼があり，理事に河野会長，小牧副会長，高木常任理事。専門委員の腎臓部門は此元隆雄先生，成長発育・小児生活習慣病部門は澤田浩武先生，運動器部門は帖佐悦男先生・黒木浩史先生を推薦することが承認された。なお心臓部門の専門委員会へは高木常任理事が理事として出席をする。

⑧県生活習慣病検診管理指導協議会委員の推薦について

→専門的な見地から検診医療機関を指導すること等を目的に設置される協議会で、県医師会区分を上山理事、医療従事者区分を嶋本富博先生とし、それ以外の委員については、現委員に再任の意向を確認した上で推薦手続きを進めることが承認された。

2. 業務委託について

①令和8年度宮崎県リハビリテーション支援センター業務の委託契約について

→地域リハビリテーションの推進を図るとともに、地域における介護予防を効果的かつ効率的に展開することを目的とした新規事業で、受託することが承認された。

3. 会費減免申請について

疾病による県医学会費減免1名と、名誉会員1名の申請が承認された。

4. 九州医師会連合会会員数等について

九州医師会連合会会則に従い、九州医師会連合会常任委員として河野会長、委員として小牧・金丸副会長、市来・高木・赤須・大塚常任理事、田口議長を選出することが承認された。また、会員数等については、事務局で確認の上、報告することとなった。

5. 母体保護法の指定申請について

医師の申請1名を母体保護法指定医師審査委員会の答申通り指定することが承認された。

6. 8/1(土)・2(日)(鹿児島)第70回九州ブロック学校保健・学校医大会並びに令和8年度九州学校検診協議会(年次大会)について
河野会長、小牧副会長、高木常任理事の出席と九州学校検診協議会専門委員への出

席依頼、各郡市医師会及び関係専門分科医学会へ案内をすることが承認された。

7. 予防接種後健康状況調査事業の実施機関の推薦について

予防接種を受けた方が、接種後に異常があった場合にWebにて国へ報告する事業で、「RSウイルスワクチン」の実施機関について、県産婦人科医会に推薦を依頼することが承認された。

8. 7/31(金)(日医)医師会立看護師等養成所会議(都道府県医師会医療関係者担当理事連絡協議会)の開催について

看護教育に携わる教員の技術向上を目指し、各養成所が抱える教育上の課題について意見交換することを目的とした会議で、赤須常任理事が出席することと、各学校に案内する事が承認された。

9. 宮崎県医師会臨床研究倫理審査委員会および利益相反委員会の委員について

委員の任期満了に伴う交代で、臨床研究倫理審査委員会委員に10名が、利益相反委員会に4名が就任することが承認された。

10. 10/25(日)(日医)社会保険指導者講習会の開催について

3名の出席者について、県整形外科医学会、県耳鼻咽喉科医会、県眼科医会に推薦を依頼することとなった。また、後日、本県で伝達講習会を開催することが承認された。

11. 8/3(月)県感染症危機管理研修会・予防接種従事者研修会について

県内の医療機関等職員及び行政職員を対象にした、予防接種に係る最新の知見、今後の新興感染症発生に備えた地域の医療体制の在り方に関する研修会で、県との共催で開催することと、本会が会員への周知をすることが承認された。

12. 7・8月の行事予定について

(報告事項)

1. 6/9(火)日本医師会・全国有床診療所協議会懇談会について
2. 6/17(水)(宮大)宮大経営協議会及び学長選考・監察会議について
3. 6/17(水)全国有床診療所協議会理事会について
4. 6/24(水)(宮崎市郡医師会館)宮崎市郡医師会定時総会について
5. 6/27(土)(日医)日医代議員会について
6. 6/23(火)(県福祉総合センター)県社会福祉協議会評議員会について
7. 6/24(水)(宮大医学部)県がん診療連携協議会について
8. 6/16(火)(県医)県医師会母体保護法指定医師審査委員会について
9. 6/22(月)(県医)広報委員会について
10. 6/21(日)(東京)レジナビフェア東京について
11. 6/23(火)(国保連合会)県国保等はり、きゅう及びあん摩マッサージ療養費審査委員会について
12. 6/26(金)(宮大医学部)宮大医学部地域枠全体ミーティングについて
13. 6/27(土)(宮観ホテル)県専門研修プログラム合同説明会について
14. 6/29(月)(宮大医学部)みやざきスポーツメディカル体制構築事業アドミニストレーター会議について
15. 6/29(月)(県医)在宅医療協議会役員会について
16. 6/30(火)(県防災庁舎)県歯科保健推進協議会について
17. 6/30(火)(県総合保健センター)県健康づくり協会評議員会について
18. 6/23(火)(高鍋保健所)西都児湯地域医療構想調整会議について
19. 6/22(月)(県医)地域医療現場における働きやすい環境を考える会について
20. 6/24(水)(宮崎労働局)労災診療指導委員会・労災部会理事会について
21. その他
医師連盟関係
(議決事項)

1. 九州医連連絡会の役員について

九州医連連絡会規約に従い、常任執行委員として本県医師連盟の河野委員長、執行委員として九州医師会連合会委員である小牧・金丸・市来・高木・赤須・大塚・田口委員を選出することが承認された。

2. 令和9年度国・県に対する政策・予算等要望の受付について

7月24日(金)に行われるヒアリングに向けて要望書を作成することと、ヒアリングに役員が出席することが承認された。

3. 日医連執行委員の推薦依頼及び執行委員会の開催について

執行委員に河野委員長と金丸常任執行委員を推薦することと、執行委員会に2名が出席することが承認された。

あなたできますか？(解答)

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
d	b	d	e	e	d	a	a	a	a

県 医 の 動 き

(7月)

1	ロコモ予防運動推進事業養成講座 厚労省主催地域フォーミュラの都道府県医師会向け説明会 (Web会議) 組織強化・将来構想委員会小委員会 (Web会議) (小牧副会長他)	17	都道府県医師会組織強化担当役職員連絡協議会 (Web会議) (大塚常任理事) (沖縄) 九州各県保健医療福祉主管部長・九州各県医師会長合同会議 (小牧副会長) 県アドバンス・ケア・プランニング推進委員会 (吉見常任理事)
2	宮大医学部医の倫理委員会 (上山理事) 医師国保組合理事会 (秦理事長他) 都城北諸県地域医療構想調整会議 (落合常任理事) 日南串間地域医療構想調整会議 (金丸副会長)	18	産業医研修会 (前期) (大塚常任理事)
3	西諸地域医療構想調整会議 (金丸副会長) 病院部会・医療法人部会定時総会 (金丸副会長他)	19	九州山口薬学大会 (市来常任理事)
4	県外科医会全理事会 (Web会議) 県整形外科医会評議員会 県整形外科医会総会 県外科医会総会 (Web会議) 県整形外科医会理事会 県労災部会総会 (Web会議) (赤須常任理事他) 県外科医会・県整形外科医会・県労災部会合同学会 (Web会議) (河原理事)	21	医師協理事会 (河野理事長他) 医師協理事・運営委員合同協議会 (河野理事長他) 第8回全理事協議会 (会長他) 役職員懇談会 (会長他)
5	県災害医療コーディネート研修 (金丸副会長他) (東京) 全国有床診療所協議会理事会・臨時社員総会・連盟執行委員会 (会長) 県産婦人科医会ひなたJ-CIMELS宮崎2026	22	大規模地震時医療活動訓練県訓練調整会議 (親会) (落合常任理事) 大規模地震時医療活動訓練調整会議 (落合常任理事) 宮崎東諸県地域医療構想調整会議 (金丸副会長) 人体シミュレータを用いた小児在宅医療実技講習会打合せ
6	県地方独立行政法人評価委員会 (小牧副会長) 県精神科救急医療システム連絡調整委員会 (田畑理事) 園医部会理事会 (Web会議) (小牧副会長他)	23	社会保険医療担当者の新規個別指導及び個別指導 (松岡理事) 県国保等はり、きゅう及びあん摩マッサージ療養費審査委員会 (大塚常任理事) 広報委員会 (高木常任理事他) 県糖尿病対策推進会議幹事会 (Web会議) (会長他) 臨床研究倫理審査委員会 (落合常任理事他)
7	第4回常任理事協議会 (会長他)	24	自民党県連国・県に対する政策・予算等要望ヒアリング (会長他) 医師国保組合引継懇談会 (小牧理事長他)
8	女性医師等保育支援サービスシステム事業サポート会員養成講座 県総合計画審議会 (金丸副会長) 日向入郷地域医療構想調整会議 (金丸副会長他)	25	(福岡) 九州地区医師国保組合連合会合併プロジェクト会議 県小児科医会子ども健康セミナー (Web会議) (高木常任理事)
9	社会保険医療担当者の新規個別指導及び個別指導 (河原理事) 県産婦人科医会常任理事会 (上山理事他) 延岡西臼杵地域医療構想調整会議 (金丸副会長)	27	国保連合会理事会 (Web会議) (小牧理事長) 国保連合会通常総会 (Web会議)
11	(鹿児島) 九医連常任委員会 (会長) (鹿児島) 九州医連連絡会常任執行委員会 (委員長)	28	(日医) 日医連執行委員会 (委員長他) 県経済団体協議会代表者・幹事合同会議 (大塚常任理事) (東京) 日医役員就任披露パーティ (会長他) 九州地方社会保険医療協議会宮崎部会 県内科医会医療保険委員会 (Web会議) (玉置常任理事)
12	人体シミュレータを用いた在宅医療研修会	29	労災診療指導委員会・労災部会理事会 (赤須常任理事他) 県医療審議会医療計画等部会 (金丸副会長他)
13	勤務医部会理事会 (Web会議) (金丸副会長他)	31	(東京) 全国医師国保組合連合会代表者会 勤務医部会総会・前期講演会 (Web会議)
14	第7回全理事協議会 (Web会議) (会長他)		
15	支払基金審査運営協議会 (会長) 広報委員会 (金丸副会長他)		
16	女性医師等保育支援サービスシステム事業サポート会員養成講座 (濱砂常任理事他) ロコモ予防運動推進事業養成講座 医師国保組合通常組合会 (Web会議) (秦理事長他) 医師国保組合理事会		

ドクターバンク情報

(無料職業紹介所)

令和8年7月1日現在

本会では、会員の相互情報サービスとしてドクターバンク（求人・求職等の情報提供）を設置しております。登録された情報は、当紹介所で管理し秘密は厳守いたします。
現在、下記のとおり情報が寄せられております。お気軽にご利用ください。
お申し込み・お問い合わせは当紹介所へ直接お願いいたします。
また、宮崎県医師会ホームページでも手続きと情報のあらましを紹介しておりますのでご覧ください。

1. 求職者登録数 12人

希望診療科目	求 職 数	常 勤	非 常 勤
内 科	4	2	2
外 科	1	0	1
整 形 外 科	1	1	0
精 神 科	2	1	1
眼 科	1	0	1
消 化 器 内 科	1	0	1
放 射 線 科	1	0	1
神 経 内 科	1	0	1

2. 斡旋成立件数 111人

	合 計
令和8年度(4/1～7/1)	1
平成16年度から累計	111

3. 求人登録 82件 231人

(人)

募集診療科目	求人数	常 勤	非常勤
内 科	63	41	22
外 科	14	12	2
整 形 外 科	18	16	2
精 神 科	8	7	1
脳 神 経 外 科	2	2	0
循 環 器 科	12	10	2
消 化 器 内 科	17	12	5
麻 酔 科	5	4	1
眼 科	7	4	3
放 射 線 科	5	5	0
小 児 科	3	2	1
呼 吸 器 科	0	0	0
在 宅 診 療	3	2	1
総合診療科・内科	9	7	2
脳 神 経 内 科	1	1	0
呼 吸 器 内 科	8	7	1
リハビリテーション科	5	3	2
救 命 救 急 科	8	5	3

募集診療科目	求人数	常 勤	非常勤
消 化 器 外 科	7	4	3
乳 腺 外 科	2	2	0
健 診	2	2	0
泌 尿 器 科	4	3	1
産 婦 人 科	0	0	0
検 診	0	0	0
皮 膚 科	0	0	0
婦 人 科	0	0	0
呼 吸 器 外 科	0	0	0
人 工 透 析	12	9	3
リウマチ科	2	1	1
臨床病理科	0	0	0
形 成 外 科	0	0	0
診療科目不問	8	4	4
緩和ケア	3	3	0
内分泌糖尿病内科	3	3	0
そ の 他	0	0	0
合 計	231	171	60

求 人 登 録 者 (公 開)

※求人情報は、申し込みが必要です。宮崎県医師協同組合、
無料職業紹介所（ドクターバンク）へお申し込み下さい。

※下記の医療機関は、公開について同意をいただいております。

登録番号	施 設 名	所在地	募集診療科	求人数	勤務形態
160013	医)三晴会 金丸脳神経外科病院	宮崎市	整,リハ,神内,循内,脳外	5	常勤・非常勤
160017	医)宮崎博愛会 さがら病院宮崎	宮崎市	乳外,緩和	2	常勤
160031	社医)同心会 古賀総合病院	宮崎市	内,外,整	4	常勤・非常勤
170048	社医)慶明会 けいめい記念病院	国富町	内	2	常勤・非常勤
190087	公社)宮崎市郡医師会病院	宮崎市	消内,呼内,総診	5	常勤
190094	社医)耕和会 迫田病院	宮崎市	外,整,総診	3	常勤
190095	社医)慶明会 宮崎中央眼科病院	宮崎市	眼	1	常勤
200104	社医)善仁会 宮崎善仁会病院	宮崎市	救急,外,呼内,消内,糖内	11	常勤・非常勤
200105	医)誠友会 南部病院	宮崎市	外,内,放	3	常勤
210110	医)幸秀会 大江整形外科病院	宮崎市	整	1	常勤
230139	社福)介護老人保健施設 サンフローラみやざき	国富町	内	1	非常勤
230144	生協)宮崎生協病院	宮崎市	消内,腎内,透,循内,呼内,内,健診,麻	15	常勤・非常勤
230146	財)潤和リハビリテーション振興財団潤和会記念病院	宮崎市	整,脳外,緩和,救急	4	常勤
230177	医)社団尚成会 近間病院	宮崎市	内,消内,消外	4	常勤・非常勤
230185	医)朋詠会 獅子目整形外科病院	宮崎市	整,内	2	常勤
230194	医)財団シロアム会 新城眼科医院	宮崎市	眼	2	常勤・非常勤
230196	医)社団高信会 辰元病院	宮崎市	内	1	常勤
230209	財)弘潤会 野崎東病院	宮崎市	内	1	常勤
230213	医)聖美会 南宮崎ヤマモト腎泌尿器科	宮崎市	泌,内,透 (いずれか)	1	常勤
230214	医)聖美会 青島リゾートクリニック	宮崎市	内,外,リハ (いずれか)	1	常勤
230215	医)社団紘和会 平和台病院	宮崎市	糖内,消内	3	常勤
230217	医)けいあい かいクリニック	宮崎市	整,リハ,リウ	6	常勤・非常勤
230220	医)社団 宮崎医療センター病院	宮崎市	総診,内,消内,呼内,整 (いずれか)	1	常勤
230224	医)雅会 河野整形外科	宮崎市	内	1	非常勤
230227	医)マナビヤ マナビヤ在宅クリニック「un」	宮崎市	不問	3	常勤・非常勤
230230	医)りっか会 ピア・ささき病院	宮崎市	精,内	3	常勤・非常勤
230235	医)青葉会 のぎきクリニック	宮崎市	内,整	2	常勤
230241	医)慈光会 宮崎若久病院	宮崎市	精	1	常勤
230243	医)よしき会 どんぐりこども診療所	宮崎市	小	1	常勤
230246	医)灯仁会 あおやま訪問・救急クリニック	宮崎市	救急,内,在宅,総診,不問	10	常勤・非常勤
230247	滝口内科	宮崎市	精	2	常勤・非常勤
230250	医)恒友会 ひろせみらいクリニック	宮崎市	内,透,泌 (いずれか)	2	常勤・非常勤
230252	あかり在宅クリニック	宮崎市	内,外,緩和	3	常勤
160010	特医)敬和会 戸嶋病院	都城市	内	1	常勤
160018	医)宏仁会 メディカルシティ東部病院	都城市	整,消内,消外,麻,循内	5	常勤
170057	医)清陵会 隅病院	都城市	内,整,訪診	3	常勤
190092	公社)都城市郡医師会病院	都城市	内,呼内,消内	6	常勤
230127	医)倫生会 三州病院	都城市	内,消内,消外,外,乳外,麻,緩和	6	常勤・非常勤

登録番号	施 設 名	所在地	募集診療科	求人数	勤務形態
230137	医) 宏仁会 海老原内科	都城市	内	1	常勤
230162	一社) 藤元メディカル藤元総合病院	都城市	内, 循内, 救急, 呼内, 放	10	常勤
230179	医) 与州会 柳田病院	都城市	外	1	常勤
230181	医) 社団牧会 介護老人保健施設はまゆう	三股町	内	1	常勤
230192	医) 社団明晴会 速見泌尿器科内科医院	都城市	腎内	1	常勤・非常勤
230208	医) 社団樺の葉 ホームクリニックみまた	三股町	内	1	常勤・非常勤
230225	医) 社団明恵会 早水公園クリニック	都城市	内	2	常勤・非常勤
230244	医) 社団清風会 清風会クリニック	都城市	血内, 泌, 腎内	6	常勤・非常勤
160012	医) 伸和会 延岡共立病院	延岡市	整, 内, 放	4	常勤
160021	医) 建悠会 吉田病院	延岡市	精	1	常勤
190086	医) 早田病院	延岡市	消内, 循内	2	常勤
200100	医) 育生会 井上病院	延岡市	小	1	常勤
200102	一社) 延岡市医師会病院	延岡市	内, 消内, 消外, 放	4	常勤
210109	一社) 延岡市夜間急病センター	延岡市	内, 小	2	非常勤
230186	医) 隆誠会 延岡保養園	延岡市	精, 内	2	常勤
230189	特医) 健腎会 おがわクリニック	延岡市	泌, 透	2	常勤
230203	医) 杉杏会 杉本病院	延岡市	内	1	非常勤
230210	医) あつきこころ 大貫診療所	延岡市	内, 外 (いずれか)	1	常勤
230219	財) 延岡リハビリテーション病院	延岡市	内, 整, リハ	3	常勤
230238	医) en. 縁・在宅クリニック	延岡市	不問	2	常勤・非常勤
230245	医) 健寿会 黒木病院	延岡市	消内, 消外	2	非常勤
160039	医) 誠和会 和田病院	日向市	外	2	常勤
230200	医) おざきメディカルアソシエイツ 尾崎眼科	日向市	眼	1	常勤・非常勤
230232	医) 社団弘文会 松岡内科医院	日向市	内, 透 (いずれか)	1	非常勤
230239	稲原眼科医院	日向市	眼	1	非常勤
230249	医) 洋承会 今給黎医院	日向市	内, 循内	2	非常勤
160023	医) 宏仁会 海老原総合病院	高鍋町	内, 外, 麻, 健診	4	常勤
230223	医) 聖山会 川南病院	川南町	内, 腎内	3	常勤
160024	医) 隆徳会 鶴田病院	西都市	内, 外, 整, 総診, 透, 循内	6	常勤
150002	社医) 慶明会 おび中央病院	日南市	内, リハ	3	常勤・非常勤
160022	医) 愛鍼会 山元医院	日南市	内	1	常勤
160037	医) 十善会 県南病院	串間市	精, 内	2	常勤
230149	社医) 介護老人保健施設 おびの里	日南市	内	1	常勤
230188	医) 春光会 春光会記念病院	日南市	内, 整	4	常勤・非常勤
230211	医) 秀英会 介護老人保健施設長寿の里	串間市	不問	1	常勤
230236	医) 和真会 東内科クリニック	日南市	透	1	常勤
160019	医) 相愛会 桑原記念病院	小林市	循内, 内, 外	4	常勤・非常勤
170043	医) 和芳会 小林中央眼科	小林市	眼	2	常勤・非常勤
180076	医) けんゆう会 園田病院	小林市	外, 内, 総診	6	常勤・非常勤
190091	医) 友愛会 野尻中央病院	小林市	内	1	非常勤
230169	医) 連理会 和田クリニック	小林市	腎内, 泌, 内	2	常勤・非常勤
230197	医) 友光会 整形外科押領司病院	小林市	整, 内, 循内	3	常勤・非常勤
230218	医) 養気会 池井病院	小林市	腎内	1	常勤
230237	医) 東陽会 整形外科前原病院	小林市	整	1	常勤

病医院施設の譲渡・賃貸

◆譲渡、賃貸希望の物件を紹介いたします。

令和8年7月1日現在

1. 譲渡物件	① 宮崎市阿波岐ヶ原町前田2633番, 2634番 土地のみ: 2,022.17㎡ (612.77坪) 所有者: 児湯医師会員 (医) 崧雲会 林クリニック
	② 西都市中央町2丁目6番地 土地: 2,280.83㎡ (691.16坪) 建物: 鉄筋コンクリート造陸屋根3階建 1階 674.74㎡ 2階 547.79㎡ 3階 177.95㎡ 計 1,400.48㎡ (424.38坪) ※別途駐車場あり(20台) 所有者: 西都市西児湯医師会員 図師医院跡
	③ 延岡市無鹿町1丁目710 土地: 1,654.58㎡ (501.38坪) 建物: 鉄筋コンクリート造陸屋根4階建 1階 145.76㎡ 2階 338.70㎡ 3階 330.69㎡ 4階 14.25㎡ 計 829.40㎡ (251.33坪) ※駐車場あり(50台) 所有者: (医) 社団 隆豊 江崎医院跡
	④ 日向市財光寺615 土地: 1,704.79㎡ (515.70坪) 建物: 鉄筋コンクリート2階建 1階 333.69㎡ 2階 117.27㎡ 車庫 36.60㎡ 計 487.56㎡ (147.49坪) ※駐車場あり(16台) 所有者: 日向市東臼杵郡医師会員 吉田クリニック
	⑤ 延岡市本町2丁目3-5 土地: 893.18㎡ (270.19坪) 建物: 木造スレート葺2階建 1階 173.08㎡ 2階 44.72㎡ 計 217.80㎡ (65.89坪) ※駐車場あり(15台) 所有者: 延岡市医師会員 (医) 社団 戸島クリニック
2. 賃貸物件又は	① 児湯郡川南町大字平田1402-74 土地: 4,449㎡ (1,348.18坪) 建物: 鉄骨セメント造平屋建 1階 825.66㎡ (250.20坪) ※駐車場あり(70台) 所有者: 児湯医師会員 (医) 崧雲会 林クリニック
3. 賃貸物件	① 宮崎市大字本郷南方字榎田2541番地1 土地: 750.44㎡ (227.40坪) 建物: 木造スレートぶき2階建 1階 255.27㎡ 2階 73.50㎡ 計 328.77㎡ (99.62坪) ※駐車場あり(15台) 所有者: 宮崎市郡医師会員 滝口内科 (旧) のぞみ医院跡
	② 宮崎市大字本郷南方2456番地1 土地: 1801.76㎡ (545.03坪) 建物: 鉄筋コンクリート造陸屋根3階建 1階 282.52㎡ (85.46坪) ※駐車場あり(20台) 所有者: 宮崎市郡医師会員 平部整形外科医院跡

ドクターバンク無料職業紹介所利用のご案内

1. 取扱範囲は宮崎県内全域です。但し、求職者は県外でも結構です。
2. 紹介受付は、月～金の9時～12時及び13時～17時です。
3. 申込み方法は、所定の用紙「求職票」「求人票」にご記入後登録させていただきます。
4. ご希望に沿った先を斡旋させていただきます。
5. 求職者の紹介時には各医療機関で医師免許等のご確認をお願いいたします。
6. 斡旋成立時の紹介料は、「求人」「求職」いずれも無料です。

☎お問合せ先

ドクターバンク無料職業紹介所

〒880-0023 宮崎市和知川原1丁目101番地 (宮崎県医師協同組合)

TEL 0985-23-9100(代)・FAX 0985-23-9179 E-mail: isikyoku@miyazaki.med.or.jp

宮 崎 県 医 師 会 行 事 予 定 表

令和8年7月23日

8			月		
1	土	14:20 日産婦医会性教育指導セミナー全国大会 15:00 (鹿児島)九州学校検診協議会専門委員会 16:00 (鹿児島)九医連常任委員会 17:00 (鹿児島)九州学校検診協議会役員会 18:00 (鹿児島)九州各県医師会学校保健担当理事者会	19	水	16:00 支払基金審査運営協議会
			20	木	13:30 (都城市)社会保険医療担当者の個別指導 19:00 県産婦人科医会全理事会(Web会議)
			21	金	19:00 県警察医会協議会(Web会議) ↑
2	日	8:30 日産婦医会性教育指導セミナー全国大会 9:00 (鹿児島)九プロ学校保健・学校医大会/九州学校検診協議会 11:30 (鹿児島)九医連学校医会評議員会	22	土	9:00 県産婦人科医会新生児蘇生法講習会 16:00 (鹿児島)九医連常任委員会 17:00 (鹿児島)九医連定例委員総会 18:00 (鹿児島)九州医連連絡会執行委員会 ↑
3	月	13:30 県地方独立行政法人評価委員会 13:30 全国医師会共同利用施設総会打合会会場視察 18:00 県感染症危機管理研修会・予防接種従事者研修会(Web会議) 19:00 県内科医会理事会(Web会議)	23	日	9:00 中四九地区医師会看護学校協議会(Web会議)
			24	月	17:00 県地域医療対策協議会プログラム運用部会 18:00 県地域医療対策協議会 19:00 広報委員会
4	火	10:00 県総合計画審議会 14:00 県自殺対策推進協議会 19:00 第5回常任理事協議会			
5	水				
6	木				
7	金	13:00 県日本のひなた宮崎国スポ・障スポ 実行委員会常任委員会・総会・講演会 18:30 県外科医会夏期講演会(Web会議)	25	火	14:30 県国保等はり、きゅう及びあん摩マッサージ療養費審査委員会 18:00 九州地方社会保険医療協議会宮崎部会 18:30 医師協理事会 19:00 医師協理事・運営委員合同協議会 終了後 第10回全理事協議会
8	土				
9	日				
10	月	19:00 県生活習慣病検診各部会長連絡協議会	26	水	15:00 労災診療指導委員会・労災部会理事会 17:30 県周産期医療協議会
11	火	(山の日)			
12	水		27	木	
13	木		28	金	13:30 宮大学長選考・監察会議 18:45 学校医部会総会・医学会(Web会議)
14	金				
15	土				
16	日		29	土	12:30 保育支援事業スキルアップ研修会・全体顔合わせ会 14:30 産業医研修会(前期) 15:00 (長崎)九州地区医師国保組合連合会監査会 16:00 (長崎)九州地区医師国保組合連合会理事会・全体協議会 16:30 (福岡)九医協連理事会
17	月	18:30 県訪問看護ステーション連絡協議会役員会			
18	火	19:00 第9回全理事協議会(Web会議)	30	日	9:00 人体シミュレータを用いた在宅医療研修会
			31	月	19:00 ワークインライフ委員会(Web会議)

※都合により、変更になることがあります。
行事予定は県医師会のホームページからご覧になれます。

宮 崎 県 医 師 会 行 事 予 定 表

令和8年7月23日

9			月		
1	火	19:00 第6回常任理事協議会	17	木	19:00 県有床診療所協議会総会・講演会 (Web会議)
2	水		18	金	19:00 宮大未来の医療を語るオー ルみやざき交流会
3	木	14:30 地方公務員災害補償基金宮崎県支部審査会 16:30 県立病院事業評価委員会	19	土	
4	金	19:00 認知症サポート医・かかりつけス キルアップ研修会 (Web会議)	20	日	
5	土	14:30 全国国保組合協会九州支部幹事会 ・総会・役職員研修会 県医師会医学会 (Web会議)	21	月	(敬老の日)
6	日		22	火	(国民の休日)
7	月		23	水	(秋分の日)
8	火	19:00 第11回全理事協議会 (Web会議)	24	木	14:30 県国保等はり、きゅう及び あん摩マッサージ療養費審 査委員会 19:00 広報委員会
9	水		25	金	
10	木	19:00 県産婦人科医会常任理事会 (Web会議)	26	土	15:00 県産婦人科医会・県産科婦人科学 会秋期定時総会・市民公開講座 (Web会議)
11	金		27	日	
12	土		28	月	18:45 園医部会総会・研修会 (Web会議)
13	日		29	火	18:00 九州地方社会保険医療協議会宮崎部会 18:00 医師協理事会 18:30 医師協理事・運営委員合同協議会 終了後 第12回全理事協議会 19:00 各郡市医師会長協議会
14	月	19:00 広報委員会	30	水	15:00 労災診療指導委員会・労災部会理事会
15	火	15:00 (日医) 都道府県医師会長会議			
16	水	16:00 支払基金審査運営協議会			

※都合により、変更になることがあります。
行事予定は県医師会のホームページからご覧になれます。

作品
募集中

生命

いのち

第10回

を見つめる
フォト&エッセー生命の大切さや
心温まるエピソードを
写真やエッセーで
伝えてみませんか

応募締め切り

2026年
10月2日(金)
必着

フォト部門

生命の尊さを感じさせる、
あるいは生命の輝く瞬間を
とらえた作品を募集します。最高
賞金 10 万円

審査員 (順不同、敬称略)

黒切大輔
日本写真家協会会長岩合光昭
動物写真家
©Machi Iwano 他

エッセー部門

医師や看護師との交流、ご
家族の介護や生命の誕生に
まつわる話などを募集します。最高
賞金 30 万円

審査員 (順不同、敬称略)

養老孟司
東京大学名誉教授
/ 解剖学者玄侑宗久
作家 / 福原寺住職水野真紀
俳優 他公式ホームページ <https://jigyoku.yomiuri.co.jp/photo-essay/>

生命を見つめるフォト&エッセー 検索



主催：日本医師会、読売新聞社 後援：厚生労働省、文部科学省 協賛：東京海上日動火災保険株式会社、東京海上日動あんしん生命保険株式会社

フォト部門



生命の尊さを感じさせる、あるいは生命の輝く瞬間をとらえた作品を募集します。人、動物、自然など被写体は自由です。

- 作品のプリントサイズは、キャビネ判(2L)とします。
- 応募作品は、2023年6月1日以降に撮影したものに限りです。
- 応募は1人3点まで。生成AIを利用して作成・編集した作品は応募できません。



一般の部

- 厚生労働大臣賞(1点).....賞金 10万円・賞状他
- 日本医師会賞(1点).....賞金 10万円・賞状他
- 読売新聞社賞(1点).....賞金 10万円・賞状他
- 東京海上日動賞(1点).....賞金 10万円・賞状他
- 審査員特別賞(数点).....賞金 5万円・賞状他



小中高生の部

- 文部科学大臣賞(1点).....QUOカード 3万円分・賞状他
- 審査員特別賞(数点).....QUOカード 5千円分・賞状他

エッセー部門



病気やけがをした時の医師や看護師との交流、ご家族の介護や生命の誕生にまつわる話などを募集します(お世話になった医師や看護師らに宛てた「感謝の手紙」なども可)。

また、医師(医学生も含む)の皆さんからは医師になろうと思ったきっかけやエピソードなどもお待ちしています。

小学生の部では、日々の生活の中で生命の大切さを感じた出来事などをお送りください(手紙形式も可)。

- 応募作品は、2000字(原稿用紙1~5枚)以内とします。
- 応募は1人1点。生成AIを利用して作成した作品は応募できません。



一般の部

- 厚生労働大臣賞(1点).....賞金 30万円・賞状他
- 日本医師会賞(1点).....賞金 30万円・賞状他
- 読売新聞社賞(1点).....賞金 30万円・賞状他
- 東京海上日動あんしん生命賞(1点).....賞金 30万円・賞状他
- 審査員特別賞(数点).....賞金 10万円・賞状他



中高生の部

- 文部科学大臣賞(1点).....QUOカード 3万円分・賞状他
- 審査員特別賞(数点).....QUOカード 5千円分・賞状他



小学生高学年の部

- 文部科学大臣賞(1点).....QUOカード 1万円分・賞状他
- 審査員特別賞(数点).....QUOカード 5千円分・賞状他



小学生低学年の部

- 文部科学大臣賞(1点).....QUOカード 5千円分・賞状他
- 審査員特別賞(数点).....QUOカード 3千円分・賞状他

応募規定

- 応募作品は自作。フォト部門は応募者本人が撮影した未発表の作品に限り、エッセー部門は、直筆・録音・録画による創作作品の応募は固くお断りいたします。
- 応募作品は、2023年2月頃を予定しています。新聞紙面およびウェブサイト、作品と実名・年齢・顔写真・学校名(小中高生の場合)に掲載します。ペンネーム、イニシャル等による発表はできません。
- 表彰式は2023年2月に東京都内で実施予定です。
- 医師および医療従事者も応募可能です。※応募規定の詳細は公式ホームページをご確認ください。

応募方法

お問い合わせ

- ウェブからの応募も可能です。詳細は公式ホームページ(https://jigyoku.yomiuri.co.jp/photo-essay/)をご覧ください。
- エッセー部門は、直筆の場合、鉛筆(8または2B)・ボールペン・万年筆のいずれかを使い、書く書いてください。
- 郵送の場合は、作品に下記の応募用紙をつけて封筒に応募部門を記載の上、送付してください。



公式ホームページQRコード

読売新聞東京本社 社会貢献事業室「生命を見つめるフォト&エッセー」事務局
TEL:03-3216-8598 (平日10:00~17:00)

作品送付先:〒104-0061 東京都中央区銀座7-15-5 共同ビル3F「生命を見つめるフォト&エッセー」係

応募用紙

応募部門

フォト部門

フォト部門

エッセー部門

エッセー部門

エッセー部門

エッセー部門

一般の部

小中高生の部

一般の部

中高生の部

小学生高学年の部

小学生低学年の部

(4~6年生)

(1~3年生)

題名

氏名

ふりがな

住所

都 道 府 県

年齢

西暦 年 月 日生 歳

Mail

@

Tel

() -

職業(学校名)

フォト部門のみ

撮影年月日

撮影場所

撮影機材

202

年

月

日

入選確認の上
チェックを
してください

- ☐ この作品は他のコンクール、コンテストなどに応募したものではありません
- ☐ この作品は自作。フォト部門は応募者本人が撮影した未発表の作品で間違いありません
- ☐ 入賞作品は、主催者・協賛社のホームページ、読売新聞紙面などに実名・年齢・作品・顔写真等を発表する他、作品に関する取材があることに同意します
- ☐ (フォト部門)被写体の肖像権やプライバシーの侵害、事実関係に問題ありません

応募
きつ
かけ

- [1] チラシ(どこで:) [2] 学校(小・中・高・大・専門) [3] 読売新聞紙面 [4] 公式ホームページ
- [5] 日本医師会(ホームページ・YouTube・LINE 公式アカウント) [6] 公募サイト(サイト名:)
- [7] その他(具体的に)

※氏名は実名のみの受付となります。応募用紙をフォト部門は写真の裏側に、エッセー部門は作品の右上に留めてください。1作品に1枚、応募用紙が必要です。

応募締め切り

2026年

10月2日(金)

必着

入賞作品についての著作権

両部門とも、入賞作品について、
読売新聞紙上及びその他広報物・展示に使用する権利は、
主催者が有します。

医 学 会 ・ 講 演 会

日本医師会生涯教育講座認定学会

単位：日本医師会生涯教育制度認定単位数，CC：カリキュラムコード

がん検診：各種がん検診登録・指定・更新による研修会 (胃)・(大腸)・(肺)・(乳)

〔現地〕…現地参加のみ 〔現地・Web〕…現地参加またはWeb聴講

〔Web〕…Web聴講のみ ※Webの場合，会場は記載いたしません。

詳細および最新情報はこちら



令和8年度宮崎県感染症危機管理研修会・予防接種従事者研修会

8月3日(月) 18:00～20:00 [Web]

「予防接種に関する基本的な知識と最近の話題」

防衛医科大学校病院

医療安全・感染対策部 感染対策室

准教授・感染対策室長

新庄 正宜

「ポストコロナ時代の感染症危機管理」

防衛医科大学校 防衛医学研究センター センター長

兼 広域感染症疫学・制御研究部門長

加來 浩器

主催：宮崎県

共催：宮崎県医師会 ☎0985-22-5118

CC(単位)：8 (1.0)，11 (1.0)

宮崎市郡産婦人科医会学術講演会

8月3日(月) 19:00～20:00 [現地・Web]

宮崎市郡医師会館

「産婦人科医による減量治療の実践

～肥満症治療薬で人生に彩りを～」

社会福祉法人恩賜財団済生会支部

済生会長崎病院 産婦人科 部長

河野 通晴，他

他演題あり

主催：宮崎市郡産婦人科医会

共催：ノボノルディスクファーマ(株)

連絡先：宮崎市郡医師会 ☎0985-77-9100

CC(単位)：23 (1.0)

宮崎県医師会産業医研修会

8月5日(水) 19:00～21:00 [現地]

延岡市医師会病院

「産業医の職務と事業者の安全配慮義務」

産業保健相談員 労働衛生コンサルタント

田中 伸明

主催：宮崎産業保健総合支援センター

☎0985-62-2511

共催：宮崎県医師会

CC(単位)：6 (2.0)

生涯研修の専門研修会：2単位

宮崎県内科医会学術講演会

～MASH Clinical Update 2026～

8月6日(木) 19:00～20:30 [現地・Web]

アートホテル宮崎スカイタワー

「実臨床からみたMASH診療

～地域診療所におけるSLD 416例から見えてきたこと～」

ひろの内科クリニック 院長

弘野 修一

「循環器内科医から診た肥満症

～取り組みのご紹介～」

県立延岡病院 循環器内科 主任部長

山本 展誉

主催：宮崎県内科医会

共催：ノボノルディスクファーマ(株)

☎080-9687-8822

CC(単位)：23 (1.0)，73 (0.5)

宮崎県医師会産業医研修会

8月6日(木) 19:00~21:00 [現地]

都城市北諸県郡医師会館

「自律的な化学物質管理とCREATE-SIMPLEを用いたリスクアセスメント」

産業保健相談員

なかほぎ労働衛生コンサルタント事務所 所長
中甫木 直樹

主催：宮崎産業保健総合支援センター

☎0985-62-2511

共催：宮崎県医師会

CC(単位)：0 (2.0)

生涯研修の実地研修会：2単位

西都市西児湯内科医会学術講演会

8月6日(木) 19:00~20:00 [現地]

西都市西児湯医師会館

**「その血圧本当にコントロールできていますか？
～高血圧ガイドライン2025から考える(仮)」**

こいわや循環器内科クリニック 院長

小岩屋 宏

主催：西都市西児湯医師会内科医会

共催：西都市西児湯医師会 ☎0983-43-1687

ノバルティスファーマ(株)、大塚製薬(株)

CC(単位)：74 (1.0)

All Miyazaki 総合診療 サマーセミナー

8月8日(土) 14:00~17:00 [現地・Web]

ひなたキャンパス

「総合診療医って結局何屋さん？」国民健康保険諸塚診療所 徳地 舜平, 他
他演題あり

主催：宮崎大学医学部総合診療科学講座

☎0985-85-9809

CC(単位)：0 (2.5)

宮崎県医師会産業医研修会

8月12日(水) 19:00~21:00 [現地]

宮崎県医師会館

「第14次労働災害防止計画の概要と重要ポイント」

産業保健相談員

産業医 江藤 敏治

主催：宮崎産業保健総合支援センター

☎0985-62-2511

共催：宮崎県医師会

CC(単位)：6 (2.0)

生涯研修の更新研修会：2単位

宮崎県内科医会学術講演会～感染症予防セミナー～

8月18日(火) 18:20~19:30 [Web]

**「リアルワールドデータから考えるCOVID-19・
インフルエンザワクチンの有効性**

～VERSUS研究とEVOLVE研究からの知見～

長崎大学 熱帯医学研究所

呼吸器ワクチン疫学分野 准教授 前田 遼

主催：宮崎県内科医会

共催：Meiji Seikaファルマ(株) ☎0985-25-6215

CC(単位)：11 (1.0)

西諸医師会・西諸内科医会合同学術講演会

8月18日(火) 19:00~20:00 [現地・Web]

西諸医師会館

「膠原病関連間質性肺炎～早期発見のポイント～」

宮崎市郡医師会病院 内科 医長 川口 剛

「明日から役立つ間質性肺疾患診療のナレッジ」

宮崎大学医学部 内科学講座

呼吸器・膠原病・感染症・脳神経内科学分野

准教授 柳 重久

主催：西諸医師会 ☎0984-23-2113

共催：西諸内科医会

日本ベーリンガーインゲルハイム(株)

CC(単位)：45 (0.5), 46 (0.5)

宮崎県医師会産業医研修会

8月19日(水) 19:00~21:00 [現地]

延岡市医師会病院

「事業場のゲートキーパー活動を支援するために」

産業保健相談員 人財科学研究所 代表

工藤 智徳

主催：宮崎産業保健総合支援センター

☎0985-62-2511

共催：宮崎県医師会
CC(単位)：11 (2.0)
生涯研修の専門研修会：2単位

**第22回在宅医療推進のための連携・スキルアップ
研修会**

8月20日(木) 19:00～20:00 [現地・Web]
宮崎市郡医師会館

「医療的ケア児の暮らしと現在の医療」

はながしま診療所 院長 澤田 一美
主催：宮崎市郡医師会地域包括ケア推進センター
☎0985-77-9106
CC(単位)：11 (1.0)

延岡医学会学術講演会

8月21日(金) 19:00～20:00 [現地・Web]
キャトルセゾンマツイ

「静かに心腎を蝕む高尿酸血症

～その背景に潜むリスクと介入の意義～」
名古屋市立大学大学院医学研究所
循環器内科学 主任教授 瀬尾 由広
主催：延岡医学会
共催：持田製薬(株)
連絡先：延岡市医師会 ☎0982-21-1300
CC(単位)：82 (1.0)

第64回宮崎救急医学会

8月22日(土) 13:00～18:00 [現地]
県立延岡病院

「宮崎県における救急医療の現状と地域医療構想」

福岡国際医療福祉大学 学長 松田 晋哉
主催：第64回宮崎救急医学会
連絡先：県立延岡病院 ☎0982-32-6625
CC(単位)：14 (1.0)
参加費：1,000円

宮崎県精神科診療所協会学術講演会

8月22日(土) 18:00～19:00 [現地]
ひなたキャンパス

「我が国におけるGAD治療の新時代

～venlafaxineをどう活用するか～

医療法人 高仁会 戸田病院 院長 大坪 天平
主催：宮崎県精神科診療所協会
共催：ヴィアトリス製薬(同) ☎080-5059-1141
CC(単位)：69 (1.0)

宮崎県医師会産業医研修会

8月26日(水) 14:00～16:00 [現地]
宮崎県医師会館

「職場でのアルコール依存症に対する対策」

産業保健相談員 精神科専門医・指導医 直野 慶子
主催：宮崎産業保健総合支援センター
☎0985-62-2511

共催：宮崎県医師会
CC(単位)：11 (2.0)
生涯研修の専門研修会：2単位

宮崎県医師会産業医研修会

8月26日(水) 19:00～21:00 [現地]
宮崎県医師会館

「今日のうつ病の現状と対策」

産業保健相談員 中村クリニック 院長 中村 究
主催：宮崎産業保健総合支援センター
☎0985-62-2511

共催：宮崎県医師会
CC(単位)：70 (2.0)
生涯研修の専門研修会：2単位

宮崎県医師会産業医研修会

8月26日(水) 19:00～21:00 [現地]
日南市テクノセンター

「第14次労働災害防止計画の概要と重要ポイント」

産業保健相談員 江藤 敏治
産業医
主催：宮崎産業保健総合支援センター
☎0985-62-2511

共催：宮崎県医師会
CC(単位)：6 (2.0)
生涯研修の更新研修会：2単位

インフルエンザ診療を考える in 宮崎

8月26日(水) 19:00~20:00 [Web]

「インフルエンザ診療に思いを込めて」

静岡厚生病院 小児科 診療部長 田中 敏博

主催：宮崎県小児科医会

共催：第一三共(株) ☎080-1393-2113

後援：宮崎県医師会

CC(単位)：8 (1.0)

延岡医学会学術講演会

8月28日(金) 19:00~20:00 [現地・Web]

エンシティホテル延岡

「肺癌治療の進歩～早期から進行期まで～」

北九州総合病院 特別顧問

産業医科大学 特別臨床教授 田中 文啓

主催：延岡医学会

共催：プリストル・マイヤーズスクイブ(株)

小野薬品工業(株)

連絡先：延岡市医師会 ☎0982-21-1300

CC(単位)：12 (1.0)

令和8年度第2回宮崎県立延岡病院緩和ケア研修会

8月29日(土) 9:30~17:30 [現地]

県立延岡病院

「e-learningの復習・質問」

県立延岡病院 医師 能勢 直弘, 他

「コミュニケーション」

医療法人清芳会 井上病院 医師 並木 薫

「全人的苦痛に対する緩和ケア」

宮崎医療センター病院 医師 山崎 浩司, 他

「療養場所の選択と地域連携」

医療法人誠和会 和田病院 医師 丸田 望

主催：県立延岡病院 ☎0982-32-6774

CC(単位)：5 (0.5), 4 (1.5), 53 (1.5), 81 (1.5)

宮崎県内科医会学術講演会

9月1日(火) 19:00~20:00 [現地・Web]

KITENビル

「高齢者の肺炎対策

～高用量インフルエンザHAワクチンを含めて～」

宮崎大学医学部 内科学講座

呼吸器・膠原病・感染症・脳神経内科学 教授

宮崎 泰可

主催：宮崎県内科医会

共催：サノフィ(株) ☎080-6628-7718

CC(単位)：8 (1.0)

西都市西児湯内科医会学術講演会

9月3日(木) 19:00~20:15 [現地・Web]

西都市西児湯医師会館

「無呼吸だけじゃない！睡眠障害の日常診療

～「眠れない・眠い」～へのアプローチとCPAP

の最新動向～」

潤和会記念病院 脳神経内科 医長 中尾 紘一

主催：西都市西児湯内科医会

共催：西都市西児湯医師会 ☎0983-43-1687

帝人ヘルスケア(株)

CC(単位)：20 (1.0)

第37回宮崎県糖尿病教育セミナー

9月6日(日) 9:55~16:45 [現地]

南九州大学 都城キャンパス

「糖尿病UP DATE 腎臓を守るためにできること」

宮崎大学医学部 内科学講座

循環器・腎臓内科学分野 助教 皆川 明大

「スティグマをなくすために医療従事者がするべきこと」

宮永病院糖尿病センター 医師 中村 孝之

「外食・中食の支援～選び方を支える栄養指導～」

宮永病院 管理栄養士 永山 美里

「調剤薬局における腎機能評価と治療支援」

総合メディカル(株) そうごう薬局 三股仲町店

薬剤師 福山 陽子

「糖尿病性腎症とともに歩む人をケアする」

平和台病院 看護師 脇坂 幸江

「糖尿病合併症に対する運動療法

～糖尿病性腎症中心に～」

都城市郡医師会病院 理学療法士

土屋 美香子

「歯周病を一から考える

～口から始まる糖尿病管理～」

永井歯科医院 院長

永井 省二

「糖尿病性腎症の食事療法

～低タンパク、高脂肪食に対する患者の戸惑い～」

西浦病院 管理栄養士 稲次 里美

主催：宮崎県糖尿病懇話会 ☎0985-22-8015

共催：宮崎地域糖尿病療養指導士認定機構
(株)三和化学研究所後援：宮崎県医師会，都城市北諸県郡医師会
宮崎県薬剤師会，宮崎県病院薬剤師会
宮崎県歯科医師会，宮崎県看護協会
宮崎県栄養士会，宮崎県臨床検査技師会CC(単位)：4 (1.0)，19 (0.5)，82 (0.5)，
73 (1.0)，76 (2.0)

参加費：3,000円

宮崎県医師会産業医研修会

9月9日(水) 19:00～21:00 [現地]

宮崎県医師会館

「企業における受動喫煙防止対策と禁煙支援」

産業保健相談員

産業医 江藤 敏治

主催：宮崎産業保健総合支援センター

☎0985-62-2511

共催：宮崎県医師会

CC(単位)：11 (2.0)

生涯研修の専門研修会：2単位

西諸医師会・西諸内科医会合同学術講演会

9月14日(月) 19:00～20:00 [現地・Web]

西諸医師会館

「最新の糖尿病治療とトピック」

宮崎大学医学部 内科学講座

血液・糖尿病・内分泌内科学分野 講師

上野 浩晶

主催：西諸医師会 ☎0984-23-2113

共催：西諸内科医会，住友ファーマ(株)

CC(単位)：76 (1.0)

宮崎県医師会産業医研修会

9月16日(水) 19:00～21:00 [現地]

宮崎県医師会館

「働く女性の健康問題を考えよう」

宮崎大学医学部大学院 看護学研究科 教授

金子 政時

主催：宮崎産業保健総合支援センター

☎0985-62-2511

共催：宮崎県医師会

CC(単位)：0 (2.0)

生涯研修の専門研修会：2単位

宮崎県医師会産業医研修会

9月25日(金) 14:00～16:00 [現地]

宮崎県医師会館

「有害化学物質の管理」

産業保健相談員

宮崎大学国際連携機構・国際連携センター

客員教授 黒田 嘉紀

主催：宮崎産業保健総合支援センター

☎0985-62-2511

共催：宮崎県医師会

CC(単位)：11 (2.0)

生涯研修の専門研修会：2単位

宮崎県医師会産業医研修会

9月30日(水) 19:00～21:00 [現地]

日南市テクノセンター

「企業における受動喫煙防止対策と禁煙支援」

産業保健相談員

産業医 江藤 敏治

主催：宮崎産業保健総合支援センター

☎0985-62-2511

共催：宮崎県医師会

CC(単位)：11 (2.0)

生涯研修の専門研修会：2単位

明日からの外来が変わる“新しい骨粗鬆症診療”

9月30日(水) 19:00~20:30 [現地・Web]

宮崎観光ホテル

「骨粗鬆症加療“骨折を防ぐ”をどう伝えるか？」

獅子目整形外科病院 院長 獅子目 亨

「“今”治療すべき理由**- Imminent fracture riskに基づくOVF診療」**

東海大学医学部 外科学系整形外科 准教授

檜山 明彦

主催：宮崎県整形外科医会

共催：アステラス製薬(株) ☎080-1310-6167

後援：アムジェン(株)

CC(単位)：77 (1.0)

第209回宮崎心臓病研究会

10月5日(月) 19:00~20:10 [現地・Web]

宮崎観光ホテル

「完全習得！降圧薬治療STEP in JSH 2025」

鹿児島大学大学院 医歯学総合研究科

心臓血管・高血圧内科学 教授 大石 充, 他
他演題あり

主催：宮崎心臓病研究会

共催：第一三共(株)

連絡先：宮崎市郡医師会病院 ☎0985-77-9101

CC(単位)：82 (1.0)

宮崎県医師会産業医研修会

10月7日(水) 19:00~21:00 [現地]

宮崎県医師会館

「自殺対策について」

産業保健相談員

中村クリニック 院長 中村 究

主催：宮崎県産業保健総合支援センター

☎0985-62-2511

共催：宮崎県医師会

CC(単位)：70 (2.0)

生涯研修の専門研修会：2単位

宮崎県医師会産業医研修会

10月8日(木) 19:00~21:00 [現地]

日南市テクノセンター

「自律的な化学物質管理とCREATE-SIMPLEを用いたリスクアセスメント」

産業保健相談員

なかほぎ労働衛生コンサルタント事務所 所長

中甫木 直樹

主催：宮崎産業保健総合支援センター

☎0985-62-2511

共催：宮崎県医師会

CC(単位)：0 (2.0)

生涯研修の実地研修会：2単位

宮崎県医師会産業医研修会

10月14日(水) 19:00~21:00 [現地]

宮崎県医師会館

「職場労災：腰痛の予防と悪化防止」

産業保健相談員

産業医 江藤 敏治

主催：宮崎産業保健総合支援センター

☎0985-62-2511

共催：宮崎県医師会

CC(単位)：60 (2.0)

生涯研修の専門研修会：2単位

宮崎県医師会産業医研修会

10月15日(木) 19:00~21:00 [現地]

宮崎県医師会館

「化学物質管理者制度と産業医**～化学物質の性状に関連の強い災害～」**

産業保健相談員

労働衛生コンサルタント 下津 義博

主催：宮崎産業保健総合支援センター

☎0985-62-2511

共催：宮崎県医師会

CC(単位)：0 (2.0)

生涯研修の専門研修会：2単位

第215回宮崎県眼科医会講習会

10月17日(土) 17:20～19:30 [現地]

ひなたキャンパス

**「新生血管型加齢黄斑変性の新治療戦略
～With MNV～」**

日本大学医学部 視覚科学系眼科学分野

診療教授 森 隆三郎

「最近のぶどう膜炎診療アップデート**～疫学の変化と診療ガイドライン第2版～」**

自治医科大学 眼科学講座 教授 蕪城 俊克

主催：宮崎県眼科医会 ☎0985-28-1015

共催：中外製薬㈱

CC(単位)：36 (2.0)

参加費：3,000円

宮崎県医師会産業医研修会

10月20日(火) 19:00～21:00 [現地]

都城市北諸県郡医師会館

「労働衛生関係法令」

宮崎産業保健総合支援センター 副所長

地福 竹志

主催：宮崎産業保健総合支援センター

☎0985-62-2511

共催：宮崎県医師会

CC(単位)：0 (2.0)

生涯研修の更新研修会：2単位

第75回宮崎県スポーツ学会

10月24日(土) 15:00～18:30 [現地]

宮崎大学清武キャンパス

「アスリートのトータルコンディショニングに看護師がどう関わるか?～ハイパフォーマンススポーツセンター看護師の役割～」

国立スポーツ科学センター

スポーツ医学研究部門 主任専門職

先崎 陽子

「ACL損傷・再建後患者におけるスポーツ復帰に向けた心理的準備」

順天堂大学 保健医療学部 理学療法学科 教授

相澤 純也

「オーバーヘッドアスリートの肩障害に挑む**～保存治療から手術治療、競技復帰まで～」**

名古屋市立大学 整形外科 准教授 吉田 雅人

主催：宮崎県スポーツ学会

共催：宮崎県整形外科医会

後援：宮崎県医師会、久光製薬㈱

連絡先：宮崎大学医学部整形外科

☎0985-85-0986

CC(単位)：5 (1.0), 10 (1.0), 57 (1.0)

日医認定健康スポーツ医学再研修会：3単位

参加費：1,000円

宮崎県医師会産業医研修会

10月30日(金) 19:00～21:00 [現地]

日南市テクノセンター

「行動変容理論に基づく健康診断事後保健指導の事例検討」

産業保健相談員

産業医

江藤 敏治

主催：宮崎産業保健総合支援センター

☎0985-62-2511

共催：宮崎県医師会

CC(単位)：11 (2.0)

生涯研修の实地研修会：2単位

診療メモ



医薬品の乱用（オーバードーズ）について

宮崎大学医学部 臨床神経科学講座 精神医学分野 大 平 洋 明
おお ひら ひろ あき

はじめに

オーバードーズ（overdose, 以下OD）は薬物乱用の一種で、定められた用法用量を逸脱した薬物使用のことを指します。用法用量が定められている製品、つまり合法的な薬物の乱用がODです。

ODされる薬物は処方薬、市販薬、サプリメントなど多岐にわたりますが、近年多く取り上げられるのは総合感冒薬や鎮痛薬などのOTC医薬品（over-the-counter drugs, 市販薬）です。「全国精神科医療施設における薬物関連精神疾患の実態調査（2024年）」によると、10年前の2016年ごろから特に10代20代においてOTC医薬品が薬物乱用の中心となり、症例数も増加しています。OTC医薬品の中でもとりわけ、薬剤師による対面での情報提供が義務づけられていない、第2類医薬品（指定第2類医薬品を含む）の乱用が問題になっています。以下、ODで問題となる成分やOTC医薬品の問題点、ODをした人への対応についてまとめます。

1 問題となる成分

指定濫用防止医薬品として厚生労働大臣が指定する医薬品には、エフェドリン、コデイン、ジヒドロコデイン、ジフェンヒドラミン、デキストロメトルフアン、プソイドエフェドリン、プロモバレリル尿素、メチルエフェドリンの8種類（外用剤を除く）があります。それにアリルイソプロピルアセチル尿素、カフェイン、アセトアミノフェンを加え、薬理作用やその成分を含むOTC医薬品の一部（主に令和6年度厚労科研・嶋根班による集計より）を表1にまとめました。

2 OTC医薬品の問題点

OTC医薬品は処方箋がなくても購入できます。セルフメディケーションを推進する政府の方針で、オンライン販売の解禁やスイッチ

OTC医薬品の拡大など、利便性は向上しています。反面、安全対策は十分とはいえません。例えば前述の指定濫用防止医薬品は、販売の際に18歳未満の若年者には氏名、年齢の確認、小容量での販売、購入者の状況の確認や濫用などにかかる情報提供の実施など、販売時の対策強化が進められてはいます。しかしたとえ小容量での販売でも数店舗まわれば容易に大量のOTC医薬品が手に入ります。また市販されている医薬品だからといって、含まれている成分がすべて安全であるとは限りません。処方薬としては過去の薬になりつつある第1世代の抗ヒスタミン薬や、国際的には医薬品として使用されていない成分（アリルイソプロピルアセチル尿素）などを含むOTC医薬品もあります。そしてOTC医薬品は1つの製品に複数の成分が配合されていることが多く、複数成分を過量内服することで多様な身体症状が出現するリスクや、薬物相互作用により身体症状が遷延する可能性もあります。更にOTC医薬品は、同じ商品名が付けられたシリーズ製品でも、製品ごとに含まれている成分が異なることがあり、シリーズ名だけでは摂取した成分を正確に把握できない、という問題もあります。

3 ODをした人への対応

急性中毒に対しては全身状態の評価と管理、吸収阻害や拮抗薬投与などの身体的な治療が第一です。また、ODとリストカットを同時に行っていることもあり、その場合には体の傷の治療も必要です。

しかし身体的な治療が終わればそれで治療終結、というわけではありません。ODはもちろん、自殺企図行動として行われることもありますが、死ぬつもりでなく、見えない心の傷や心の痛みに対する対処行動としてODを選択し、辛い気持ちを一時的に和らげる手段として行われていることも多いのが実情です。ですから、

その人の抱える苦痛，状況に変化がなければ，何度でも繰り返されてしまいます。なお，自傷や自殺企図の既往は，将来の自殺既遂の強力なリスク因子の一つです。

身体的な治療の次には，ODをしないと和らげられない辛さがどこからくるのか，聞ける範囲で尋ねることが望ましいと考えます。「何か辛いことがありましたか？」という医療者の一言で，虐待被害やいじめ被害が判明することも珍しくありません。もちろん，初対面の医療者には話せないこともあるでしょう。その場合にも決して責めたり返答を迫ったりせず，「今，無理に言う必要はないから，言えるときに教えてください」と伝え，何かの役に立てばと説明して，相談先リスト（宮崎県が作成する「このころの電話帳」リーフレットなど）を渡すといよいでしょう。また，死にたい気持ち（希死念慮）が明らかな場合や，うつ病，心的外傷後ストレス症（PTSD），摂食症など精神疾患の存在が疑われる場合には，速やかに精神科にご紹介ください。

ODをする人への対応として医療者がしてはいけないことは，叱責や一方的な指導，説教です。「二度としてはいけない」ことなど，いち

いち言われなくても知っています。叱責や指導は無意味なだけでなく，その後の受診や相談行動を減らす原因になってしまいます。また「二度とODをしない約束」も，効果はなく勧められません（Liwei et al,2024）。半ば強制された約束だけで改善することは難しく，再度ODをすれば今度は「約束を破った」と指摘されることになり，結局，医療者がODをする人を追い詰めているだけになるからです。

さいごに

ODなど，自傷をする人に寄り添うことは簡単ではありません。ODをする人の気持ちやトラウマ体験を聞くことで，治療者も疲弊したり，代理受傷を負ってしまうこともあります。治療者も孤立せずチームで対応に当たること，医療機関だけでなく，学校や行政機関など地域と連携してODをする人を支えることが必要です。今，ODをしている人も，いつかODという手段を手放して，誰かに相談したり，されたりしながら生きていける。そのまず第一歩として，先生方のお力をお借りできるなら，大変心強く思います。

表1 注意が必要な成分

成分	薬理作用など	含まれるOTC医薬品（一部）
エフェドリン	気管支拡張作用，中枢神経刺激作用，交感神経刺激作用。 過量内服では中枢神経毒性，心毒性など。	現在エフェドリンを含む製品の販売は禁止。但し生薬の麻黄の主成分。
メチルエフェドリン		エスエスブロン [®] 錠，新ルル [®] -A錠s
ブソイドエフェドリン		パブロン鼻炎カプセルS α
コデイン	鎮痛作用，鎮咳作用，止痢作用のあるオピオイド。 過量内服で呼吸抑制，けいれん発作，循環不全など。	アネトン [®] せき止め錠
ジヒドロコデイン		エスエスブロン [®] 錠，新ルル [®] -A錠s，パブロンゴールドA錠
ジフェンヒドラミン	第1世代抗ヒスタミン薬。 過量内服で抗コリン作用，鎮静作用，心室性不整脈など。	レスタミン [®] コーワ糖衣錠，ドリエル [®] ，レスタミン [®] Uコーワ錠，ウット [®]
デキストロメトルフアン	非麻薬性中枢性鎮咳薬 過量内服で多幸感，幻視，解離症状，精神症状，呼吸抑制，頻脈性不整脈など。	メジコン [®] せき止め錠Pro，新コンタック [®] せき止めダブル持続性
プロモバレリル尿素	解熱鎮痛作用，催眠鎮静作用。 過量内服で意識障害，呼吸抑制，血圧低下，発疹（臭素疹）など。	ウット [®]
アリルイソプロピルアセチル尿素		イブ [®] A錠，ウット [®] ，ノーシンピュア [®]
カフェイン	中枢神経刺激作用，気管支拡張作用，利尿作用。 過量内服で頻脈性不整脈，急性循環不全，心停止など。	エスタロンモカ [®] 内服液，エスタロンモカ [®] 12，ノーシンピュア [®]
アセトアミノフェン	解熱鎮痛作用。 過量内服で肝障害，肝不全，腎不全など。	新ルル [®] -A錠s，パブロンゴールドA錠

宮大医学部学生のページ



音楽祭実行委員長よりご報告

第23回宮崎大学医学部音楽祭実行委員会 実行委員長
宮崎大学医学部 医学科4年

やま もと ゆう こ
山 本 裕 子

令和8年6月13日(土)、清武文化会館半九ホールにて、第23回宮崎大学医学部音楽祭を開催いたしました。ご多忙の中ご来場くださった皆様、そして日頃より私たち学生の活動を温かく支えてくださっている地域の皆様に、実行委員会を代表して心よりお礼申し上げます。

今年の音楽祭は、私たちにとって決して「当たり前」の舞台ではありませんでした。改装を終えた半九ホールで、再びこの音楽祭を開催できることへの喜びがある一方で、2年ぶりのこの場所での開催、例年以上に多い出演団体、長時間にわたる進行、そして次々に発生するイレギュラーへの対応など、不安や緊張の絶えない日々でもありました。

実行委員会では、本番が近づくにつれて話し合いの回数も増え、限られた時間の中で何度も準備を重ねてきました。授業の合間や放課後など、合間を縫って集まり、遅くまで進行表を見直したり、タイムスケジュールを調整したりす

る日々が続きました。想定していたとおりには進まないことも多く、そのたびに委員全員で意見を出し合いながら、一つひとつ問題を乗り越えていきました。慣れない作業に戸惑うこともありましたが、「来てくださる方々に最高の時間を届けたい」という想いを共有していたからこそ、最後まで走り抜けることができたのだと思います。

また、今年は出演団体数も多く、それぞれ必要とする舞台設備やリハーサル内容も異なっていました。限られた時間の中で全団体が安心して演奏できるよう調整を重ねることは容易ではありませんでしたが、実行委員と出演者が互いに協力し合いながら準備を進め、本番に挑むことができました。自分たちの演奏だけでなく、「音楽祭全体を成功させたい」という想いを多くの学生が共有してくれていたことを、実行委員長として本当に嬉しく感じておりました。

当日は、すずかけ太鼓、室内楽部、管打楽器



すずかけ太鼓「大地の響き」演奏の様子

部、軽音楽部、アカペラサークルなど、総勢175名、17団体が出演しました。伝統的な和太鼓の腹の底まで響く力強い音、繊細に重なり合うクラシックの旋律、会場全体を包み込むアカペラや合唱の歌声、観客の皆様と一体となって盛り上がる軽音楽のステージ。同じ「音楽」でありながら、まったく異なる個性を持つ演奏が次々と繰り広げられ、舞台袖で聴いていた私自身も何度も胸を打たれました。

舞台袖では、本番直前まで緊張した表情を浮かべていた学生たちが、演奏を終えた瞬間に安堵したように笑顔を見せる姿がありました。仲間同士で声を掛け合い、成功を喜び合う姿を見て、この音楽祭は単なる発表の場ではなく、多くの学生にとって大切な思い出となる舞台なのだとあらためて感じました。

どの団体にも、それぞれの物語があります。初めて大きな舞台に立つ1年生の緊張、実習や勉強だけでなく他の部活動もある中で合間を縫って練習を続けてきた学生たちの努力、そして最後の音楽祭に特別な想いを込める6年生の姿。その一つひとつが音となり、会場に響いていました。今年の音楽祭は、単に演奏を披露する場ではなく、出演者一人ひとりの想いや時間が重なり合う場だったように感じています。

今年のスローガンは、「命響想楽～鼓動とともに響く音～」でした。音楽には、人の心を震わせ、寄り添い、想いを届ける力があります。そしてその響きは、演奏する側だけでは完成しません。客席で耳を傾けてくださる皆様がい初めて、一つの空間が生まれるのだと思います。

本番で演奏後に会場全体が大きな拍手に包まれた瞬間は、今でも強く印象に残っています。ステージと客席が一体となり、会場全体が大きく鼓動するように感じられたあの空気を、私はきっと忘れることができません。音楽を通して、出演者と来場者の皆様の心がつながっていく瞬間を、確かに感じることができました。

また、幕間では学祭幹部メンバーによる清花祭の紹介や、今年度卒業する出演者へのインタビューなども行い、演奏だけでは伝わらない学生たちの日常や雰囲気にも触れていただける機

会となりました。舞台上で真剣に演奏する姿だけでなく、仲間と笑い合いながら音楽を楽しむ学生たちの姿も、この音楽祭の大切な魅力の一つだと思っております。

音楽祭は、一人では決して作ることのできない舞台です。出演者、スタッフ、実行委員、そしてご来場くださる皆様、多くの人の支えがあり、たくさんの想いが集まることで、初めて形になります。今年、無事にこの舞台を皆様にお届けできたことを、実行委員長として心から嬉しく思っております。

最後になりましたが、本音楽祭の開催にあたり、多大なるご支援とご協力を賜りました地域の皆様、大学関係者の皆様、そして関わってくださったすべての皆様に、あらためて深く感謝申し上げます。

これからも宮崎大学医学部音楽祭が、音楽を通して人と人をつなぎ、地域と学生が想いを共有できる場として続いていくことを願っております。



本年度音楽祭のポスター

お知らせ

県医師会から各郡市医師会へ送付しました文書についてご案内します。詳細につきましては、会員専用ページをご覧ください。所属郡市医師会へお問い合わせください。会員専用ページを見るためにはユーザ名、パスワードが必要です。県医師会地域医療課（TEL 0985-22-5118）にお問い合わせください。

またMMA通信（県医師会から会員への情報提供メーリングリスト）でも本文書について随時お知らせしていますので、まだご登録されていない会員の方はぜひご登録をお願いします。

送付日	文 書 名
7月7日	・独立行政法人福祉医療機構の貸付利率の改定について ・「使用上の注意」の改訂について ・社会福祉法等の一部を改正する法律の公布について（通知） ・健康保険法施行令等の一部を改正する政令の公布について（通知） ・「かかりつけ医等発達障害対応力向上研修事業の実施について」の一部改正について ・健康保険証の有効期限終了に伴う今後の医療機関・薬局の受診時等の対応について ・公益法人等における事務処理の委託に係る法人税の取扱いについて ・今夏の急性呼吸器感染症（ARI）等への対策の推進について ・中東情勢を踏まえた医療用手袋の備蓄放出について ・「蚊媒介感染症に関する特定感染症予防指針の一部改正について」並びに「蚊媒介感染症に関する特定感染症予防指針の一部改正を踏まえた手引き等の改訂等について」 ・マイナンバーカード活用等に向けた積極的な周知のご協力をお願いについて（依頼） ・オンライン資格確認の導入のための医療機関・薬局への財政支援について（周知依頼） ・「医療情報システムの安全管理に関するガイドライン第7.0版」の策定について令和8年度版「医療機関・薬局におけるサイバーセキュリティ対策チェックリスト」などの改定について ・令和8年度医療情報セキュリティ研修の実施について ・第2世代（次期）顔認証付きカードリーダー等の補助金申請受付開始について（周知依頼）
7月10日	・「特別なコミュニケーション支援が必要な障害者の入院における支援について」の一部改正について ・「診療報酬の算定方法の一部改正に伴う実施上の留意事項について」等の一部改正について ・医療事故の再発防止に向けた警鐘レポートNo.6の公表について ・公益財団法人日本医療機能評価機構医療事故情報収集等事業2025年年報及び第85回報告書の送付について ・公益社団法人国民健康保険中央会運用LIFEへの移行に係る再度の周知について ・地域医療構想策定ガイドライン等について ・がん検診精密検査受診勧奨資材の記載内容の一部訂正について ・ウガンダにおけるマールブルグ病に係る注意喚起について ・「定期的予防接種等による副反応疑いの報告等の取扱いについて」の一部改正について ・日本学校保健会が主催する研修会の開催要項について（送付）

送付日	文 書 名
7月14日	・「医師確保計画策定ガイドライン～第8次（後期）～」について ・医療情報システム開発センター（MEDIS）が提供するリモート署名サービス利用料について ・労働安全衛生規則及び労働者派遣事業の適正な運営の確保及び派遣労働者の保護等に関する法律施行規則の一部を改正する省令の施行について（個人事業者等の業務上災害の報告に係る規定関係） ・救急の日ポスター及びCABDカードの送付について ・内閣府「津波防災の日」「世界津波の日」ポスターについて ・公金受取口座未登録の年金受給者に対する意向確認（「行政機関等経由登録の特例制度」）の実施について（情報提供） ・ガストログラフィンの経口・注腸用の安定供給について ・メドロキシプロゲステロン酢酸エステル錠200mg製剤の安定供給について（協力依頼）
7月17日	・地域医療構想策定ガイドラインの関連通知等について ・へき地保健医療対策等実施要綱の一部改正について ・令和8年度死亡時画像診断（Ai）研修会の開催について（ご案内） ・「World Diabetes Day（WDD）」（旧称：世界糖尿病デー）イベント実施について ・全国がん登録の届出項目の追加（被保険者番号等の収集）について（再周知） ・トレーシングレポートの活用事例に関するアンケートの実施について（協力依頼） ・介護職員等処遇改善加算に関する様式例の一部差替について ・令和8年度介護事業実態調査（介護事業経営実態調査）へのご協力依頼について（再協力依頼） ・「使用上の注意」の改訂について ・多剤耐性で重篤な感染症を引き起こす恐れのあるカンジダ・アウリスの連絡体制（情報提供及び依頼）の改正について ・ウガンダにおけるマールブルグ病に係る注意喚起について ・メチルフェニデート塩酸塩製剤（コンサータ錠18mg、同錠27mg及び同錠36mg）の薬局間譲渡・譲受に係る取扱いについて（通知） ・令和8年7月滋賀県甲賀市の土砂崩れに伴う災害により被災した要介護高齢者等への対応および被災者に係る被保険者証の提示等について ・令和8年7月滋賀県甲賀市の土砂崩れに伴う災害に係る介護報酬等の柔軟な取扱い（基準緩和等）について ・令和8年7月滋賀県甲賀市の土砂崩れに伴う災害の被災者に係る各種母子保健サービスの取扱い等について ・令和8年7月滋賀県甲賀市の土砂崩れに伴う災害の被災者に係るマイナ保険証又は資格確認書等の提示等について ・令和8年7月滋賀県甲賀市の土砂崩れに係る災害救助法の適用について

送付日	文 書 名
7月21日	・令和6年度介護報酬改定に関する通知等の送付について（その19） ・「指定居宅サービスに要する費用の額の算定に関する基準（訪問通所サービス，居宅療養管理指導及び福祉用具貸与に係る部分）及び指定居宅介護支援に要する費用の額の算定に関する基準の制定に伴う実施上の留意事項について」等の一部改正について ・中東情勢を踏まえた医療用手袋の備蓄放出における販売枚数の変更について（周知） ・「「国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態」の宣言を受けたエボラ出血熱に係る協力依頼について」別添の一部改正について ・令和8年度医薬品適正使用促進事業の周知について（依頼）
7月24日	・犯罪被害による傷病の保険給付の取扱いについて（お願い） ・日本学校保健会が主催する研修会の開催要項について（送付） ・「学校における医療的ケア実施ガイドライン【ひな形】」の公表について（情報提供） ・令和8年度のインフルエンザに係る定期の予防接種について ・電子処方箋の普及に向けた取組について ・「医療扶助のオンライン資格確認導入に係る医療機関等助成事業」について（周知依頼） ・マイナンバーカード活用等に向けた積極的な御協力をお願いについて（依頼） ・令和7年度におけるベースアップ評価料の算定金額総額の情報提供について（国保連合会及び支払基金からの情報提供） ・ナドファラゲンフィラデノベク製剤に係る最適使用推進ガイドラインの策定に伴う留意事項について ・ニバドストロセル製剤に係る最適使用推進ガイドラインの策定に伴う留意事項について ・使用薬剤の薬価（薬価基準）の一部改正等について ・疑義解釈資料の送付について（その10） ・注射用アビバクタムナトリウム・セフトジジム水和物（ザビセフタ配合点滴静注用）の適正使用に関するアンケート調査について（協力依頼） ・日医非会員の医師資格証発行手数料の改定およびICカード発行区分の追加のお知らせ ・メチルフェニデート塩酸塩製剤（コンサータ錠18mg，同錠27mg及び同錠36mg）の薬局間譲渡・譲受に係る取扱いについて ・プレドニゾロンコハク酸エステルナトリウム製剤及びベタメタゾンリン酸エステルナトリウム製剤の安定供給について（協力依頼） ・医療機関における患者の安全確保に関する厚生労働省事務連絡の発出について ・令和8年度全国介護保険担当課長会議資料について ・カルバペネム耐性腸内細菌目細菌（CRE）感染症の治療薬（フェトロージャ点滴静注用1g）の適正使用に関するアンケート調査について（協力依頼） ・「「医療計画及び介護保険事業（支援）計画における整備目標及びサービスの量の見込みに係る整合性の確保について」の一部改正について」の送付について ・厚生労働省「医療等分野における雇用仲介事業に関する調査研究事業」アンケート調査への協力をお願い

送付日	文 書 名
7月28日	・ベースアップ評価料の8月の報告に係る説明資料について ・ベースアップ評価料の「賃金改善中間報告書」に関する記載について（賃上げを令和8年4月または5月より開始したケースについて） ・ベースアップ評価料の報告書に係る作成例について ・第20回日本禁煙学会学術総会の開催について（ご案内） ・ヒアリに刺された場合の医療的留意事項について（再周知） ・夏季休暇の海外渡航者に対する感染症予防啓発について ・令和8年度厚生労働省委託事業「在宅医療の災害時における医療提供体制強化支援事業」における「在宅医療提供機関におけるBCP（事業継続計画）策定支援研修」及び「連携型BCP・地域BCP策定に関するモデル地域事業」の実施について ・令和8年度食生活改善普及運動の実施について ・「第5次食育推進基本計画」に基づく健康づくりのための食育の推進について

お知らせ

女性医師の皆様へ

無料貸出



宮崎県医師会では、妊娠中の医師に
マタニティ白衣・スクラブ・パンツの貸出をしています



妊娠されている医師の方が、心地よく快適に過ごせますよう、マタニティ白衣、スクラブ、パンツの無料貸出を行っています。妊娠後期の短い期間の着用となりますので、ぜひ貸出をご利用ください。

医師会員でない方でもお申込みいただけますので、どうぞお気軽にお問い合わせください。

詳しくは本会ホームページをご覧ください。



宮崎県医師会HP

お申込み・お問い合わせ先
宮崎県医師会 地域医療課
TEL 0985-22-5118 FAX 0985-27-6550
Mail mmm-work-in-life@miyazaki.med.or.jp

医療機関の経営者・管理者の皆様へ

医療勤務環境 改善支援センターを ご利用ください

県下の社会保険労務士と医業経営コンサルタントが県内の医療機関からの医療勤務環境の相談内容に応じて専門的な助言・支援を行います。

医療労務管理相談

- スタッフが長く、安心して働ける職場にしたい!
- 育児・介護中の休み方、働き方は?
- 医師の負担を軽減させたい…

医業経営面

- スタッフのキャリアを磨きたい!
- 補助制度を上手に活用したい。
- 効率良く、経営を安定させたい。

相談
無料



まずは、お電話ください。

宮崎県医療勤務環境改善支援センター

公益社団法人宮崎県医師会内

月曜～金曜 午前10時から午後4時まで

TEL.0985-20-1211

FAX.0985-27-6550 E-mail iryou-kinmukaizen@miyazaki.med.or.jp

日州医事原稿募集のお知らせ

日州医事では、会員の皆様から随筆、旅行記、ご意見などさまざまな投稿を随時受け付けております。以下の要領に沿ってご投稿ください。

■ 随想・随筆・旅行記

字数：3,000字以内

写真：執筆者顔写真、その他本文に関連した写真・イラストなども掲載可

■ 短歌・俳句・川柳・詩

字数：それぞれの一般的な文字数（500字以内）

写真：執筆者顔写真、その他本文に関連した写真・イラストなども掲載可

■ 宮崎グルメ探訪

題材：お気に入りのお店をご紹介します。お店の雰囲気やお薦めの料理、思い出話など

字数：800字程度

写真：執筆者顔写真、その他料理などの写真（2枚程）

※掲載は白黒

■ 私の本/私が推薦する本

題材：書物の紹介、読みどころ、執筆の思い出・思い入れなど

字数：800字以内

写真：執筆者顔写真、書物の表紙写真

■ その他

- ・夏の「はまゆう随筆」、新年の「新春随想」はその時期に本誌で原稿募集の案内をいたします。
- ・随筆などに掲載する、カット・イラストも随時募集しています。

～上記のコーナーにご投稿いただくにあたっての留意事項～

■ 掲載の可否・方法につきましては広報委員会にご一任ください。

■ 原稿の趣旨を変えない範囲で、日州医事のルールにしたがって表記などの修正をさせていただきます場合があります。

■ 日州医事は、各都道府県医師会や行政・図書館・報道機関などにも配布しています。

■ すべての投稿について

広報委員会で以下のいずれかに該当すると判断した場合には、修正または掲載をご遠慮いただくことがあります。

- ・著作権をはじめ、法令に定める権利やプライバシーを侵害するもの
- ・誹謗中傷や差別など、他の団体、個人または読者に不利益や嫌悪感を与える可能性があるもの
- ・布教や政治活動など、特定の宗教上や政治上の信条に偏ったもの
- ・公序良俗に反し、法律で禁止されている行為など、その他不適切と判断されるもの
- ・事実誤認、難解、過度な宣伝広告など

【原稿送付・問合せ先】 ご投稿は主にメールで受け付けております。

宮崎県医師会広報委員会 日州医事担当（小川）

Tel 0985-22-5118 Fax 0985-27-6550 E-mail genko@miyazaki.med.or.jp

あとかき



広報委員を拝命して、早数か月。季節は私の最も好きな夏になりました。宮崎らしい暑い日が続いておりますが、皆様はいかがお過ごしでしょうか。

私は、関東から宮崎にUターンしてきて8年目を迎えました。宮崎に戻ってすぐにコロナ禍でしたので、いろいろなことがオンラインで行われることになり、現地に

行かなくても学会の単位が取れるなど恩恵にあずかっている面もありますが、来て早々に人と会う機会が少なくなってしまったのは事実です。それに加えて、2022年の秋には開業もさせていただき、以降は総合病院を離れましたので、他科の先生方と交わる機会も少なくなっているのが現状です。ですので、まだまだ宮崎の医療事情に疎いところがあるのも否めません。

そんな中、医師会の広報委員へのお誘いがあり、一瞬「日常診療もままならないのに、大変そうだな」という思いが頭の中をよぎりましたが、宮崎の医療の現状を把握することや、他科の先生方と情報交換をするよい機会に恵まれたと考え、僭越ながらお引き受けさせていただきました。

日州医事は、以前から診療の合間に読ませていただいておりますが、有益な情報が多いだけでなく、随筆やエコー・リレーなど楽しい読み物も掲載されています。今後も、皆様に有益で適切な情報・読み物を提供できるよう努めさせていただきたいと思います。

最後に、私はこの8月で51歳を迎えます。年齢に相応しい格好のよさを身につけたいと思う今日この頃です。

(川畑)

* * *

7月初め、夫婦で鬼怒川と日光を訪れました。鬼怒川温泉には、バブル期の繁栄を物語る巨大ホテルが、経営破綻後も渓谷沿いに廃墟として静かに残されています。一方、日光東照宮では400年を超えて守り継がれた建築が今なお多くの人々を魅了しています。同じ時間の流れの中で、一方は失われ、一方は受け継がれてきました。医療もまた、目先の効率だけでなく、次の世代へ何を残すかという視点が大切ではないかと感じました。旅は日々の診療に向き合うためのよい充電にもなりました。(永野)

* * *

夏真っ盛りとなりました。皮膚科診療所では夏になると、汗や紫外線による皮膚トラブル、水虫、とびひなどの表在性皮膚感染症、虫刺されなどで受診される患者さんが増え、一年で最も忙しい時期となります。疲れを感じることもあります。患者さんも貴重な時間を作って受診され、長い時間お待ちいただいていることを思うと、忙しいときこそ丁寧な診察と説明を心がけ、少しでもご納得いただいております。そして健やかな夏を過ごせるよう少しでもお手伝いができればと思います。私自身も健康管理に気を配りつつこの夏を乗り切りたいと思います。(持田)

* * *

7月下旬に風邪をひき、頻回の下痢や鼻水が続きました。1週間で約3kg体重が減り、実習期間中でしたが外来見学に行く気力も湧かず、クリクラ室で

過ごす時間が多くなりました。身体がつかいだけでなく、気持ちまで落ち込み、何をしてもうまくいかないように感じました。心と身体は自分が思っていた以上に深くつながっていて、患者さんの健康を支えるために、まず自分自身が健康であることが大切なのだとあらためて感じました。暑い夏が続きますが、体調管理には気をつけていきましょう。(野間)

* * *

現在は8月のOSCE、9月のCBTに向けて勉強に励んでいます。特に7月はOSCE対策として、多くの先生方にご指導いただき、大変充実した時間を過ごすことができました。初めてスクラブに袖を通し、自分の聴診器を手にしたことで、医師への憧れや学習へのモチベーションも一層高まっています。暑い日が続きますが、体調管理にも気を配りながら、一つひとつの学びを大切に頑張っていきたいと思います。(富田)

* * *

今年6月から日州医事の編集委員を務めることになりました。いろいろ勉強させていただきたいと思っています。私の今年最大の目標は富士山に登ることです。8月のお盆休みを利用して次男と一緒に登る予定です。スポーツドクターと名乗っておりますが、メタボで運動不足です。春に登った高千穂の峰でヘトヘトになり、今から心配ですが富士山頂から見る景色を楽しみにトレーニングに励みたいと思います。(河原)

(河原)

今月のトピックス

日州医談 宮崎県移植推進財団について

深刻なドナー不足の現状と、県内の移植医療を支える宮崎県移植推進財団の地道な取組みが紹介されています。「臓器提供の意思表示」という、私たち一人ひとりにできる第一歩について、あらためて考えさせられます。

4ページ

はまゆう随筆 「データ」を見る隙間に流れる時間を診る～宮崎の空の下で

効率化が進む現代医療の中で、「泥臭くて温かい言葉を交わす隙間」の大切さを綴ったエッセイです。5歳の冬に誓った原点と、長年医療現場を駆け抜けてきた筆者の「現在地」から紡がれる言葉が胸に残ります。患者さんの「生きた物語」に寄り添う医療の本質を、あらためて考えさせられる一編です。

12ページ

宮崎グルメ探訪 寿司処 はっとり

江戸っ子にして筋金入りの釣り師である筆者が、「やっぱりここだ」と太鼓判を押す名店「寿司処はっとり」をご紹介します。「旨い。ただこの一言に尽きる」とうならせる大将の握りと、隅々にまで行き届いた職人の佇まい。読み終わるころには、無性に寿司が食べたくなくなっているはずです。

15ページ

宮崎大学医学部だより 感染症学講座－免疫学分野－

開講13年目を迎えた免疫学分野の佐藤克明教授より、最新の研究成果と教育への熱い思いをお寄せいただきました。免疫系の司令塔である「樹状細胞」を中心に、がんや感染症、免疫疾患の解明に挑む研究の最前線が紹介されています。次代を担う医療人の育成に力を注ぐ教室の熱気も伝わってきます。

28ページ

診療メモ 医薬品の乱用（オーバードーズ）について

近年、若者を中心に社会問題となっている市販薬のオーバードーズ。その背景にある「見えない心の痛み」と、私たち医療者がどのように向き合い、寄り添うべきかを実践的に解説しています。「叱責ではなく共感を」。明日からの診療や声かけのヒントとなる、示唆に富んだ内容です。

80ページ

宮大医学部学生のページ 音楽祭実行委員長よりご報告

改装された半九ホールに響き渡った「命響想楽」。総勢175名が出演した宮崎大学医学部音楽祭の舞台裏を、実行委員長が熱く報告します。数々の困難を乗り越え、出演者と観客が一体となった感動のステージ。音楽を通して人と人との心がつながる瞬間を、生き生きと伝える一編です。

82ページ

(文責：下窪 徹)

日 州 医 事 第924号 (令和8年8月号) (毎月1回10日発行)

発行人 公益社団法人 宮 崎 県 医 師 会 会長 河野 雅行

〒880-0023 宮崎市和知川原1丁目101番地 TEL 0985-22-5118(代)・FAX 27-6550
https://www.miyazaki.med.or.jp/ E-mail: office@miyazaki.med.or.jp

編 集 宮崎県医師会広報委員会

委 員 長 永野 元章

副 委 員 長 下窪 徹, 高村 一紘

委 員 高橋 聡, 川畑 武彦, 竹尾 輝久,
池田 俊郎, 持田 幸代

学 生 委 員 野間 貫太, 安丸 佳苗, 富田あさひ, 日高 想大

担当副会長 金丸 吉昌

担 当 理 事 田畑 直人, 高木 純一, 河原 勝博, 児玉 由紀

事 務 局 学術広報課 小川 道隆, 久永 夏樹

印刷所 有限会社 中川印刷 落丁・乱丁の際はお取り替えいたします。

定 価 350円 (但し、県医師会員の購読料は会費に含めて徴収してあります)